国立大学法人豊橋技術科学大学

グローバル工学教育推進機構 (IGNITE)

国際協力センター (ICCEED)

国際交流センター (CIR)

国際教育センター (CIE)

平成 28 年度 活動報告書

Annual Report - Fiscal Year 2016

Institute for Global Network Innovation in Technology Education (IGNITE)

Toyohashi University of Technology

International Cooperation Center for Engineering Education Development (ICCEED)

Center for International Relations (CIR)

Center for International Education (CIE)

目　次

■ グローバル工学教育推進機構長　挨拶 …… 1

国際協力センター(ICCEED)

■ 国際協力センター長 挨拶 …… 5

1. 国際協力センターの概要 …… 6

2. 国際協力センターの平成 28 年度活動内容（総論） …… 7
(1) 第 3 次中期計画の認可、導入
(2) 国際協力センターの実施体制
(3) 国際協力センターの事業戦略・活動方針

3. 国際協力センターの平成 28 年度活動内容（個別） …… 9
3-1　政府開発援助（JICA）事業の実施を通じた活動
(1) JICA 課題別研修 クラスター・アプローチによる地域産業振興
(2) JICA 国別研修 日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修「電子回路・計測制御」
(3) JICA ASEAN 教育ネットワーク(AUN/SEED-Net)留学生受入、教員派遣
(4) JICA マレーシア日本国際工科院（MJIIT）
(5) JICA ハサヌディン大学（UNHAS）工学部研究・連携基盤強化
(6) JICA モンゴル工学系高等教育支援（M-JEED）
(7) JICA アフガニスタン未来の懸け橋・中核人材育成（PEACE）
(8) JICA アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABE イニシアティブ）
(9) JICA イノベーティブアジア

3-2　本学独自の事業　ー海外教育機関・研究所との連携事業ー …… 14
(1) ポリテクニック教育高度化支援
(2) アセアン諸国大学学長会議

3-3　グローバル化事業基盤整備 …… 15
(1) 国際戦略の改定
(2) 大学間交流協定管理
(3) 海外事務所運営・管理

3-4　スーパーグローバル(SGU)大学創成支援事業 …… 18
(1) 国際化関連
(2) ガバナンス改革関連
(3) 教育改革関連

(4) 大学独自の成果指標と達成目標
(5) 大学の特性を踏まえた特徴ある取組
(6) 平成 28 年度取り組みの総括

4. ICCEED 運営協議会 …… 22

国際交流センター(CIR)

■ **国際交流センター長 挨拶** …… 25

1. 教育活動 …… 26
(1) 海外留学体験報告会
(2) 集中講座
(3) 日本語研修コースⅠ（初級）
(4) 日本語研修コースⅡ（初中級）
(5) 日本語補講：Basic Japanese

2. 留学生相談・支援 …… 29
(1) 留学生相談
(2) 学業相談会
(3) 留学生のための就職支援
(4) 留学生のための日本語能力試験等説明会
(5) 外国人留学生ガイダンス
(6) 留学生引っ越しセミナー

3. 留学生交流 …… 31
(1) センター主催行事一覧
(2) 国際交流デー
(3) 留学生学外研修
(4) 地域交流

4. 国際交流 …… 33
(1) ニューヨーク市立大学学部生受入プログラム/CUNY Exchange Program
(2) 高校生招へいプログラム（受入）
(3) 国際研修プログラム（受入）
(4) 特別推薦入学者等の海外研修（派遣）

5. 資料 …… 36
5-1 在学留学生状況
(1) 外国人留学生受入状況
(2) 外国人留学生宿舎状況
(3) 奨学金受給状況

5-2　国際交流センター状況 …… 38
(1) CALL 教室および自習室利用状況
(2) 平成 28 年度に導入した主な機器及び教材
(3) 行事一覧
(4) スタッフ出張報告一覧

国際教育センター(CIE)

■ **国際教育センター長 挨拶** …… 45

1. プログラム …… 46
(1) 海外実務訓練（グローバル人材教育システム）
(2) 教員グローバル人材育成力強化プログラム（長期 FD）
(3) 職員グローバル人材育成力強化プログラム（短期 SD）
(4) 海外同窓生交流会

2. 国内会議 …… 55
(1) 国際教育センター（CIE）会議
(2) 三機関連携・教育改革推進室会議
(3) 三機関連携・海外展開検討部会・FD 等検討部会（グローバル部会）合同会議
(4) 国際教育センター運営協議会

3. マレーシア教育拠点（ペナン校）の活動 …… 56
(1) 所在地
(2) TUT-USM 協議会
(3) 4th IGNITE2016 国際会議
(4) ペナンだより

4. その他 …… 76
(1) 高専生のペナン研修
(2) アセアン諸国大学学長会議

IGNITE の取り組み

1. IGNITE セミナー …… 81

2. オープンキャンパス …… 84

IGNITE の組織体制

IGNITE 委員会委員/IGNITE 構成員/国際課職員 …… 85

挨　　拶

豊橋技術科学大学　理事・副学長
グローバル工学教育推進機構長
井　上　　光　輝

本学は、平成 24 年度から開始した文部科学省「国立大学改革強化推進事業」で、長岡技術科学大学および国立高等専門学校機構と連携して、「グローバルに活躍しイノベーションを起こす人材の育成」を進めてきました。本学はグローバルの部分を担当としたことから、平成 25 年度に国際協力センター、国際交流センター、国際教育センター、及びマレーシア教育拠点（ペナン校）を包含するグローバル工学教育推進機構（Institute for Global Network Innovation in Technology Education: IGNITE）を本学に設置しました。国際協力センターは国際協力機構（JICA）などの学外関連機関との連携を主な役割とし、国際交流センターと国際教育センターはそれぞれ、学内・学外の国際的活動を主な役割としてきました。またペナンに設置した海外教育拠点では、海外実務訓練や教員 FD、職員 SD、学生の短期研修の場として活用されると同時に、アセアン諸国との連携を深める役割も担ってきました。

平成 26 年度には、スーパーグローバル大学創成支援事業（タイプ B）に採択され、上述した活用に加えて、「グローバル技術科学アーキテクト（GAC）」養成コースの新設や、多様な価値観の学生が生活を共にする TUT グローバルハウスの設置、さらに教職員・学生の重層的なグローバル人材循環の活動を開始しました。この事業は、IGNITE にスーパーグローバル大学推進室を設置し、３センター１海外教育拠点とも連携しながら推進してきました。また、本学の大学憲章に基づく大西プランには「多文化共生・グローバルキャンパスの実現」を掲げ、さらに第３期中期目標・中期計画の重要な柱の一つとして、大学全体のグローバル化が図られてきました。

平成 28 年度はこれらの組織整備が完了し（TUT グローバルハウスはさらに平成 29、30 年度にも建築予定）、様々な取り組みが具体的な数値成果として現れてきました。例えば、平成 24 年度では海外で実務訓練を行う学生はほとんどいませんでしたが、平成 28 年度では 50 人を超える学生がペナンなどの海外で実務訓練を行うようになりました。ショートプログラムで海外に出かける学生の増加や、逆に海外から本学にやってくる外国人学生数の増加も眼を見張るものがあります。GAC をきっかけとして全学で開始した英日バイリンガル講義も試行段階を終え、いよいよ平成 29 年度には本格稼働に移ります。海外で FD、SD を行う教職員数も大幅に増加しました。上述したペナン校では、アセアン諸国の大学長を招聘してアセアン諸国大学学長会議を本学が主催し大きな成果が得られました。その他にも多くの事柄が「グローバル」をキーワードに繰り広げられています。

これら取り組みの成果は、今後 10 年あるいは 20 年先の本学の姿に反映されると信じています。平成 28 年度は本学の創立 40 周年を記念する年でもありますが、この年を起点とする新しい豊橋技術科学大学の形成に資する重要な取り組みとなっていることは間違いありません。本報は、IGNITE 専任・兼任教員、ならびに多くの本学教職員の不断の努力による活動成果を総括的に報告するものです。これら IGNITE 活動に協力いただいている教職員の皆様に深く感謝申し上げます。

国際協力センター(ICCEED)

International Cooperation Center for Engineering Education Development (ICCEED)

国際協力センター長　挨拶

教 授　　穂 積　　直 裕

今日の社会の急速なグローバル化を背景に、地球規模での資本や情報、製品や労働力の移動が、従来の国と国との関係を越えて、大きな流れで起こっています。この著しい変化は、我が国の産業を牽引する先導的日本人技術者に要求される資質に大きな変革をもたらしています。

その要求に応えるグローバル技術者、すなわち、グローバル社会の多様性を理解し、異なる文化・価値観を持つ人々と共に課題を共有し、社会との接点の中で技術を捉えて課題を分析するとともに、解決策を創造し、判断と意思決定を行い、具体的なもの作りに導く、実践的創造的かつ指導的技術者を育成することが求められています。また、研究活動の面からは、融合研究を軸に世界トップレベルを目指すため、研究者の多様化・多国籍化を進め、発想の多様性を向上させる必要があると考えます。

これらの実現に向けて、例えば外国人留学生を出身国の発展に貢献する人材として教育することはもとより、互恵関係を基調として我が国産業の発展や社会の国際化にも貢献できる人材として活躍してもらうことが重要です。帰国後も関係を継続し、双方が抱える多様な課題について協働して取り組む上では、個人を超えた組織的な繋がりを深めることが不可欠になってきます。国際協力は、そのような教育・研究のグローバル化を進める上で重要な手段の一つです。本学では効果的な事業を形成し、積極的に取り組んでいます。

平成 28 年度に改訂した「豊橋技術科学大学国際戦略 2017」では、これからの本学のあるべき姿として、「多文化共生・グローバルキャンパスを有する大学」を描き、これを具体化する取組姿勢が示されています。こちらは本学ホームページからご覧いただけますので、是非一度目を通していただきたいと思います。

上記国際戦略のもと、国際協力センターはその活動の柱として、

１．国際協力諸事業の企画、獲得、実施、推進
２．海外の教育研究機関との連携強化及び新たな連携先の開拓
３．大学交流協定等に係る包括的業務
４．海外の連携機関に対する高度化支援

を掲げております。平成 28 年度は新しい奨学金制度など留学生受入のための多様な支援スキームの開拓・確保、途上国の人材育成を目的とした各種研修などを進めました。また、アセアン諸国大学学長会議の開催に参画し、アジアの教育研究機関との連携強化を図りました。これらは、本学が指向する多文化共生・グローバルキャンパスの実現にも繋がるものと考えております。具体的な内容を、平成 28 年度の活動報告として取りまとめました。この先の新しいミッションの遂行にあたり、引き続き当センターへのご理解とご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

1. 国際協力センターの概要

本学は昭和 51 年の開学以来、「大学の国際化」を重要なテーマの一つとし、その一環として工学教育・研究の国際協力に尽力してきた。その取り組みが評価され、文部科学省によるわが国各分野における国際教育協力センター設置構想の実現に際し、工学分野については平成 13 年 4 月に「工学教育国際協力研究センター（International Cooperation Center for Engineering Education Development: ICCEED)」が本学内に設立された。以来、工学分野・国際協力プロジェクトの開発研究、国際協力人材の育成、オープンフォーラムやセミナーによる課題検討／情報提供を通じた理解促進等、様々な活動を展開してきた。その後、平成 16 年 4 月の大学法人化を経て、平成 22 年 4 月、ICCEED は従来の目的に加えて、「本学の国際的な連携・交流を促進し世界に開かれた大学への展開を推進する」、との新たな目的を併せ持つこととなった。更に、平成 25 年 10 月には本学の「国際競争力の強化」と「グローバル人材の育成」を一元的に担う組織として「グローバル工学教育推進機構（IGNITE)」が設立され、ICCEED は「国際交流センター（CIR)」、「国際教育センター（CIE)」、「マレーシア教育拠点（ペナン校)」とともに IGNITE を構成する学内組織である「国際協力センター（英文名称としては ICCEED を継承)」へと再編された。この際、ミッションが再定義され、本学の国際戦略目標（H27 年 3 月 23 日に「国際戦略 2014-2015」を制定）及び国際貢献の実現のため、国内外の多様なパートナーとも連携し、大きく以下の 4 つの活動を効果的に進めていくこととなった。

活動の柱	１．国際協力諸事業の企画、獲得、実施、推進
	２．海外の教育研究機関との連携強化及び新たな連携先の開拓
	３．大学交流協定等に係る包括的業務
	４．海外の連携機関に対する高度化支援

2. 国際協力センターの平成 28 年度活動内容（総論）

（1）第 3 次中期計画の認可、導入

国立大学法人として平成 28 年度より 6 年間の第 3 期中期目標期間となり、第 3 期中期計画（「国立大学法人豊橋技術科学大学の中期目標を達成するための計画（中期計画）」）が平成 28 年 3 月 31 日に文部科学大臣の認可を得た。ICCEED の活動も上記の第 3 期中期目標及び第 3 期中期計画の下で実施されることとなった。具体的には本学の第 3 期中期計画の内、グローバル化に関する目標達成の措置として策定された以下の２つの目標を主に担うことになった。

①グローバル工学教育・研究を推進する組織を中心に、交流協定校等との連携を強化し、重層的なグローバル人材循環を実施するとともに、大学の国際的通用性を高め、教員及び研究者の海外派遣率 60%、職員の海外派遣率 20%以上を達成する。

②JICA(独立行政法人国際協力機構)等の国内外諸機関の支援プロジェクト等を積極的に活用し、教育・研究・産学連携等の国際プロジェクト事業を第 2 期の実績と比較し増加させる。

なお、これらの目標は国際協力センター単独で達成できるものでなく、学内の他の機関と連携し達成を目指していくものであり、また、国際協力センターは第 3 期中期計画の他の目標、特にグローバル化達成に関する目標には他の機関に積極的に協力、支援を行っていく。

（2）国際協力センターの実施体制

平成 28 年度 ICCEED は昨年度に引き続き、専任教員 4 名、兼務教員 4 名、客員教授 1 名、事務職員 2 名の体制で事業を実施している。また、「スーパーグローバル大学創成支援事業」（文部科学省）の採択（H26 年 9 月）に伴い、「スーパーグローバル大学創成事業推進本部」及び「同事業推進室」が設置され、ICCEED 副センター長が「副本部長」および「推進室長」を兼務。関連業務は同推進室において実施している。ICCEED の運営は、「国際戦略本部会議」における戦略、諸問題への対応に関する協議を踏まえ、「グローバル工学教育推進機構委員会（IGNITE 委員会）」でその方針や個々の活動が審議・承認される。また、本学内部規定により、ICCEED の基本方針その他の事業の実施に係る重要事項は、文部科学省、大学、高等専門学校及び開発援助機関等からの代表者である学外委員を含めた「豊橋技術科学大学国際協力センター運営協議会」において審議される。本学の国際協力活動については ICCEED が一貫して実施するものと、留学生の受入等 ICCEED 以外の教員や他の機構が行い、ICCEED は企画機能、外部関係機関との窓口機能、或いは学内外の関係者間の調整機構を務めるケースがある。　特に後者の場合においては円滑な連絡・調整体制を確保し、効率的・効果的な事業の実施を図るため、各系及び事務部門からの参画を得て事業毎のワーキンググループを形成する事業もある。

（3）国際協力センターの事業戦略・活動方針

1）経営戦略に合せた事業の優先順位付けと関連国際事業との連携

ICCEED が事業を進める上で以下の 2 点が現実的かつ恒常的な課題となっている。①ICCEED の活動を専任で行う教員の数が少なく、体制が必ずしも十分でないこと。②大学のミッションとしての教育、研究と異なり、学内教員の中で国際協力に参画することの理解が限定的であること、また、理解をしていても国際協力に時間を割くことが難しいと感じている教員が多いこと。

国際協力に対する理解促進は大学の国際戦略や ICCEED で実施する IGNITE セミナー等を通じて徐々に

向上していくことが期待されるが、当面 ICCEED 自身の限られた実施体制と学内の限られた協力体制で事業を効率的に実施し、最大の効果を出す努力が求められる。

効率的に事業を行うために事業の優先順位を付し、必要に応じ事業の取捨選択を行うこととした。第3 期中期計画を踏まえつつ、具体的には経営戦略の重点課題の一つである留学生の獲得につながる国際協力事業を最優先事業として実施した。経営戦略上の重点課題であれば学内の協力も得やすく、また、留学生獲得については結果が可視化できることから関係者の納得を得やすく、効果を最大化しやすい。ただし、継続的に留学生を獲得していくためには直接的に留学生獲得につながる事業のみならず、間接的に効果がある事業（JICA の各種研修事業や技術協力プロジェクトに対する支援）も丁寧に実施するよう努めることとした。

効率的・効果的に事業を推進するための 2 つ目の点として、グローバル工学教育推進機構（IGNITE）に属する他の機関、国際交流センター（CIR）、国際教育センター(CIE)及び事務局組織の国際課との連携を重視した。これら機関とは共通のミッションを有しており、個別事業においても関係する事業が多く、相互に関係する事業ほど経営上の重点事業といえる。

また、相互に協力することで ICCEED の活動上の大きな制約である人員体制の脆弱な面を補完することになる。平成 28 年度事業の中では 12 月に CIE、国際課等と共同で実施したアセアン諸国大学学長会議は関係機関と協力して成果をあげた事業の好例と言える。アセアン諸国大学学長会議は様々な目的を有していたが、ICCEED にとっては活動の柱の内の「２．海外の教育研究機関との連携強化及び新たな連携先の開拓」という目的を効率的に推進することができた。

2）途上国の協力ニーズの把握と本学の強みを生かした国際協力事業の推進

本学は工学教育・研究の分野での国際協力の歴史と実績を有し、国内外から一定の評価を得てきており、この評価を維持、発展させるためにも、この分野での国際協力に対する本学への期待に応えていくことが重要となる。また、工学教育・研究の分野でも、途上国からのニーズが高く、本学が他の大学と比べても強みを持っている分野や内容に国際協力事業をシフトしていくよう努めることとした。これにより国際協力の成果をより発現する、本学の国際協力に対する評価が高まることが期待される。

多くの国際協力事業は独立行政法人国際協力機構（JICA）を通じて実施するため JICA 本部の関係部署及び JICA 中部との意見交換を随時実施し、JICA の高等教育分野を始めとした各分野の協力方針や本学に対する期待を聴取するとともに、本学の特徴についても説明を行った。これら意見交換を通じて、途上国の国際協力ニーズ及び JICA の事業方針と本学の強みや特徴とのマッチングを図る努力を行った。国際協力事業は複数年度に亘り継続的に実施されるものが多く、平成 28 年度の JICA と協力した国際協力事業が大きく変わるものではないが、新規の事業や将来の予定事業には意見交換の結果が反映されていくように努めた。

政府の ODA（政府開発援助）の方針として、平成 27 年 11 月に「開発協力大綱」が制定され、その中で重点政策（課題）の最初に経済成長が謳われており、職業訓練・産業人材育成、科学技術・イノベーション促進、情報通信技術（ICT）や先端技術の導入などが具体的な課題として列挙されており、本学として貢献が期待される分野が多い。ただし、産業振興を通じた経済成長は途上国の共通の課題ではあるものの、協力ニーズは各国の経済発展の状況等に応じて異なることから、ICCEED が JICA との協議の窓口となり、協力のテーマや具体的な協力内容について検討を行っている。

3. 国際協力センターの平成 28 年度活動内容（個別）

3-1 政府開発援助（JICA 事業）を通じた活動

(1) JICA 課題別研修　クラスター・アプローチによる地域産業振興

国際協力機構（JICA）の技術協力事業である本研修を、平成 28 年 10 月 7 日（金）から 11 月 4 日（金）まで、本学の国際協力の取り組みとして受託し、開発途上国における地域の産業振興の方策として、日本のクラスターに対する取り組みを学ぶことを通じて、現地の実情に合ったクラスター・アプローチを習得することを目的に実施した。

研修の様子

６ヵ国 11 名の研修員は、日本におけるクラスターに対する取り組みを、クラスターの概念理解、中央・地方政府の政策から、政策立案、実施機関の具体的な活動に至るまでの、一連の取り組みを学ぶことのできる研修項目で構成したプログラムに参加した。

第 1 週目を各研修員の個別課題の抽出と共通課題の確認、第 2 週目をクラスターのライフサイクルとアクターの役割、第 3 週目を多様なクラスター事例等、第 4 週目を総括という 4 つのテーマで各週を構成し、各研修員が段階的にクラスターや地域産業振興に対する理解を促進できるプログラムで実施した。

また、クラスターの関係者間の相互利益を保護するための関連専門知識である知的財産権についての講義も導入し、クラスターの振興に資する関連知識が習得でき、研修員各自の参加目的を満たすことのできるプログラム内容であるとの評価を多くの参加研修員から得た。

視察の様子

平成28年度JICA課題別研修の研修員

地域	国	所属機関	人数
アジア	インドネシア	大学・政府	2名
	ベトナム	政府	2名
	カザフスタン	政府	1名
アフリカ	チュニジア	政府	3名
	ケニア	大学	2名
中南米	メキシコ	産業支援機関	1名

(2) JICA 国別研修　日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修「電子回路・計測制御」

グローバル化が進展し、国際競争が激化する中、メキシコと日本両国の社会経済安定及び国際社会の地球規模課題に対応するため、協力関係を強める必要を認識し、平成 22 年 2 月「戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画」が確立された。

豊橋技術科学大学は、JICA より協力依頼を受け、JICA の「中小企業・裾野産業競争力強化プログラム」に対応し、世界各国の自動車産業関連企業が進出しているメキシコにおいて、電子制御等の技術が不可欠である現代の自動車産業におけるサプライヤーの育成や技術力向上、それらの知識と技術を有した人材の育成に貢献することを目的とした研修「電子回路・計測制御」を受託し、平成 28 年 5 月 6 日（金）から 11 月 25 日（金）まで、サン・ファン・デル・リオ工科大学の教員 2 名を受入れ、実施した。

研修員は、基礎理解、企業訪問等、課題解決で構成された研修プログラムの中で、位相検波回路を中心とした回路設計を行うとともに、検品システムの応用実験として食品の状態モニタを目的とした搬送、検査、仕分けに関する全体システムの概念設計を通じて電子回路の設計・実装について学び、高速で液体を搬送するための最新の制御技術について学ぶとともに、実際にアルゴリズムを作成し、実装してその効果を確認する実験を通じて制御理論及び技術について学んだ。

食品の状態モニタリングを想定し超音波の授受によりパッケージの振動状態を検出する測定系を設計、実装することを通じて、超音波技術の基礎理論、仕組及び技術に対する基礎理解を深めた。

上記で得た知見をもとに研究課題である発酵乳の製造過程における状態モニタリングを搬送装置、打突装置と電子回路の実装を通じて進めた。研修員が構築したシステムは概ね想定通り作動し、発酵乳の製造プロセスモニタリングへの適用性が示唆されたが、時間的な制約もあり発酵状況等の判断の基準のピーク強度などに対する課題が残り、帰国後の持続的な関係構築のために、共同研究の課題として実施することとした。

研修期間中には、日本の「ものづくり」や「カイゼン」のコンセプトを理解するため、株式会社バイナスにおける PLC（プログラマブルコントローラー）および各種ロボットアームの基礎と実際の取り扱いに関する現場研修を行うとともに、株式会社デンソー技研センター、トヨタ自動車株式会社本社工場、アスモ株式会社、本多電子株式会社を訪問し、日本の製造業の現場や新技術の開発状況を視察した。　研修員が帰国した後、平成 28 年 12 月 5 日（月）と 6 日（火）に、研修員の所属機関であるサン・ファン・デル・リオ工科大学を穂積直裕センター長が訪問し、研修後の進捗状況の確認とフォローアップを実施した。

企業実習の様子

研修員は、帰国後に応用可能な電子回路・制御技術の知識と技術が研修プログラムを通じて、蓄積することができたと評価している。

(3) JICA ASEAN 教育ネットワーク(AUN/SEED-Net)留学生受入、教員派遣

【概要】

アセアン工学系高等教育ネットワーク(AUN/SEED-Net: ASEAN University Network/Southeast Asia Engineering Education Development Network)は、東南アジアと日本が持続的に発展する社会となることを目指し、工学分野の革新的で高度技術を有す人材を育成するため、東南アジア諸国連合 (ASEAN)に加盟する 10 か国の工学系トップ 26 大学、本邦 14 支援大学のメンバーにより構成されている。

ASEAN 域内の工学分野における人材育成、各大学の研究教育能力の向上、学術交流を中心としたネットワークの構築を目指した活動が展開されている。

本プロジェクトにおいて、本学は第 1 フェーズ（H15 年 3 月～H20 年 3 月）で国内支援委員を務め、第 2 フェーズ（H20 年 3 月～H25 年 3 月）ではチーフアドバイザー（故・堤和男名誉教授）の役目を担い、第 3 フェーズ（H25 年 3 月～H30 年 3 月）では工学系高度人材の輩出と 10 ある工学系分野の材料工学の分野の幹事大学、機械・製造及び情報工学の分野の副幹事を担当し、担当分野の支援大学としての役割を担い、メンバー大学の教員や学生を博士前期課程・博士後期課程に受入れを行っている。

また、本学はプロジェクト活動への参画と貢献が評価され、平成 23 年 7 月に JICA 理事長賞を受賞した。

【平成 28 年度の活動】

材料工学、機械・製造及び情報工学を担当していることから、各分野での地域会議、運営指導調査（材料工学、機械製造）へ参加した。平成 28 年 10 月にカンボジアとミャンマーの学生 2 名が SEED-Net の奨学金を得て本学博士後期課程（電気・電子情報工学系専攻）への入学を果たした。

AUN/SEED-Netメンバー大学

ASEAN（10ヵ国26大学）	
国	**メンバー大学**
インドネシア	バンドン工科大学、ガジャマダ大学、スラバヤ工科大学、インドネシア大学
カンボジア	カンボジア工科大学
シンガポール	国立シンガポール大学、ナンヤン工科大学
タイ	チュラロンコン大学、モンクット王工科大学ラカバン校、ブラパー大学、カセサート大学、タマサート大学
フィリピン	フィリピン大学ディリマン校、デラサール大学、
	ミンダナオ国立大学ーイリガン工科大学
ブルネイ	ブルネイ大学、ブルネイ工科大学
ベトナム	ハノイ科学技術大学、ホーチミン市工科大学
マレーシア	マレーシア科学大学、マラヤ大学、マレーシア・プトラ大学、マレーシア工科大学
ミャンマー	ヤンゴン大学、ヤンゴン工科大学
ラオス	ラオス国立大学
日本の14支援大学	
北海道大学、東北大学、慶應義塾大学、京都大学、九州大学、名古屋大学、政策研究大学院大学、大阪大学、芝浦工業大学、東海大学、東京工業大学、東京大学、早稲田大学、**豊橋技術科学大学**	

(4) JICA マレーシア日本国際工科院（MJIIT）

【概要】

マレーシア日本国際工科院（MJIIT; Malaysia-Japan International Institute of Technology）は、マハティール元首相が提唱した「東方政策」の集大成として、マレーシアに日本型工学系大学を設立する構想に基づいたものである。日本の工学教育の特徴の一つ、研究室活動を軸にした「講座制」を取り入れ、応用力や研究開発能力を身に付けた高度な人材を育成するため、平成 23 年 9 月に開校した。

本学は、MJIIT の支援大学として会合への参加等を通じて、国際協力における実績と高等専門学校との連携や大学院までの一貫教育により高度技術人材を輩出してきたシステム・知見を活かし、マレーシアにおける日本型の工学教育を通じた高度技術人材の育成への貢献を期待され、参画している。

25 の本邦支援大学により構成されるコンソーシアムメンバーは、4 つの工学分野（電気・電子コンピュータ／機械精密／環境クリーン技術／技術経営学）、日本人教員の現地派遣の選考、学生や現地関係者の受入（短期を含む）に対して、支援を行っている。

本学は、コンソーシアムメンバーとして機械精密及び電気・電子コンピュータ工学分野で設置されている小委員会のいずれかに参加することを表明しており、プロジェクトへの参画を継続的に進めている。

【平成 28 年度の活動】

平成 28 年度は、コンソーシアム会合へ参加（2 回）し、プロジェクトの運営等について意見交換を行った。会合では、外務省より ODA による支援が次期フェーズで終了することから、メンバー大学の積極的な協力の必要性が提起された。

MJIITのコンソーシアムメンバー

本邦支援大学コンソーシアムメンバー（正式参加）
九州大学、慶応義塾大学、埼玉大学、芝浦工業大学、拓殖大学、東海大学、東京農工大学、名古屋工業大学、長岡技術科学大学、北陸先端科学技術大学院大学、明治大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、大阪大学、山口大学、近畿大学、東京工科大学、東京電機大学、東京理科大学、岡山理科大学、九州工業大学、金沢大学、**豊橋技術科学大学**、山形大学、筑波大学（正会員25大学）
政府関係
外務省、文部科学省、経済産業省、日本商工会議所、JICA（準会員5機関）

(5) JICA ハサヌディン大学（UNHAS）工学部研究・連携基盤強化

【概要】

本プロジェクトは、平成 21 年 2 月以来、東部インドネシア地域の拠点大学の一つとして、ハサヌディン大学工学部の教育研究能力の基盤強化を目的として、実施されており、本学は、ICCEED センター長が国内支援委員としてプロジェクトに参画している。

【平成 28 年度の活動】

平成 28 年度は、国内支援委員会に参加しプロジェクト運営に対するアドバイスを行うとともに、TPP 対策事業の一つである「産業人材育成及び対日理解促進交流事業」として、ICCEED センター長が 6 月に現地へ赴き、本学での研究を希望する候補者との面談を通して、事業の趣旨との適性や各候補者の研究関心と受入教員とのマッチング等を行った。その結果、平成 29 年度 10 月博士後期課程に 4 名（内ハサヌディン大学 3 名）の入学が決定した。

本プロジェクトは、ハサヌディン大学新キャンパスに設置される COT (Center of Technology)の主要な役割となる産学連携機能を強化、向上を成果の一つとしており、本学が有する産学連携の実績と知見を活用した、産学連携促進のための国別研修をプロジェクトの一環として受託し、九州大学と共同で実施した（9 月 19 日（月）から 30 日（金）まで)。

また、7 月 13 日（水）ハサヌディン大学学長、イノベーション開発部長、工学部長らが来日し、本学学長表敬、研究施設見学及び交流協定の更新のため、本学を訪問した。

(6) JICA モンゴル工学系高等教育支援（M-JEED）

【概要】

モンゴル工学系高等教育支援事業は、モンゴルの工学系人材の高度化を目的とし、平成 26 年から平成 35 年までの実施期間で、1000 名の工学人材（教員・研究者・学生）を育成するため、①国際共同教育プログラム（日本の大学との学部ツイニングプログラム・カリキュラム改善)、②教員育成プログラム

（日本の大学の修士・博士課程への留学)、③教育研究機材の整備、④日本の高等専門学校への留学プログラム、⑤本邦とモンゴルの両大学間の共同研究を推進することを目的として行われる。日本側の協力大学として、10 大学（平成 28 年度末時点）でコンソーシアムを形成し、同大学への支援協力を行っている。

日本側協力大学
長岡技術科学大学（幹事校)、**豊橋技術科学大学**、名古屋工業大学、京都工芸繊維大学、北見工業大学、東京工業大学、名古屋大学、九州大学

【平成 28 年度の活動】

平成 30 年 4 月より機械工学系（1 系）と建築・都市システム学系（5 系）で受入を開始するための準備や受入体制の確立に向けて活動した。

ツイニング・プログラムとしての一貫性や質の担保を図ることを目的としてモンゴル科学技術大学（MUST）側の担当教員を本学に受入れ、カリキュラムの整合・改善、授業視察による教授法の向上、本学教員との意見交換を実施した。

5 系では、6 月 22 日（水）から 29 日（水）まで 2 名の教員、1 系では、11 月 13 日（日）から 19 日（土）まで 2 名の教員を受入れた。

本学からは 9 月に 5 系及び SGU（スーパーグローバル大学創成支援事業）担当の教員 3 名で MUST を訪問し、主にツイニング・プログラムのカリキュラムの整合性を確保するため協議を実施し、あわせて本学と交流協定を締結している新モンゴル学園、MUST、本学との連携協力の可能性についてモンゴル側関係者と協議を行った。また、平成 29 年 1 月に、1 系と 5 系の教授が MUST を訪問し、集中講義を実施するとともに、効果的なツイニング・プログラムの形成のため MUST 教員及び関係者と協議を行った。

(7) JICA アフガニスタン未来の懸け橋・中核人材育成（PEACE）

【概要】

日本政府はアフガニスタン復興のため主としてインフラ開発と農業農村整備を中心にアフガニスタンのオーナシップを尊重した支援を実施しているが、長期に亘る内戦の影響で人材不足や脆弱な行政機関の補強が課題となっている。この状況を踏まえアフガニスタンの復興に資する開発行政の人材育成を目的として、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年間にわたって毎年度 100 名程度の技術研修員を日本の大学の博士前期課程留学生として受入れる国際協力プログラム。

本学は平成 24 年度 2 名、平成 25 年度 1 名、平成 26 年度 1 名、平成 27 年度 3 名を受入れた。

【平成 28 年度の活動】

10 月に新規に 2 名を建築・都市システム学系（5 系）の博士前期課程に受入れた。平成 28 年度末の時点で合計 5 名のアフガニスタンの行政官が本学で学習及び研究を行った。

(8) JICA アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABE イニシアティブ）

【概要】

平成 25 年 6 月に日本政府は第 5 回アフリカ開発会議（TICAD V）を開催し、官民一体となってアフリカにおける強固で持続可能な経済成長を支援する政策を示しその一環として「アフリカの若者のための

産業人材育成イニシアティブ（ABE イニシアティブ；African Business Education Initiative for Youth)」の実施を提唱した。本プロジェクトは 5 年間（H26 年 9 月～H29 年 9 月、4 バッチ）で 1000 人のアフリカの若者に対し、日本の大学や大学院での教育に加え、日本企業でのインターンシップの機会を提供する留学生受入による国際協力プログラム。

本学は産業界との関係が強く学生の企業への実務訓練を制度的に実施するなど産業人材育成への積極的な取組みが本学の特徴の一つとなっており、本イニシアティブへの参加を表明し候補者から本学への留学希望があれば積極的に対応する。

【平成 28 年度の活動】

平成 28 年度は応募者がなかったが、平成 27 年 10 月、第 2 バッチでタンザニアからの留学生 1 名を機械工学系（1 系）の博士前期課程に受入れ、現在、在学中。

(9) JICA イノベーティブアジア

【概要】

アジア諸国と日本との間の高度人材の還流とアジア全体のイノベーションを促進することを目的としアジアの 12 の開発途上国のトップレベルの優秀な学生でイノベーション環境の改善への貢献が期待できる科学技術及び工学分野での研究を行う者を対象に日本の大学の博士課程（前期または後期）で受入れ、学位の取得と日本企業との関係構築を支援する ODA 事業として、新たに立ち上げられたもの。

アジア地域の 12 ヵ国（インド、インドネシア、カンボジア、スリランカ、タイ、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス）を対象とし、平成 29 年度から開始し 平成 33 年度までの 5 年間（5 バッチ）で、計 1,000 人を受入れる予定。

イノベーティブな技術開発のための研究を行い、かつ、産業人材の育成にも積極的に対応していることから本プログラムへの参加、協力について JICA より打診があった。本学の教育・研究の特性がプログラムのコンセプトと合致していること、また、本学の有するアジア諸国の大学とのネットワークも活用できるものとして、積極的に参加、協力することを表明した。

【平成 28 年度の活動】

本プログラム開始に先立ち、インドからの優秀な学生を獲得するため JICA がインドへのリクルート調査団の派遣を計画し本学教員の参加を要請。機械工学系および ICCEED から教員各 1 名が参加した。

来年度の受入を開始するため全系対象に本プログラムの候補者の選抜を行った。また、本プログラムより従来の JICA 研修員ベースの留学生と異なり、受入が決定すれば大学側が学業等の成果の管理、生活基盤の構築を含めた公私に亘るすべての面で責任を負うことになることから、外国人学生の受入体制の整備、強化を行った。

3-2 本学独自の事業－海外教育機関・研究所との連携事業－

(1) ポリテクニック教育高度化支援

【概要】

平成 22 年 11 月、インドネシア教育相より本学・学長（当時）に対し、スラバヤ電子工学ポリテクニック（EEPIS）の教育高度化に対し支援要請がなされた。それを受けて EEPIS 教育高度化支援協力推進

専門部会を学内に設置し、EEPIS の教育研究能力の高度化への支援体制を構築した。

近年インドネシアでは 経済発展に伴い同国産業界の中堅技術者養成・確保が喫緊の課題となっており、実務的な高等専門教育機関であるポリテクニックの改革が実施され、ポリテクニックに新たに大学院修士課程が設置された。平成 17 年に制定された「教師・大学教員法」では高等教育機関の教員は学士課程とディプロマ課程では修士号、大学院では博士号の学位が必要とされ、ポリテクニックにおいても大学院修士課程教育 に従事する教員には博士号が義務付けられることになり、教員の高度化（学位取得）が急務となっている。

その状況は、インドネシアに限らず東南アジア諸国でも同様のニーズがあり、各国のポリテクニックに対する支援協力を拡大することを意図とし、平成 27 年 2 月に EEPIS 教育高度化支援協力推進専門部会を「海外高等教育機関高度化支援部会」として発展的に改組した。

【平成 28 年度の活動】

「海外高等教育機関高度化支援部会」の体制を整備・強化するため平成 28 年 10 月、本学の国際戦略本部の下に「海外高等教育機関高度化支援協力専門部会」として位置づけ設置要項を定めた。

6 月、ICCEED センター長が本事業の推進のためインドネシアを訪問。従来からの協力対象校である EEPIS の他、現状での協力対象校として想定している国立バンドンポリテクニック（POLBAN）及び国立バンドン製造工学ポリテクニック（POLMAN）を訪問し関係者と協議を行った。今後の支援の具体化を目指す POLBAN 及び POLMAN においては協議を通じて本学留学候補者リストの作成を行った。

また、先行して協力を実施してきた EEPIS に対して 9 月 29 日（木）及び 30 日（金）に、インドネシアのバリ島で開催された同行主催の「国際電子シンポジウム」に井上理事・副学長（特別講演）、と ICCEED センター長が参加、現地関係者との交流を通じこれまでの協力の成果を確認し、本学と EEPIS との関係を更に強固なものとした。

(2) アセアン諸国大学学長会議

本学の開学 40 周年を機に、本学主催によるアセアン諸国大学長会議（ASEAN University Presidents Forum）を 12 月 19 日（火）に本学のマレーシア教育拠点（ペナン校）にて開催した。

ICCEED は国際課と国際教育センターと連携し、会議の運営に参画した。本会議には本学と交流協定を締結しているアセアン諸国の多数の機関が参加。ICCEED は海外の教育研究機関との連携強化が活動の柱の一つとなっており、本学長会議に参加した各校代表との交流や意見交換を通じ、今後の連携強化に向けた礎とした。（本学長会議の内容については CIE の活動報告を参照）

3-3 グローバル化事業基盤整備

グローバル工学教育推進機構（IGNITE）は国際化を強力に推進するために国際協力センター(ICCEED)、国際交流センター(CIR)、国際教育センター(CIE)の３つの下部機関を設け、機能と役割を特化し事業を推進しているが、３つの機関共通の、或いは豊橋技術科学大学全体の国際化推進のための基盤整備に係る業務についてはその多くを ICCEED が担っている。

(1) 国際戦略の改定

本学の国際戦略ペーパーは ICCEED が中心となり検討及び草案の取りまとめを行い、平成 27 年 3 月 23

日に「豊橋技術科学大学　国際戦略　2014-2015」として制定された経緯がある。これを踏まえ、本年度、国際戦略の改定作業も ICCEED が中心となり実施した。

この種の戦略は継続性や一貫性も重要であり、大きな環境変化がないこともあり基本的な内容や構成については踏襲しつつも、平成 29 年度よりグローバル技術科学アーキテクト養成コースの開設に伴い、多様な人材が共生する場の体制や基盤の整備の観点を中心に改定作業を行い、「豊橋技術科学大学　国際戦略 2017」として取りまとめた。

(2) 大学間交流協定管理

本学では、海外の高等教育機関及び研究機関との交流を通じて、双方の教育研究機能の向上と教職員・学生の人材交流を図るために、交流協定（及び学生交流実施細則）を締結している。平成 28 年度には新たに 15 の高等教育機関および研究機関との交流協定が締結された。ベトナムが 3 機関、メキシコも 3 機関と両国との関係が拡大した。内、メキシコのサン・ファン・デル・リオ工科大学とは JICA の課題別研修での研修員受入、日墨研修の受入と ICCEED で対応した JICA 研修を通じて関係が構築され、交流協定締結に至った。また、これまで交流協定校がなかった４つの国（シンガポール、イタリア、ブルガリア、ノルウェー）の機関とも交流協定が締結された。

平成 28 年度末時点の交流協定締結機関数は 79 となり、交流協定の相手機関の所在する国と地域は 28 に拡大した。（次頁；大学間交流協定校一覧）

大学間交流協定校

平成29年3月31日現在

No.	大学／機関名	国名・地域名	締結日
1	デリー大学	インド	1998.05.05
2	インド工科大学デリー校	インド	2012.05.16
3	チッタゴン大学	バングラデシュ	2013.02.02
4	チュラロンコン大学工学部	タイ	2007.01.08
5	パトムワン工科大学	タイ	2013.05.17
6	タマサート大学	タイ	2014.03.04
7	泰日工業大学	タイ	2014.04.25
8	ウボンラチャタニー大学	タイ	2014.04.25
9	タイ国立科学技術開発庁	タイ	2014.08.18
10	ブラパ大学	タイ	2017.01.30
11	マレーシア工科大学	マレーシア	2000.09.18
12	マレーシア科学大学	マレーシア	2006.03.25
13	トゥンフセインオンマレーシア大学	マレーシア	2013.10.29
14	ワワサンオープン大学 及び ディスティッドカレッジ	マレーシア	2014.12.15
15	南洋理工大学	シンガポール	2016.05.27
16	バンドン工科大学	インドネシア	1995.12.29
17	ガジャマダ大学	インドネシア	1996.03.23
18	シャクアラ大学	インドネシア	1997.12.22
19	スラバヤ工科大学	インドネシア	2000.11.22
20	ハサヌディン大学	インドネシア	2001.05.28
21	アンダラス大学	インドネシア	2003.04.30
22	北スマトラ大学	インドネシア	2004.10.20
23	ランポン大学	インドネシア	2006.11.08
24	パランカラヤ大学	インドネシア	2007.12.27
25	タドラコ大学	インドネシア	2011.07.11
26	ブラウィジャヤ大学	インドネシア	2012.10.29
27	パダン工科大学	インドネシア	2012.10.31
28	インドネシア国立スラバヤ電子工学ポリテクニック	インドネシア	2013.01.04
29	ウダヤナ大学	インドネシア	2016.12.27
30	慶北大学校	大韓民国	1994.04.01
31	国立ソウル科学技術大学校	大韓民国	1997.02.27
32	韓国技術教育大学校	大韓民国	1997.12.30
33	安東大学校	大韓民国	2003.06.10
34	高麗大学校工学部	大韓民国	2016.02.01
35	新モンゴル学園	モンゴル	2015.10.05
36	ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学	ベトナム	2004.12.14
38	ダナン大学・工科大学	ベトナム	2012.04.15
39	ホーチミン市天然資源環境大学	ベトナム	2014.10.22
30	フエ医科薬科大学	ベトナム	2016.01.05
40	ベトナム国家大学ホーチミン市校国際大学	ベトナム	2016.04.25
41	国立土木大学	ベトナム	2016.06.20
42	ベトナム国家大学ホーチミン市校	ベトナム	2016.09.28
43	中国科学院金属研究所	中華人民共和国	1996.04.09
44	東北大学	中華人民共和国	1996.04.11
45	瀋陽工業大学	中華人民共和国	2015.06.10
46	北京大学化学与分子工程学院	中華人民共和国	2016.11.30
47	ラオス国立大学	ラオス	2015.11.11
48	国立交通大学	台湾	2006.07.20
49	国立台湾師範大学	台湾	2008.12.19
50	アシウト大学	エジプト	2007.05.25
51	オークランド大学工学部	ニュージーランド	2012.05.25
52	カリフォルニア大学バークレー校	アメリカ	1981.09.16
53	ウィスコンシン大学マディソン校	アメリカ	1985.05.14
54	ニューヨーク市立大学クイーンズ校	アメリカ	2013.07.29
55	国立工科大学	メキシコ	1995.08.01
56	先端素材研究センター	メキシコ	2016.07.11
57	国立工科大学高等研究所	メキシコ	2016.10.12
58	サン・ファン・デル・リオ工科大学	メキシコ	2016.11.09
59	ツクマン国立大学	アルゼンチン	2012.06.01
60	東フィンランド大学	フィンランド	2002.05.21
61	ノルウェー北極圏大学	ノルウェー	2016.06.01
62	アイントホーフェン工科大学イノベーション科学研究科	オランダ	2012.04.12
63	ルーア大学	ドイツ	2001.08.13
64	ミュンヘン工科大学	ドイツ	2003.11.24
65	シュトゥットガルト大学	ドイツ	2008.12.18
66	フランシュ＝コンテ大学	フランス	2011.09.29
67	ピエール＆マリー・キュリー大学	フランス	2012.11.22
68	フランス国立研究センターパリ高等化学院	フランス	2014.04.10
69	ECE・パリ	フランス	2017.02.23
70	カリアリ大学	イタリア	2016.07.08
71	ブルガリア国立科学アカデミー・有機化学・植物科学研究所	ブルガリア	2016.05.09
72	ロモノーソフ記念モスクワ国立大学物理学部	ロシア	2002.12.16
73	モスクワ物理工科大学	ロシア	2017.03.06
74	ジリナ大学	スロバキア	1999.11.01
75	ウクライナ国立科学アカデミー生物有機化学・石油化学研究所	ウクライナ	2012.11.26
76	ウクライナ国立科学アカデミー分子生物学・ゲネティクス研究所	ウクライナ	2012.11.28
77	ウクライナ国立科学アカデミー食品バイオテクノロジー・ゲノミクス研究所	ウクライナ	2012.11.30
78	ウクライナ国立技術総合大学応用システム解析研究所および地球情報・持続型開発ワールドデータセンター	ウクライナ	2012.12.04
79	タシュケント工科大学	ウズベキスタン	2015.11.13

(3) 海外事務所運営・管理

本学は、海外の高等教育機関や研究機関、学生との交流を促進するため海外拠点として、インドネシアにおいてはバンドン工科大学内に平成 16 年 1 月、インドネシア事務所を開設、また、中国において遼寧省瀋陽市東北大学内に瀋陽事務所を平成 17 年 11 月にそれぞれ開設した。ICCEED が中心となり、これら海外事務所の活用と運営管理を行っている。海外事務所の機能及び活動は、①本学に留学希望する

学生のための支援、情報等を提供（留学説明会）、②学生交流のための国際研修プログラム等に係る打ち合わせ、③大学間交流促進のための協議の 3 点が主要なものとなっている。

海外事務所は活用とともにその管理が重要な課題であり、効率的な運営・管理についての検討を毎年行うこととし、平成 28 年度についてはインドネシア事務所の運営管理方式の見直しを行った。

3-4 スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業

【概要】

平成 26 年 9 月に文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」グローバル化牽引型（タイプ B）採択された。「『グローバル技術科学アーキテクト』養成キャンパスの創成」を構想名として掲げ、国際通用性と競争力の高い大学への変革を推進している。

【平成 28 年度の活動】

(1) 国際化関連

●「グローバル技術科学アーキテクト養成コース（GAC)」の３年次募集及び入試実施

本事業の基幹となる GAC の最初の 3 年次学生受入れに向け、5～6 月に入試を実施した結果、35 名（うち留学生 9 名）の入学者を得た。また、在学の学部 2 年から GAC への転コース制度を整備して募集した結果、6 名（うち留学生 1 名）が合格し、合計 41 名（うち留学生 10 名）にて平成 29 年 4 月よりコースを開始することとなった。平成 29 年度からは外国人留学生を主体とした 1 年次の GAC 入試も開始するため、さらなるコースの周知と優秀な学生獲得に向け、ASEAN の主要国と重点高校ならびに全国高専に向けて、ポスターや説明資料の作成と配布および説明会などを継続実施した。

●英日バイリンガル授業と語学力強化カリキュラムの策定

バイリンガル授業の全学展開方針に基づき、平成 28 年度は原則として全教員が 1 科目以上を英日バイリンガル授業とした結果、学部では 139 科目（学部の語学を除く全科目の 25%）がバイリンガル化された。また、GAC 学生の受入開始に向け、語学力とグローバル資質を伸ばすための教務制度の制定と、カリキュラム及び時間割の編成を行った。

●シェアハウス型グローバル学生宿舎の建設開始

10 月よりグローバル学生宿舎（2 棟）と集会棟の建設に着工し、平成 29 年 3 月に完成した。学内公募と協議を経て、宿舎の名称を「TUT グローバルハウス」に決定した。ハウスマスターを公募して採用し、学生入居に向けて受入体制の整備を図ると共に、GAC 学生の正課外教育の場としての生活学習プログラムについて、スーパーグローバル大学推進室および関連委員会等で協議を重ね、平成 29 年 4 月からの入居と宿舎運営開始体制を整備した。

●グローバルコミュニケーション能力の向上支援体制

英語学習アドバイザーの稼働率が高く講座も好評のため、週 5 日の常駐体制を継続実施した。留学生への日本語学習アドバイザーも試行導入して、学生・教職員への語学学習支援体制を強化した。将来の中長期海外派遣候補となる事務職員を対象に、新たにオンライン英会話研修を導入した。附属図書館の改修に併せて、1 階の一部をグローバルレクチャーエリアに改修し、グローバル学習環境の整備を行った。

(2) ガバナンス改革関連

●外部評価委員会の開催

平成 29 年 3 月に外部評価委員会を開催し、平成 26 年度からの進捗状況等について説明し、バイリンガル授業、留学生の地域交流、各種数値目標の達成などについて、本事業を推進していくうえで貴重な助言を得た。

●３期中期計画の実施

大学憲章・大西プラン（2016）・国際戦略と SGU 構想に基づき作成した第 3 期中期計画を開始した。SGU の成果指標と達成目標は中期計画に入れることで、責任の明確化と実施状況の把握を図っている。

●テニュアトラック制度の実施

本学独自のテニュアトラック制度を制定してテニュア教員を増やす取組みを継続実施し、平成 28 年度には 4 名のテニュア教員を採用した。

●国際通用性を見据えた研修制度

教職員のニューヨーク市立大学クイーンズ校での、4～6 週間の短期集中英語強化研修と研究・事務職

務交流を行う FD/SD を SGU 事業初年度から行っており、平成 28 年度は教員 6 名と職員 2 名を派遣した。平成 29 年度も同数を派遣して、これらを今後継続するとともに、中長期の海外協定校等との人事交流の実現に向けた準備を開始する。

(3) 教育改革関連

●教育制度の改革

GAC 入試の導入に伴い大幅改定した入試を実施した。関連委員会等で結果を評価して改善を重ねて継続する。構想調書から前倒しして全学展開する英日バイリンガル授業に関し、講義手法並びに学生が対応できるための語学力養成カリキュラムなどの具体的な検討を行い、入学前教育を含むカリキュラム、時間割編成を作成した。

●学生の国際流動性の向上

学生の国際流動性を高め、正規生の外国人留学生数を継続的に高めるには、海外協定校との連携教育プログラムが有効と認識した。 既設の学部ツイニング 5 件、修士ツイニング 3 件、修士ダブルディグリー２件に加え、新規にマレーシア・ペナンの DISTED College とのツイニング・プログラムを締結した。シュトゥットガルト大学（ドイツ）とのダブルディグリーの専攻科拡大、マレーシア科学大学（USM）とのツイニング制定の具体的な協議を開始したほか、各国の大学との共同教育プログラムの創設に向けて具体的な協議を引き続き進めている。

(4) 大学独自の成果指標と達成目標

下記の 4 項目を大学独自の成果指標として設定している。

① 学生宿舎入居率（キャンパスグローバル化指標）
② 海外インターンシップ履修率
③ 事務職員の海外研修経験率
④ 研究論文等の発表における国際共著率

これらの達成目標を設定し、以下の取組みを重点的に行っている。

●TUT グローバルハウス（グローバル学生宿舎）の新設

多国籍の学生が混住するシェアハウス型グローバル学生宿舎の第一期工事を完了し、平成 29 年３月末に 2 棟（１棟 30 人収容）及び集会棟完成させた。GAC の学年進行に合わせて増築し、平成 30 年度末までに計 6 棟(収容 180 人)とする。1 ユニットは 5 人の個室と、共有のリビング・ダイニング・キッチン・シャワールームからなり、将来は日本人と外国人が半々となる予定。平成 29 年度 4 月に GAC 学生（41 名）と一般学生（19 名）が入居を開始した。そのうち留学生は 11 名、女子学生は 5 名となった。

●グローバル実務訓練の実施拡大

GAC 日本人は海外で、GAC 留学生は日本で、2〜6 ヶ月の実務訓練を必須とするため、実務訓練委員会の下に海外実務訓練ＷＧを設置して、派遣先開拓と派遣学生増加への取組みを開始した。現在実施しているマレーシア・ペナンの企業開拓、教員個人による海外大学・研究機関に加えて、米国シリコンバレーの企業開拓や既存の派遣先の受入拡大などの活動を開始した。また、海外実務訓練説明会を早期に開催し、希望者と教員への継続的なフォローアップと支援、また奨学金確保を行った結果、平成 28 年度の派遣学生は前年の 32 名から 58 名へと大幅に増加した。活動を引き続き継続強化する。

●海外交流協定校を中心とした職員の海外研修を推進

事務職員のグローバル化を図るべく、マレーシア・ペナン教育拠点の運営と各種イベントへの職員派遣を中心として、ニューヨーク市立大学クイーンズ校での短期集中英語強化研修と大学事務組織との交流、海外連携大学の訪問や各地での大学説明会・留学生フェア実施メンバーに職員を含めるなどを計画的に実施し、海外での実務経験者層を増やしている。

●技術科学イノベーション研究機構の設置

既存研究所とリサーチセンターを再編して4月より新設した「技術科学イノベーション研究機構」に、カリフォルニア工科大学やマサチューセッツ工科大学（MIT）との共同ラボを設置した。また、頭脳循環を加速する戦略的研究ネットワーク推進プログラムにより、欧米4大学との連携プロジェクトを開始して、強い国際共同研究ネットワークの構築を進めている。

(5) 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

●TUT グローバルハウスを中核とした多文化共生キャンパスの創成

新設したTUTグローバルハウスでは、日本人と留学生が一緒に生活し、国内にいながら国際生活を体験できる環境を作る。その運営・教育プログラム・交流プログラム等は、既存の学生宿舎から地域にまでひろげ、大西プランで掲げる「多文化共生・グローバルキャンパス」実現のコアとなることを目指す。実施体制と宿舎プログラムを、SGU 推進室と関連委員会等で協議を重ね、ハウスマスターの協力の下に宿舎運営を行う体制の整備と、TUT グローバルハウスでの GAC 学生のグローバル資質を高める宿舎プログラムのフレームワークを作成して、平成29年度からの入居開始に備えた。

●ASEAN 諸国との連携を強化

本学の外国人留学生の半数以上は、マレーシア・インドネシア・ベトナムなどの経済成長著しいASEAN諸国からである。これらの国との繋がりを強化する手段の一つとして海外同窓会組織の強化を推進、平成28年度は新たに2ヶ国で組織化を行い、合計8ヶ国に海外支部を設立した。また、この地域11カ国の大学・高校等を訪問して、大学紹介とグローバル化戦略・日本留学の説明を実施。特にGAC1年への優秀な高校生獲得に向けて、さくらサイエンスプログラム等を活用して5カ国の戦略的高校から22名の高校生と9名の教員を本学に招いて大学紹介を実施した。受験者の確実な獲得と拡大に向けて継続実施して行く。

(6) 平成28年度取り組みの総括

以下の3つを柱として、真の国際通用性を備えた大学への変革を推進している。

①「グローバル技術科学アーキテクト」養成コースの新設

② 多様な価値観の学生・教職員が共生するグローバル宿舎の新設

③ 重層的な人材循環の強化 ～学生・教員・事務職員すべてのグローバル循環を加速・定常化～

GACの新設と学生の募集・入試の実施、TUTグローバルハウスの建設・宿舎プログラムの決定を行えたことから、当初の計画どおり順調に取組みを行っている。英日バイリンガル授業は最初から全学展開する方針に変更し、構想調書の計画を前倒して実施している。今後は、GAC 学生を実際に受入れて発生する生活問題等が重点課題となる。併せて、全ての成果指標と達成目標の状況を全体的に確認し、効率的な取組みの実施と運営管理、大学の真の変革に向けた挑戦を継続することが重要と認識している。

4. ICCEED 運営協議会

【概要】

グローバル工学教育推進機構長の諮問に応じてセンターの基本方針その他事業の実施に係る重要事項を審議するため「豊橋技術科学大学国際協力センター運営協議会」が置かれている。(国立大学法人豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構規則第５条)

運営協議会は、(1) 機構長及び副機構長 (2) センター長、副センター長及びセンター所属の教員、(3) 文部科学省、大学、高等専門学校及び開発援助機関等からの代表者で学長が任命するもの若干名 (4) 学外の学識経験者のうちから学長が任命するもの若干名の委員で構成される。(豊橋技術科学大学国際協力センター運営協議会規程第３条)

【実施内容】

第 4 回豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構国際協力センター運営協議会では、平成 28 年度活動報告/平成 29 年度活動計画・方針案について国際協力センター長より (1) 国際協力センターの概要、(2) 平成 28 年度活動報告、(3) 平成 29 年度活動計画・方針案についての説明・報告が行われ、学外委員から本学の国際協力事業についての重点や特色などポイントを絞った説明を求める意見が提起された。　また、意見交換会では、ODA による中小企業の海外展開支援に対する大学との連携可能性や留学生受入事業における手続き等について意見交換が行われた。

第4回豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構国際協力センター運営協議会

日時等：		平成29年2月23日 (木) 運営協議会：10:45-12:15　意見交換会：12:15-12:45　　会場：KKR東京　竹の間
出席者：	(学外委員)	竹内　新也　　文部科学省大臣官房国際課国際戦略グループ　課長補佐 (匂坂　克久　文部科学省大臣官房国際課長の代理) 杉原　大作　　外務省国際協力局開発協力総括課上席専門官 (山本　文土　外務省国際協力局 開発協力総括課長の代理) 梅宮　直樹　　国際協力機構人間開発部高等・技術教育チーム課長 (熊谷　晃子　国際協力機構人間開発部長の代理) 三上　喜貴　　長岡技術科学大学理事・副学長 杉本　和英　　国立高等専門学校機構国際企画室長 (三谷　知世　国立高等専門学校機構理事の代理)
	(学内委員)	井上　光輝　　豊橋技術科学大学理事・副学長 グローバル工学教育推進機構長 穂積　直裕　　豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構 国際協力センター長・教授 髙嶋　孝明　　豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構副機構長 国際協力副センター長・教授 小池　誠一　　豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構 国際協力センター・特任教授
	(学内関係者)	余語　豊彦　　豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構 国際協力センター特任助教 清水　由紀子　豊橋技術科学大学国際課長 與語　貴生　　豊橋技術科学大学国際課国際企画係長 山田　敏也　　豊橋技術科学大学国際課国際教育支援室主任

国際交流センター(CIR)

Center for International Relations (CIR)

国際交流センター長　挨拶

教　授　　大　門　　裕　之

国際交流センターのセンター長となり三年目を大過なく務めることができました。いつもながら、これもひとえに国際交流センター教員のみならずグローバル工学教育推進機構の教員ならびに国際課の皆様のご支援・ご協力のお蔭でございます。

これまでと同様に、全ての事業内容の改善、経費節減、効率向上、目的の明確化を行い、より高い効果を得るための工夫を施しました。特に今年度は、平成 28 年 3 月に桂田准教授が異動されたため、各教員の役割分担の見直しと事業内容の大幅な改善を試みました。これまでの事業を軌道に乗せると共に、新規事業にも取り組みました。桂田准教授は、スーパーグローバル大学創成事業に申請時から携わり、留学生相談、モンゴルやタイの高校などとの連携窓口、そして、何よりも長年、国際交流センターで幅広くご活躍をいただいておりましたので、そのカバーは容易ではありませんでした。しかし、このことが契機となってセンター内教員の間はもとより、グローバル工学教育推進機構の各センターおよび SGU 推進室と連携が進み、この一年を無事に乗り切ることができました。

平成 28 年度に力を入れた一つ目は、チューター業務の全てを一から見直したことです。ここ数年、実際の業務内容とガイドラインにある内容に大きな隔たりがあったためです。本来、チューターは学習支援者であるはずが、業務のほとんどが生活支援者になっていました。このため、留学生やチューターからのヒアリングを行った後、ガイドラインの全てを更新し試行しました。加えて、将来を見込み留学生学習支援方法についても、教務課と共に検討を始めました。二つ目としては、これまで、長年、協定大学との交流を目的としてきた国際交流プログラムの趣旨を見直し、本学への入学を推進させることを主な目的としました。もちろん、留学生数の増加を目指したものであります。本学に関心のある学生を招へいし、指導教員とのマッチングを試みました。三つ目は、留学生を対象とした就職支援セミナーを民間企業と共に数多く開催しました。四つ目は、海外留学に関する報告会の開催や本学へ招へいした短期留学生と本学学生との交流を深め、海外留学への意識を高めることを目指しました。五つ目は、これまでの「世界のお茶会」を改め「TUT EXPO」として、新たに立ち上げました。六つ目は、国際交流会館業務が国際課から学生課へ移管されることと TUT グローバルハウスの建設に向けて学生課との連携が増大したことが挙げられます。七つ目は、豊橋市をはじめ、地域の国際交流協会との連携を深めたことです。

平成 29 年度は、グローバル技術科学アーキテクトコースへ三年生が初めて編入学してきます。様々な課題が出てくると考えられますが、関係諸氏との連携の強化、協力体制を構築する必要があります。また、スーパーグローバル大学創成事業の中間評価を通じて、国際交流センター業務全体の見直しが必要となります。引き続きご理解とご協力の程、どうぞ宜しく御願い申し上げます。

1. 教育活動

(1) 海外留学体験報告会

平成 29 年 3 月 3 日（金）に海外留学体験報告会を開催した。参加者は教職員 8 名、学生 18 名であった。当初は、シュトゥットガルト大学（ドイツ）での留学経験者からの報告を基に、日本人学生の海外留学への意識を高めてもらおうと考え、この報告会を企画していた。さらに、平成 25 年から始まった「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」により海外へ留学した本学の学生が、この時期までに 4 名になったこと、文部科学省がこのプログラムへ力を入れていること、本学はもとより中部地域からの派遣学生が少ないことなどから、このプログラムの紹介とともに、トビダテで留学をした 3 名からも報告をしてもらうこととなった。卒業研究、実務訓練期間後、年度末などの関係から、この時期の開催となった。報告会では、本学が関係する国際交流事業も紹介した。

所属・学年	留学先	留学種別
建築・都市システム学専攻 博士3年	中国／東南大学	トビタテ！留学JAPAN 3期生
情報・知能工学専攻　修士2年	アメリカ/ストーニーブルック大学	トビタテ！留学JAPAN 4期生
環境・生命工学専攻　修士2年	カナダ/ウォータールー大学	トビタテ！留学JAPAN 4期生
環境・生命工学課程　学部4年	ドイツ/シュトウットガルト大学	大学間交流協定に基づく交換留学生（派遣）

報告では、それぞれの自己紹介からはじまり、海外留学へのきっかけや学んだこと、後輩へのアドバイスがあった。4 名の報告者からは、留学の楽しさや得難い経験をする重要性を感じ取ることができた。また、就職活動において、留学経験に関心を示す企業が非常に多いとの報告が全員からあった。開催時期や告知方法等により、集まった学生は多くはなかったが、ほとんどの学生が海外留学への意識がさらに高まったと感想を述べていた。また、低学年の学生は、今後の計画を立てることができたようである。

これまで、このような学生を対象とした海外留学体験報告会の開催がなかったため、今後も開催を続け、海外留学へのハードルを下げ、意識を高めてもらう企画と運営に努める。報告者の学生には、年度末の気忙しい中、気持ちよく協力をしていただいた。この場を借りて改めて御礼を申し上げる。

(2) 集中講座

期　間	内　容	講　師	参加者数
8月22日～8月24日	英会話	デヴィン・ロナルド・エッシュ （愛知大学国際コミュニケーション学部英語学科）	15名
8月29日～8月31日	中級者向けTOEIC対策	野澤　美恵子（英語講師/TOEIC講師）	10名
9月6日	ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ大学院学生及び海外実務訓練生対象 マレー語～言語と文化～	リム・パン・ボイ（本学准教授） タン・ワイ・キアン（本学特任助教）	27名
10月20日	日本語能力試験対策	佐々木　綾（静岡日本語教育センター）	13名
3月7日	特別推薦入学者等の海外研修参加者対象 マレー語～言語と文化～	リム・パン・ボイ（本学准教授） 蒲原　弘継（本学特任助教） タン・ワイ・キアン（本学特任助教） ｸ・ｱｽﾞｲﾝ・ﾋﾞﾝﾃｨ・ｸ・ｱｽﾞﾐ（本学学生）	17名

センターでは、毎年 1 講座 12 時間～15 時間程度の集中講座を 3 回～ 4 回開催している。25 年度より、マレー語講座を開始し、27 年度以降は春、夏の 2 回実施している。授業で開講している外国語の強化を目的として英会話を、また、開講希望の多い中級 TOEIC 対策を開講した。その他、日本語能力試験（JLPT）N1 合格を目指す留学生を対象とした JLPT 対策講座を開講し、受講者は日本語学習アドバイザーの個別指導が受けられるという新たな試みを行った。

(3) 日本語研修コースⅠ（初級）

コース概要：大学院進学を目指す国費大使館推薦の研究留学生を主な対象とし、約 15 週間の日本語予備教育を行う。

①4 月期日本語研修コースⅠ

開講期間等：平成 28 年度 4 月期＜第 23 期＞　15 週間

4 月　8 日　プレイスメント
4 月 13 日　オリエンテーション・開講式
4 月 14 日　授業開始
8 月　3 日　授業終了

コーディネーター：村松由起子

修了者： Enock William Nshama、Villamar Gomez Liliana、Nbelayim Edna Amina　計３名

時間割

	月　Mon.	火　Tue.	水　Wed.	木　Thu.	金　Fri.
1 8:50-10:20	日本語 (村松)	日本語 (石川)	日本語 (鈴木)	日本語 (石川)	日本語 (坂本)
2 10:30-12:00	日本語 (吉村)	漢字 (吉村)	日本語 (村松)	日本語 (石川)	日本語 (坂本)

②10 月期日本語研修コースⅠ

開講期間等：平成 28 年度 10 月期＜第 24 期＞　15 週間

10 月 11 日　プレイスメント
10 月 13 日　オリエンテーション
10 月 14 日　授業開始
2 月 23 日　授業終了

コーディネーター：村松由起子

修了者：Phan Nhut Viet、Tran Phuc Nghia、Soliman Ali Said Ali Mohamed　計３名

時間割

	月　Mon.	火　Tue.	水　Wed.	木　Thu.	金　Fri.
1 8:50-10:20	日本語 (村松)	日本語 (吉村)	日本語 (鈴木)	日本語 (石川)	日本語 (坂本)
2 10:30-12:00	日本語 (吉村)	漢字 (吉村)	日本語 (鈴木)	日本語 (石川)	日本語 (坂本)

(4) 日本語研修コースⅡ（初中級）

コース概要：初級を終えた学習者が、中級に向けて日本語能力の向上を図り、専門教育において日本語の使用が可能になるよう基礎的な能力を養うために開講する。

①4 月期日本語研修コースⅡ

開講期間等：平成 28 年度 4 月期＜第 7 期＞　15 週間

4 月　8 日　プレイスメント
4 月 14 日　授業開始
8 月　3 日　授業終了

コーディネーター：村松由起子

受講者： Tania Paramita Utomo、Sasongko Diar Fahruddin、Singgih Abraham Bhaskara、Kusumawan Sholihatta Aziz、Miettinen Gisela Helen Astrid　計５名

時間割

	月　Mon.	火　Tue.	水　Wed.	木　Thu.	金　Fri.
1 8:50-10:20		初中級文法 (村松)	初中級会話 (村松)		
3 13:00-14:30				初中級漢字 (村松)	

②10 月期日本語研修コースⅡ

開講期間等：平成 28 年度 10 月期＜第 8 期＞　15 週間
10 月 11 日　プレイスメント
10 月 18 日　授業開始
2 月 23 日　授業終了

コーディネーター：村松由起子

受講者：Warsewa Alexsander、Umoto Tania Paramita、Meidwinna Vania Michiani、Singgih Abraham Bhaskara、Nshama Enock William、Nbelayim Edna Amina、Gozali Anne Puteri、Lutz Sebastian　計８名

時間割

	月　Mon.	火　Tue.	水　Wed.	木　Thu.	金　Fri.
1 8:20-10:20		初中級文法 （村松）	初中級会話 （村松）		
3 13:00-14:30				初中級漢字 （村松）	

(5) 日本語補講：(Basic Japanese)

コース概要：日本語能力を有しない留学生、教員、研究者、その他家族を対象とし、日本で日常生活を送る上で必要な基礎的な日本語を教える。

①前期　Basic Japanese

開講期間：　平成 28 年 4 月～7 月

コーディネーター：村松由起子

クラス編成及び受講者数

クラス名	回数	受講者数
Basic Kanji	15	5
Basic Grammar	15	1
Basic Conversation	15	5

時間割

	月　Mon.	火　Tue.	水　Wed.	木　Thu.	金　Fri.
1 8:50-10:20					Basic Conversation （神崎）
2 10:30-12:00		Basic Kanji （吉村）			
3 13:00-14:30					
4 14:40-16:10			Basic Grammar （吉村）		

②後期　Basic Japanese

開講期間：　平成 28 年 10 月～平成 29 年 2 月

コーディネーター：村松由起子

クラス編成及び受講者数

クラス名	回数	受講者数
Basic Kanji	15	2
Basic Grammar	15	5
Basic Conversation	15	13

時間割

	月　Mon.	火　Tue.	水　Wed.	木　Thu.	金　Fri.
1 8:50-10:20					Basic Conversation （神崎）
2 10:30-12:00		Basic Kanji （吉村）			
3 13:00-14:30					
4 14:40-16:10			Basic Grammar （吉村）		

2. 留学生相談・支援

(1) 留学生相談

国際交流センターでは、留学生の入学時のガイダンスをはじめ、それ以降の学生生活においても留学生をサポートする体制を整えている。留学生の相談窓口としては、次のような活動をしている。

1) 留学生相談担当教員による相談

留学生が学生生活で直面する様々な困難に対応するほか、履修全般に関する相談、就職相談、進学相談など、幅広い相談を受け付けている。

2) 国際課留学生係の相談窓口

ビザ、奨学金、宿舎、その他様々な手続きに関する相談を受け付けている。

3) 国際交流会館における生活相談

2 名のチューターが国際交流会館に居住し、居住する留学生の生活全般について相談を受け付けている。

(2) 学業相談会

学業相談会では、相談教員（吉村・蒲原・鈴木）が学部留学生の単位取得状況と学業の進捗状況を把握した上で、学業についてのアドバイスを行っている。特に単位の取得に困難を伴う留学生に対しては、科目の補習を行うチューターを配置して、単位習得のサポートを行った。平成 28 年度においては、学業相談会を前期 2 回、後期 3 回の合計 5 回実施し、延べ 35 名の学生と教員が面接した。

(3) 留学生のための就職支援

留学生のための進路・就職ガイダンスおよび学内企業説明会を下記のとおり実施した。日本のビジネス習慣や就職活動への理解を深めるため、留学生を対象にきめ細かな指導および支援を行っている。

	日　時	内　容	参加者数
第1回	10月18日（火）18：00～19：30	進路確認と就職活動の進め方等（日本語を話せる留学生対象）	13
第2回	10月20日（木）18：00～19：30	進路確認と就職活動の進め方等（日本語を話せない留学生対象）	18
第3回	11月22日（火）18：00～19：30	履歴書の書き方について説明、実際に記入、個別相談等	5
第4回	11月24日（木）18：00～19：30	OBによる現在働いている会社についての説明、就活体験談	8
第5回	1月12日（木）16：20～17：50	OBによる現在働いている会社についての説明、就活体験談	12
第6回	1月19日（木）16：20～17：50	模擬グループディスカッションによる実践的な対策	7
第7回	1月26日（木）16：20～17：50	模擬集団面接による実践的な対策	9
第8回	3月 2日（木）16：20～17：50	ビジネスマナー講座、面接対策	8

場所：IGNITE 棟 105 教室 他

担当：留学生相談担当教員、国際課留学生係

(4) 留学生のための日本語能力試験等説明会

留学生の就職活動支援の一環として、日本語能力試験、ビジネス日本語能力テスト等の日本語資格試験に関する説明会を実施した。

第１回実施日時： 4 月 22 日（金）12:10～12:50
場所：IGNITE 棟 105 教室
担当：村松由起子　吉村弓子
参加者数：0 名
第２回実施日時：10 月 14 日（金）12:10～12:50
場所：IGNITE 棟 105 教室
担当：村松由起子　吉村弓子
参加者数：12 名

(5) 外国人留学生ガイダンス

新入留学生を対象としたガイダンスを２回実施し､学内の施設利用や日本語学習について説明した。また、交通安全について豊橋警察署から講師をお招きし、日本の交通ルール、国際運転免許証の注意点、保険、事故にあった場合の対処法などについて説明していただいた。さらに、留学生相談担当教員から、日本での生活において特に留意すべき事項についてアナウンスを行った。

第１回実施日時： 4 月 4 日（月）16：30～18：30
第２回実施日時：10 月 4 日（火）14：30～16：00
場所：事務局棟大会議室他
担当：留学生相談担当教員、国際課留学生係

(6) 留学生引っ越しセミナー

留学生を対象とした引っ越しセミナーを実施した。本セミナーでは不動産関係会社営業部の方を講師にお招きし、日本の物件賃貸契約など慣習や注意点についてお話しいただいた。留学生にとって、大変有意義なセミナーとなった。

実施日時：1 月 12 日（木）18：00～19：30
場所：A1 棟 301 号室
担当：留学生相談担当教員、国際課留学生係

3. 留学生交流

(1) センター主催行事一覧

NO.	行事名	内容	開催日	参加者数
1	外国人留学生ガイダンス及び懇親会(4月)	新入学外国人留学生のためのオリエンテーション及び情報交換会	4月4日	100
2	第20回国際交流デー（リサイクルデー）	留学生のための家具・電化製品リサイクル活動	4月11日	60
3	ニューヨーク市立大学学生受入プログラム	協定校であるニューヨーク市立大学からの学部学生を受入れ、日本の最新の技術科学や日本文化を学ぶ	5月30日～6月17日	10
4	第21回国際交流デー（TUT EXPO 2016）	日本人学生と留学生が母国のお茶とお菓子を用意、その他ステージパフォーマンスで学内関係者等と交流	6月3日	600
5	海外高校生招待事業	海外の優秀な高校生を招き大学の研究、進路等に関する情報を紹介、科学技術への理解を促す	6月26日～7月3日	34
6	外国人留学生ガイダンス及び懇親会(10月)	新入学外国人留学生のためのオリエンテーション及び情報交換会	10月4日	150
7	第22回国際交流デー（リサイクルデー）	留学生のための家具・電化製品リサイクル活動	10月7日	50
8	国際研修プログラム（受入）	工学を学んでいる優秀なアジアの大学生を協定校から招聘し、研究室体験や本学の教育システム、生活環境に関する情報を伝え、日本への留学に対する理解を促す	11月6日～15日	20
9	外国人留学生学外研修	文化体験・施設見学を通じ留学生同士、教職員との親睦を図る(京都)	12月26日～27日	41
10	留学生意見交換会・懇談会	留学生支援団体等と意見交換会及び懇談会	1月23日	250
11	特別推薦入学者等の海外研修	マレーシアに滞在し、異なる文化・社会に接しながら学生との交流・ホームステイを通じてグローバルな物の見方や考え方を養う	3月12日～21日	17
合計				1,332

(2) 国際交流デー

国際交流センターでは、本学における日本人学生・教職員と留学生・外国人教職員との交流を活発化させ、キャンパスの国際化を推進するため、国際交流デーを実施している。

1) TUT EXPO 2016（旧称：世界のお茶会）

6 月 3 日（金）に A 棟横テント下で実施。日本の抹茶など 9 つの国と地域の学生がお茶やお菓子をふるまいながら自国文化の紹介をし、約 600 名の参加者が交流を行った。当日は豊川市国際交流協会の皆さんの参加もあり、地域の方との交流も深まった。

2) リサイクルデー

本学教職員・学生からリサイクル品を提供していただき、新しく入学した留学生に提供するイベントを下記の通り実施した。

- 実施日（春）：平成 28 年　4 月 11 日（月）
- 実施日（秋）：平成 28 年 10 月　7 日（金）
- 場　所：国際交流会館

(3) 留学生学外研修

12 月 26 日（月）、27 日（火）に外国人留学生学外研修を実施した。この学外研修は、当該年度に入学した留学生を対象に日本の文化、歴史における名所・旧跡、市街地等の見学、日本文化体験等を通じて日本への理解を深めてもらうことを目的として毎年実施している。

今年度は、41 名（日本人チューター3 名含む）の参加があり、世界文化遺産である京都市内の建造物の見学、京都市市民防災センター、友禅染伝統文化体験等留学生の意見を取り入れて実施した。参加者からは、「日本の伝統文化について実際に手を動かして学ぶことができ、日本への理解が深まった」、「防災について学んだことは地震の多い日本に住む上で役立つと思う」、「研修を通して日本人学生や他国からの留学生とも交流できる貴重な機会となった」などの声が聞かれ、有意義な学外研修となった。

(4) 地域交流

①語学講師等派遣

NO.	行事名	派遣先	内容	開催日	参加者数
1	蒲郡らくらく英語会話クラブ①	蒲郡GIA会員	蒲郡らくらく英語会話クラブで質疑応答・英会話練習	4月7日	2
2	時習館高等学校英語研修①	時習館高等学校	英国での合同発表に向けて英語口頭プレゼンおよびポスタープレゼンへのアドバイス等をする（時習館高校のSGH事業）	6月11日	2
3	English Summer Camp	新城国際交流協会	新城市の中学生と英語を使って交流　ＡＥＴ講師の補助業務	8月10日	8
4	出前講座講師（母国紹介）	新城国際交流協会	新城市の小中学校へ出前講座、留学生が英語・日本語で自国の紹介をする	9月	2
5	Happy Day Camp	たはら国際交流協会	田原市でBBQをしながら小中高生と英語で交流	10月2日	7
6	時習館高等学校英語研修②	時習館高等学校	英国での合同発表に向けて英語口頭プレゼンおよびポスタープレゼンへのアドバイス等をする（時習館高校のSGH事業）	10月30日	12
7	Youth Conference	新城ユース会	新城ユースの会会員と英会話で交流	10月30日	9
8	細谷小学校	国際交流クラブCALL	国際交流クラブCALL部員と留学生が訪問し国際交流する	10月31日	13
9	南稜中学校　英語ボランティア	豊橋市立南稜中学校	英語の授業に参加し英会話の練習に協力する	11月2日	3
10	豊橋南高校　英語で交流会	愛知県立豊橋南高校	英語の授業に参加し英会話の練習に協力する	11月7日 11月9日	17
11	蒲郡らくらく英語会話クラブ②	蒲郡GIA会員	蒲郡らくらく英語会話クラブで質疑応答・英会話練習	11月24日	2
12	時習館高等学校英語研修"English Assembly"①	時習館高等学校	高校２年生全員とグループ単位で英会話交流（時習館高校のSSH事業）	12月13日	22
13	時習館高等学校英語研修"English Assembly"②	時習館高等学校	高校２年生全員とグループ単位で英会話交流（時習館高校のSSH事業）	12月15日	10
14	時習館高等学校英語研修③	時習館高等学校	英国での合同発表に向けて英語口頭プレゼンおよびポスタープレゼンへのアドバイス等をする（時習館高校のSGH事業）	12月17日	16
15	時習館高等学校英語研修④	時習館高等学校	英国での合同発表に向けて英語口頭プレゼンおよびポスタープレゼンへのアドバイス等をする（時習館高校のSGH事業）	1月28日	15
合計					140

②まつり等

NO.	行事名	派遣先	内容	開催日	参加者数
1	新城英語道場①県民の森でハイキング	新城国際交流協会	新城国際交流協会の会員の方とイベントを通じ国際交流	5月28日	9
2	手筒花火特別放揚	豊橋市役所観光振興課	吉田城鉄櫓前広場にて訪日外国人と留学生を対象にした手筒花火を鑑賞	6月25日	53
3	新城さくら交流会①	新城さくら国際交流	設楽原決戦場まつりと第二東名長篠設楽原PAの見学	7月3日	6
4	豊橋祇園祭鑑賞会	豊橋市国際交流協会	豊橋祇園まつりにて、桟敷席から花火大会を鑑賞する。お弁当・飲み物付き。	7月16日	73
5	中国留学生と日中友好協会会員と餃子を作る会	豊橋地区日中友好協会	餃子作りと試食を通して中国留学生と友好交流を行う	10月2日	8
6	豊橋まつり	豊橋市国際交流協会	豊橋国際交流協会の方々と総踊りに参加	10月15日	30
7	新城英語道場②県民の森でハイキング	新城国際交流協会	新城国際交流協会の会員の方とイベントを通じ国際交流	10月29日	15
8	新城さくら交流会②	新城さくら国際交流	新城の民家や田峯城を見学し国際交流を深める	11月6日	3
9	マルチリンガルフレンドパーク	ﾋｯﾎﾟﾌｧﾐﾘｰｸﾗﾌﾞ	世界の音楽でゲームやダンス、留学生の言葉で挨拶等	11月20日	4
10	新城さくら交流会③	新城さくら国際交流	マレーシア人留学生の講演会および交流会	12月10日	1
11	鬼祭り見学と梅祭り	ひまわりの会と日東国際文化交流ｸﾗﾌﾞ	豊橋安久美神部神明社で鬼祭の見学と梅林公園の散策	2月11日	8
12	Sports Fes in Shinshiro	新城ユース会	新城市の学生を中心とした若者達と英語で交流	3月5日	7
13	マルチリンガルフレンドパーク	ﾋｯﾎﾟﾌｧﾐﾘｰｸﾗﾌﾞ	世界の音楽でゲームやダンス、留学生の言葉で挨拶等	3月12日	4
14	手筒花火特別放揚	豊橋市役所観光振興課	吉田城鉄櫓前広場にて訪日外国人と留学生を対象にした手筒花火を鑑賞	3月25日	41
合計					262

③ホーム・ビジット等

NO.	行事名	派遣先	内容	開催日	参加者数
1	留学生との交流会(佐久島会)	蒲郡GIA会員	蒲郡GIA会員別荘での交流会。バーベキュー、釣り、散策など。	6月25日～26日	1
2	ヒッポファミリークラブ１泊ホームステイ	ﾋｯﾎﾟﾌｧﾐﾘｰｸﾗﾌﾞ	日本の家庭に一泊ホームステイ	2月11日	3
合計					4

4. 国際交流

（1）ニューヨーク市立大学学部生受入プログラム/CUNY Exchange Program

Duration: May 30th ~ June 17th (18 days)
Partner University: Queens College (QC), The City University of New York (CUNY)
Staff: Ryan, Kamahara, Muramatsu, Yoshimura, Shakouchi, Levin, Matsui, Akiba, Nakamura, members of 2016 Global FD

2016 marked the second year of this program. Compared to 2015 the number of American students was doubled to 10 participants. Participants were recruited this time from across The City University of New York (CUNY). Both the research area of the participants and the contents of the program were more focused on science, technology and business. The length of the program was also expanded to 3 weeks at the request of QC, to allow the participants more free time to explore Japan. The main goals were unchanged, to teach the American students something about culture and technology in modern Japan. Due the highly positive feedback from both sides, we deepened the exchange between this program and the Global FD program for the KOSEN teachers, so that the two groups could mutually assist each other between New York and Toyohashi.

This program offered a range of classes and activities for the American students:
Basic Japanese –
Although this was not a language program, the participants received some survival Japanese classes to help them get by while in Japan.

Culture and Technology Class –
In this class the CUNY students and Global FD (GFD) participants discussed a series of broad themes relating to Japanese culture and society, based on selected text from the book ‘Japan: The basics’ by Christopher Hood. In the final 30 minutes of each class, one of the GFD professors gave a short lecture about their field of scientific research.

Hands on Technology Experience –
The American students visited each of TUT’s five departments, where they were given a ‘hands on’ interactive tour of their activities.

Japanese Culture –
The CUNY students joined various TUT clubs for one session each to learn about student life, and Japanese culture ranging from Japanese archery to street dance. In addition the CUNY students visited local cultural centres where they were able to sample aspects of Japanese culture such as flower arranging and wearing kimono.

Japanese industry and technology –
The CUNY students, accompanied by members of the GFD group and faculty visited tech and engineering related companies in the Aichi area (Honda, Toyota and Sintokogio) for a study tour and discussion.

(2) 高校生招へいプログラム（受入）

趣旨：モンゴル、ベトナム、マレーシア、タイ、インドネシアのトップレベルの高校から、高校生25名を招へいした。本プログラムは、日本の大学の教育システム、日本の大学の雰囲気、勉学・研究の内容、留学時の生活、卒業・修了後の進路等に関する情報を伝え、日本への留学と日本の科学技術への理解を促すことを主な目的としている。また、本学のスーパーグローバル大学創成支援事業の一環として平成30年4月に開始する「グローバルアーキテクト養成コース」での学生獲得に向けた取り組みの一つであるため、引率の教員9名に対しても留学生のサポート体制等を紹介し、日本への留学に対する理解を深めていただいた。

サバイバル日本語の授業を受ける高校生

期間：6月26日（日）～7月3日（日）

内容：①本学の先端研究施設および研究室の見学および模擬講義、②日本滞在中に必要となる簡単な日本語会話の講義、③本学留学生との意見交換会、④日本文化体験（二川宿本陣）、⑤豊橋南高校との交流会、⑥学外施設見学（トヨタ産業技術記念館）

※この活動は（独）科学技術振興機構の日本・ｱｼﾞｱ青少年交流事業さくらｻｲｴﾝｽﾌﾟﾗﾝ及びｽｰﾊﾟｰｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ大学創成支援事業の支援を受けて実施された。

(3) 国際研修プログラム（受入）

趣旨：本プログラムは、インドネシア、マレーシア、中国、ベトナムの交流協定校からの参加学生20名が各自の専攻に対応した研究室体験を行うとともに、ツイニングプログラムをはじめとする本学の教育システム、生活環境等に関する情報を伝え、本学への留学に対する理解や具体的な興味・関心を促すことを主な目的としている。

期間：平成28年11月6日（日）～11月15日（火）

内容：本学研究施設の見学、研究室訪問・ゼミ体験、プレゼンテーション、キャンパスツアー、日本語学習体験、本学留学生との交流、サークル活動体験、豊橋国際交流協会アゼリア会協力による茶道・華道体験、トヨタ産業技術記念館の見学、開講式、歓迎セレモニー、閉講式

グループワーク

茶道体験

※この活動は（独）日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度の支援を受けて実施された。

(4) 特別推薦入学者等の海外研修（派遣）

本研修は、3 年次特別推薦入学者および平成 28 年度優秀学生支援制度表彰者の希望者を対象に、マレーシア・ペナンにおける約 1 週間の海外研修を通じて、国際社会で活躍するグローバル人材の育成に資することを目的としている。ペナン校でのマレーシア科学大学学生とのワークショップをはじめ、マレーシア科学大学（メインキャンパスおよびエンジニアリングキャンパス）の研究室等の見学や日系企業、海外企業の見学、ジョージタウン（世界遺産）の見学、ホームステイ（2 泊）など短期間で充実した内容となっている。

参加学生：特別推薦入学者および平成 28 年度前期卓越した技術科学者養成プログラム
　　学部 3 年生 17 名
期間：3 月 12 日（日）～3 月 21 日（火）
引率教職員：ライアン准教授、レヴィン准教授（総合教育院）、萩原孝明国際課主任
ペナン校：京兼 純特任教授（国際教育センター）、長尾雅行特任教授（国際教育センター）

修了式

企業見学

※この活動は（独）日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度の支援を受けて実施された。

5. 資料

5-1 在学留学生状況

(1) 外国人留学生受入状況

区　分	在籍身分状況												合　計			
	正規生									非正規生						
	学部			修士			博士			研究生等						
	国費	私費		国費	私費		国費	私費		国費	私費		国費	私費		合計
		政府	自費		政府	自費		政府	自費		政府	自費		政府	自費	
◆アジア◆																
1 インド				1									1			1
2 インドネシア	1			4		7	4		8	2			11		15	26
3 ベトナム			12	1		9	1		3			1	2		25	27
4 スリランカ						1			1						2	2
5 大韓民国						1			2			2			5	5
6 中華人民共和国			3			3			1			1			8	8
7 ネパール						1									1	1
8 パキスタン									1						1	1
9 バングラデシュ				1		1	2		1				3		2	5
10 マレーシア		30	1		7	6		4	3					41	10	51
11 ミャンマー									1						1	1
12 モンゴル	1		3			1							1		4	5
13 ラオス	2		1			2							2		3	5
◆中南米◆																
14 ペルー							1						1			1
15 メキシコ										1			1			1
◆ヨーロッパ◆																
16 ドイツ						2									2	2
17 フィンランド												2			2	2
18 ブルガリア							1						1			1
◆中東◆																
19 アフガニスタン						4									4	4
20 トルコ						1	1						1		1	2
◆アフリカ◆																
21 エジプト							2					1	2		1	3
22 ガーナ							1						1			1
23 ウガンダ			1	1									1		1	2
24 ギニア												1			1	1
25 タンザニア						1	1		1	1			2		2	4
26 チュニジア							1						1			1
小　計	4	30	21	8	7	40	15	4	22	4	0	8	31	41	91	163
合　計	55			55			41			12			163			

H28.5.1現在

備考：平成16年12月1日より、文部科学省からの通達に基づき、JDS事業により奨学金を受給している学生を、「私費」から「政府派遣」 に切り替える。
※ベトナム（博士・私費・自費）に在留資格が「永住」の者を含む。

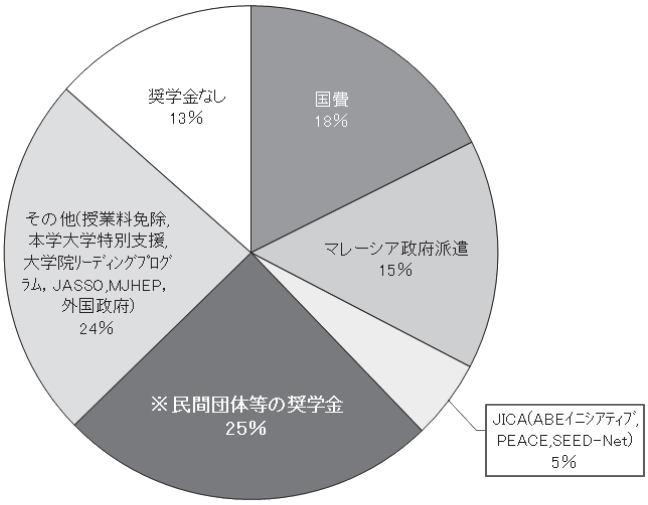
(2) 外国人留学生宿舎状況

区　分	宿舎状況						合計
	大学宿舎			大学宿舎以外			
	国際交流会館	学生宿舎		公営住宅	民間アパート	その他	
		A-D棟	E-F棟（国際棟）				
◆アジア◆							
1 インド					1		1
2 インドネシア	6	1	1	9	9		26
3 ベトナム	8	10	2		7		27
4 スリランカ		1	1				2
5 大韓民国	2	2			1		5
6 中華人民共和国		1	1				2
7 ネパール					5		5
8 パキスタン				1	1		2
9 バングラデシュ	2	1		1	1		5
10 マレーシア	3		1	5	42		51
11 ミャンマー	1						1
12 モンゴル		3			2		5
13 ラオス		1			4		5
◆中南米◆							
14 ペルー					1		1
15 メキシコ	1						1
◆ヨーロッパ◆							
16 ドイツ	3						3
17 フィンランド	2						2
18 ブルガリア					1		1
◆中東◆							
19 アフガニスタン	3				1		4
20 トルコ	1				1		2
◆アフリカ◆							
21 エジプト	1			2			3
22 ガーナ				1			1
23 ウガンダ					2		2
24 ギニア	1						1
25 タンザニア	2			2			4
26 チュニジア					1		1
小　計	36	20	6	21	80	0	163
合　計	36	26		101			163

H28.5.1現在

備考：平成16年12月1日より、文部科学省からの通達に基づき、JDS事業により奨学金を受給している学生を、「私費」から「政府派遣」に切り替える。
※ベトナム（博士）に在留資格が「永住」の者を含む。

(3) 奨学金受給状況　〈H28 年度年間受給者数〉



※民間団体等の奨学金の内訳

ロータリー米山記念奨学金	8
名鉄国際育英会	3
日本ガイシスカラシップ	4
愛知のものづくりを支える留学生奨学金	6
にっとくアジア留学生奨学基金	2
ドコモ留学生奨学金	1
マブチ国際育英財団	2
日揮・実吉奨学会	2
市原国際奨学財団	1
ヒロセ国際奨学財団	3
横山国際奨学財団奨学金	2
オーエスジー外国人留学生奨学金	2
神野教育財団	1
服部国際奨学財団	2
豊秋奨学会	1
天野工業技術研究所	1
豊田通商留学生奨学金	1
トヨタコミュニケーションシステム奨学金	1
大幸財団	1
大塚敏美育英奨学財団	1
川嶋章司記念スカラーシップ基金	1
佐藤陽国際奨学財団	1
日立スカラーシップ	1
合計	48

5-2　国際交流センター状況

(1) CALL 教室および自習室利用状況

CALL 教室の授業外開放（4 月～7 月、10 月～2 月の平日：9 時から 19 時開放）

CALL ラボ教室　利用者数（次週及び一部授業での利用含む）

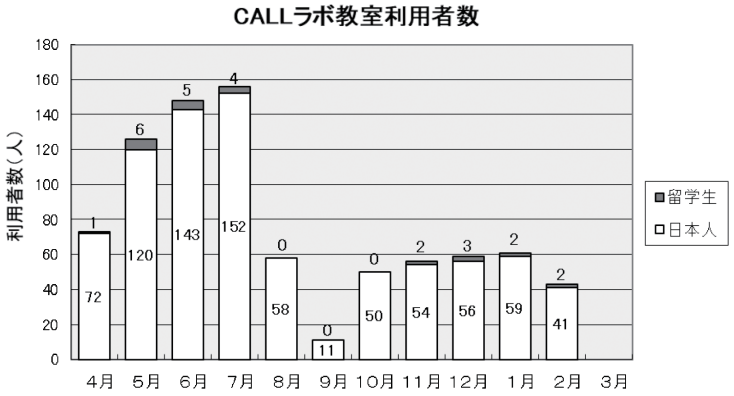
利用月	利用者数(人)	
	日本人	留学生
4月	72	1
5月	120	6
6月	143	5
7月	152	4
8月	58	0
9月	11	0
10月	50	0
11月	54	2
12月	56	3
1月	59	2
2月	41	2
3月	―	―

	利用者数(人)		
	日本人	留学生	計
年間合計	816	25	841
月平均	74	2	76
1日平均	3.7	0.1	4

※出入管理システムの入退室記録を基に算出した。

※8月、9月、3月は閉室。　なお、8月、9月は一部開放。

平成 23 年度および平成 24 年度のシステム更新から 5 年が経過する。今のところ、ほぼ安定した稼働状態にあるが、次の更新を検討する時期となる。昨年度に比べ、授業での利用は減少したが、自習での利用は増となっている。



「自習」利用者数
(過去 3 年)
H26 年度　358 名
H27 年度　659 名
H28 年度　841 名

CALL ラボ教室　授業での利用状況

前期

科目	教員名	コマ数	学生数	延べ人数	授業回数
英語ⅠAb	笹尾	1	32	480	15
英語基礎	レヴィン	1	16	240	15
英語ⅠAc	毛利	1	23	345	15
英語ⅤBf	秋元	1	48	720	15
英語ⅠBa	社河内	1	35	525	15
外国語学習論a	笹尾	1	45	90	2
外国語学習論b	笹尾	1	37	74	2
	合計	7	236	2474	79

後期

科目	教員名	コマ数	学生数	延べ人数	授業回数
英語ⅡAb	笹尾	1	32	480	15
英語ⅡAc	毛利	1	24	360	15
工学基礎日本語	村松	1	3	45	15
英語ⅣBf	秋元	1	38	570	15
特別推薦学生授業	レヴィン	1	15	150	10
	合計	5	112	1605	70

総延べ人数	総実数
4079	348

「授業」利用者数
(過去 3 年)
H26 年度　3,878 名
H27 年度　4,820 名
H28 年度　4,079 名

自習室の利用時間（平日の午前９時から午後 10 時まで）

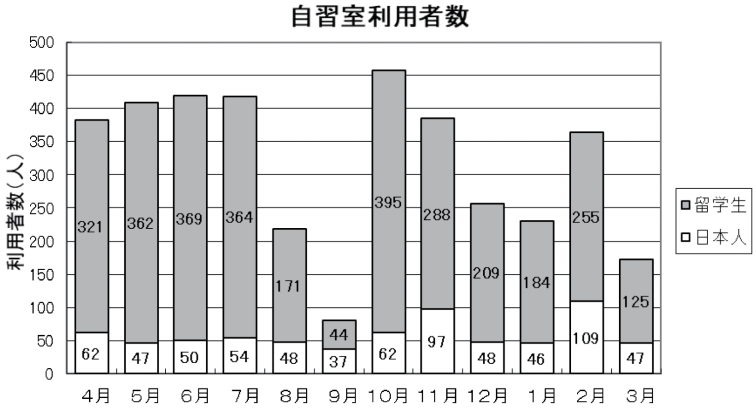
自習室利用者数

利用月	利用者数（人）	
	日本人	留学生
4月	62	321
5月	47	362
6月	50	369
7月	54	364
8月	48	171
9月	37	44
10月	62	395
11月	97	288
12月	48	209
1月	46	184
2月	109	255
3月	47	125

	利用者数（人）		
	日本人	留学生	計
年間合計	707	3,087	3,794
月平均	59	257	316
1日平均	2.9	12.9	15.8

※出入管理システムの入退室記録を基に算出した。

平成 26 年度末に一部視聴覚機器およびブースの更新を行い、学習用スペースを新たに設けた。昨年度と比較すると、日本人学生の利用が減少し、留学生は逆に増加となった。静寂で落ち着いた環境が好評のようである。



3 年間の利用者数
H26 年度　3,092 名
H27 年度　3,173 名
H28 年度　3,794 名

(2) 平成 28 年度に導入した主な機器及び教材

＜機器＞
●パーソナルコンピュータ（Windows 10）
HP ProDesk 600 G2 SF/CT（Core-i5）　1 台
HP ProDesk 600 G2 SF/CT（Core-i3）　9 台

＜教材＞
DVD
●英語、その他外国語（映画）
「アリスのままで」
「イミテーション・ゲーム　エニグマと天才数学者の秘密」
「インサイド・ヘッド」
「ネブラスカ　ふたつの心をつなぐ旅」
「はじまりのうた」「ブリッジ・オブ・スパイ」

CD
TOEIC テスト公式問題集　新形式問題対応編

テキスト（DVD 付）
●日本語教材
エリンが挑戦！　にほんごできます。Vol.1～3
ビジネス日本語①〈内定者編〉、②〈新入社員編〉

＊ 教材は全て自習室に配架してあります。

(3) 行事一覧

月	日　付	行事
4月	4日（月）	外国人留学生ガイダンス・懇親会（4月）
	8日（金）	前期日本語研修コースⅠ（初級）、Ⅱ（初中級）プレイスメントテスト
	11日（月）	国際交流会館ガイダンス、第20回国際交流デー　～ リサイクルデー ～
	11日（月）	業界別説明会①
	13日（水）	前期日本語研修コースⅠ（初級）オリエンテーション、開講式
	14日（木）	前期日本語研修コースⅠ（初級）、Ⅱ（初中級）授業開始
	15日（金）	前期Basic Japanese 授業開始
	15日（金）	第1回IGNITE運営会議
	15日（金）	業界別説明会②
	19日（火）	第1回CIRスタッフミーティング
	22日（金）	第1回留学生のための日本語能力試験等説明会
	27日（水）	日本ガイシスカラシップ奨学金授与式
5月	10日（火）	第2回IGNITE運営会議
	11日（水）～13日（金）、18日（水）	第1回留学生のための学業相談会
	17日（火）	第2回CIRスタッフミーティング
6月	5月30日（月）～6月17日（金）	ニューヨーク市立大学学部学生受入
	3日（金）	第21回国際交流デー　～　TUT EXPO 2016　～
	9日（木）	業界別説明会③
	14日（火）	第3回IGNITE運営会議
	16日（木）	業界別説明会④
	21日（火）	第3回CIRスタッフミーティング
	26日（日）～7月3日（日）	高校生招へいプログラム（受入：ﾓﾝｺﾞﾙ1校・ﾏﾚｰｼｱ3校・ﾍﾞﾄﾅﾑ1校・ﾀｲ2校・ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ2校
7月	4日（月）～8日（金）、12日（火）	第2回留学生のための学業相談会
	12日（火）	第4回IGNITE運営会議
	16日（土）	祇園花火　豊橋市国際交流協会（学外招待）
	19日（火）	第4回CIRスタッフミーティング
8月	3日（水）	前期日本語研修コースⅠ（初級）、Ⅱ（初中級）授業終了
	22日（月）～24日（水）	集中講座【英会話】
	27日（土）	オープンキャンパス
	29日（月）～31日（水）	集中講座【中級TOEIC対策】
	30日（火）	第5回CIRスタッフミーティング
9月	6日（火）	集中講座【マレー語～言語と文化～】
	13日（火）	第5回IGNITE運営会議
	20日（火）	第6回CIRスタッフミーティング
１０月	4日（火）	外国人留学生ガイダンス・懇親会（10月）
	7日（金）	第22回国際交流デー　～ リサイクルデー ～
	11日（火）	後期日本語研修コースⅠ（初級）、研修コースⅡ（初中級）プレイスメントテスト
	13日（木）	後期日本語研修コースⅠ（初級）オリエンテーション
	14日（金）	後期日本語研修コースⅠ（初級）授業開始
	14日（金）	第2回留学生のための日本語能力試験等説明会
	15日（土）	豊橋まつり「総おどり」豊橋市国際交流協会（学外招待）
	18日（火）	第7回CIRスタッフミーティング
	18日（火）	後期日本語研修コースⅡ（初中級）、Basic Japanese　授業開始
	18日（火）	第1回留学生のための進路・就職ガイダンス（日本語を話せる留学生対象）
	20日（木）	第2回留学生のための進路・就職ガイダンス（日本語を話せない留学生対象）
	20日（木）	集中講座【日本語能力試験対策講座】
	25日（火）	第6回IGNITE運営会議
１１月	6日（日）～15日（火）	国際研修プログラム（受入：ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ 2校・ﾏﾚｰｼｱ 1校・ﾍﾞﾄﾅﾑ 1校・中国 1校・ﾓﾝｺﾞﾙ 1校）
	15日（火）～21日（月）	第3回留学生のための学業相談会
	17日（木）	日本人学生対象　留学ガイダンス
	22日（火）	第8回CIRスタッフミーティング
	22日（火）	第3回留学生のための進路・就職ガイダンス
	24日（木）	第4回留学生のための進路・就職ガイダンス
	24日（木）	第7回IGNITE運営会議
１２月	6日（火）	第9回CIRスタッフミーティング
	13日（火）	第8回IGNITE運営会議
	15日（木）	業界別説明会⑤
	26日（月）～27日（火）	留学生学外研修（１泊２日）
1月	10日（火）	第10回CIRスタッフミーティング
	12日（木）	第5回留学生のための進路・就職ガイダンス
	12日（木）	留学生対象引越しセミナー
	17日（火）	第9回IGNITE運営会議
	19日（木）	第6回留学生のための進路・就職ガイダンス
	23日（月）	留学生意見交換会・留学生懇談会
	24日（火）～30日（月）	第4回留学生のための学業相談会
	26日（木）	第7回留学生のための進路・就職ガイダンス
2月	7日（火）	第11回CIRスタッフミーティング
	9日（木）	第10回IGNITE運営会議
	13日（月）～17日（金）	第5回留学生のための学業相談会
	23日（木）	後期日本語研修コースⅠ（初級）、Ⅱ（初中級）授業終了
3月	2日（木）	第8回留学生のための進路・就職ガイダンス
	3日（金）	海外留学体験報告会
	7日（火）	集中講座【マレー語～言語と文化～】、特別推薦入学者等の海外研修事前説明会
	8日（水）	第12回CIRスタッフミーティング
	12日（日）～21日（火）	特別推薦入学者等の海外研修（派遣：マレーシア　USM）
	28日（火）	第11回IGNITE運営会議

その他の活動：留学生相談、同窓会

（4）スタッフ出張報告一覧

日　程	用務	用務先	出張者
4月27日（水）	2016年度日本ガイシスカラシップ認定証授与式出席	日本ガイシ株式会社	大門　裕之
5月17日（火）	高校生受入プログラム打合せ	愛知県立豊橋南高等学校	大門　裕之 鈴木　聖子
6月10日（金）	ニューヨーク市立大学学生受入プログラム引率	トヨタ会館	蒲原　弘継
7月 1日（金）	高校生受入プログラム引率	愛知県立豊橋南高等学校	鈴木　聖子
7月27日（水）	政府派遣学生に関する打合せ	マレーシア大使館	蒲原　弘継
8月15日（土）～19日（金）	第10回TUT-USM協議会の運営及び出席	①ペナン校 ②Park Royal Hotel and Resort	大門　裕之
10月27日（木）～11月1日（火）	進学担当教員との意見交換及びITBキャリアフェア参加	①国立ジャカルタ第八高校 ②国立バンドン第三高校 ③国立バンドン工科大学	蒲原　弘継
11月 2日（水）	JCSOSセミナー「海外派遣・研修における定例危機管理セミナー」参加	早稲田大学小野記念講堂	大門　裕之
11月11日（金）	平成28年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議出席	一橋大学一橋講堂	大門　裕之
11月12日（土）	国際研修プログラム（受入）引率	二川宿本陣資料館	大門　裕之
11月13日（日）	国際研修プログラム（受入）引率	トヨタ産業技術記念館	ライアン　ユージン
12月26日（月）～27日（火）	留学生学外研修引率	京都市市民防災センター他	蒲原　弘継
2月 3日（金）～ 4日（土）	平成28年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会参加	大阪大学吹田キャンパス	蒲原　弘継
2月28日（火）	平成28年度留学生交流実務担当教職員養成プログラム(報告会)参加	日本学生支援機構東京国際交流会館プラザ	蒲原　弘継
3月12日（日）～21日（火）	平成28年度特別推薦入学者等の海外研修引率	ペナン校、マレーシア科学大学他	ライアン　ユージン

国際教育センター(CIE)

Center for International Education (CIE)

国際教育センター長　挨拶

教　授　　松　田　　厚　範

平成 24 年度に始まった大学改革強化推進事業（期間：平成 24 年度～平成 29 年度）は、本平成 28 年度で 4 年が経過しました。それぞれのプログラムは本格的に実施され、その努力が成果として結実し、さらに継続・維持・発展に向けた新たな施策を模索する重要な時期を迎えつつあります。本学は、本事業においてグローバル教育の強化・展開を担当し、学内にグローバル工学教育推進機構を平成 25 年 10 月設置し、同時に本国際教育センター(Center for International Education: CIE) を発足させ、これを精力的に進めています。CIE は、

1. 海外教育拠点（ペナン校）の設置・運営
2. 国際プログラムペナン校特別コースの企画・実施
3. グローバル技術経営（MOT）を含む海外実務訓練の整備・実施
4. グローバル e-ラーニングの整備・展開支援
5. 教職員のグローバル力を高めるためのグローバルファカルティ ディベロップメント（FD）/ スタッフ ディベロップメント（SD）の企画・実施

をミッションとし、これらを強力に推進しています。

平成 28 年度には、本学電気・電子情報工学系を定年退職された長尾名誉教授がペナン校常駐特任教授として着任し、高専機構元理事である京兼特任教授と共に、ペナン地区の企業や教育機関との連携強化を強力に推進しています。ペナン校を活用した日本人学生の海外実務訓練、高専教員と技科大教員のグローバルＦＤプログラム及び職員のグローバルＳＤプログラムも実施されました。特に、ペナンでの海外実務訓練を行う学生数が大きく増大しました。また、高専学生の海外英語研修の実施等、高専と連携したプログラムも試行され、ペナン校近隣の DISTED College との特色ある学部ツイニングプログラムもスタートしました。さらに、三機関の海外同窓生交流会を開催し、多くの参加者がありました。

マレーシア科学大学（USM）とは、定期的な協議会、サマースクールの合同実施、共同研究、ツイニング・ジョイントディグリープログラムなどを通して関係強化が一層進んでおります。国際会議第 4 回 IGNITE2016 を 8 月に USM と協力して International Conference on Advanced Informatics; Concepts, Theory and Application（ICAICTA）との共催により実施し、国外研究者・学生のほか、日本からの研究者・学生を合わせて総計 145 名の参加がありました。また、USM と本学が共催する形でアセアン諸国大学学長会議を 12 月にペナン校で初めて開催し、アセアン 8 ヵ国から 22 大学、日本から本学、長岡技術科学大学、国立高等専門学校機構等が参加し、国際戦略等に関する活発な意見交換が行われました。これらの活動は、本学の教職員のみなさまの多大な努力と協力によって支えられており、その様子は、本活動報告書をご覧いただければ、よくご理解頂けるものと思います。

冒頭にも書きましたが、平成 29 年度は本事業の最終年度を迎え、本学のグローバル化実現に向けて、継続・維持・発展が求められる重要な年度となります。グローバル工学教育推進機構ならびに国際教育センターの活動に、みなさまの一層のご理解、ご協力、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1. プログラム

(1) 海外実務訓練（グローバル人材教育システム）

平成29年1月及び2月にペナンで海外実務訓練を実施した。平成28年4月に参加希望学生を募集し、23名の応募者の中から英会話力などを基準に22名を選考した。また、マレーシア人留学生2名がペナンでの実務訓練を希望したので、合計24名の参加者となった。日本人学生22名は航空券を各自購入して日本を発ち、1月2日の夜から3日の午前中にかけてペナンに到着した。1月4日から6日までの3日間、マレーシア科学大学（USM）でオリエンテーションを受けるとともにUSMの学生ビザを取得した。また、実務訓練手当受領のために一部の企業から依頼された学生は銀行口座をこの間に開設した。これらの準備の後、1月9日から2月23日までペナンにおける各企業での海外実務訓練を実施した。

学生の派遣先企業は全部で17社であり、3人派遣企業はTorayの1社、2人派遣企業はIntel、Keysight、MEI、Mini-Circuits、QDOSの5社、1人派遣企業はAdvantest、Clarion、NGK-ED、NGK-G、Ambu、ARUP、NI、B.L.Tay、Daya CMT、Magnibridge、USAINS Biomicsの11社であった。なお、学生の派遣は原則1社1人としているが、工場や部署が大きく異なる場合は事情により複数学生の派遣も許容した。企業のタイプ別内訳としては、日系企業が5社7名、多国籍企業が5社7名、地元企業が7社10名であった。

学生が企業で受けた実務訓練の内容は、基礎研究から製品開発や品質管理まで幅広いものであった。この実務訓練期間中にペナン校で2月4日（土）に中間報告会、2月24日（金）に最終報告会を実施した。学生、TUT教員、受入企業の指導者のみならず、丁度、ペナンにおけるグローバルFD研修に参加している高専教員の方々5名にも参加いただき、英語での活発な発表・質疑応答となった。

昨年度から学生が航空券を各自購入することになったので、マレーシア入国の場所と日時が学生により異なる結果となった。ペナンで入国した学生では全く問題は生じなかった。クアラルンプールで入国した学生の中には係官によって入国手続に時間を要した場合もあったが、最終的に特に問題は生じなかった。実務訓練中の学生の宿泊場所は派遣会社に比較的近く、ショッピングなどにも便利なアパート（プトラ・プレース及びスリ・コンコルディア）であり、学生に好評であった。

ペナン海外実務訓練に必要な1人当たりの全体費用（航空券などを含む）としては、旅行や贅沢等をしなければ、約2ヶ月で15万円以内に抑えることが出来た。

USMでのオリエンテーション（1月6日）

ペナン校での最終報告会（2月24日）

(2) 教員グローバル人材育成力強化プログラム（長期FD）

国立大学改革強化推進事業（三機関連携事業）の一環として、グローバル指向人材育成に必要となる教員（国立高等専門学校教員を含む）の能力強化として、英語による教育指導法を習得させるとともに、異文化間コミュニケーション能力の向上を目的とした「教員グローバル人材育成力強化プログラム（長期ＦＤ）」の取り組みを実施した。

3年目を迎えた平成28年度（第三期生）は、本学教員1名、長岡技科大教員1名、高専教員5名（グ

ローバル FD 研修者）の計 7 名が本プログラムに参加した（表 1)。本プログラム研修者は、①本学での 3 か月間 (4 月～6 月) の事前英語研修を経て、②交流協定先のニューヨーク市立大学クイーンズ校 (QC) において 6 か月間（7 月～12 月）の英語研修を行い、英語での教授法等について本格的に学んだ後、③本学のマレーシア教育拠点「ペナン校」(平成 25 年 12 月にマレーシア・ペナン州に設置）を拠点とし、マレーシア科学大学（USM）等の教育機関において英語による授業の実践等を行った（1 月～3 月)。

表 1　平成 28 年度グローバル FD 研修者（第三期生）及びメンター教員

高専/大学	受講教員	本プログラムのメンター教員 （上段:本学教員, 中段:QC教員, 下段:USM教員）	所属学科
釧路高専	山田　昌尚　准教授	秋葉　友良　准教授	情報・知能工学系
		－	－
		Assc.Prof. Dr. Intan Zarina	Computer Sciences
秋田高専	上林　一彦　講師	中村　雄一　准教授	電気・電子情報工学系
		Assistant Prof. So Takei	Physics
		Prof. Dr. Yoon Tiem Leong	Physics
木更津高専	関口　昌由　教授	後藤　仁志　准教授	情報・知能工学系
		濱田　信次　特任講師	次世代シュミレーション技術者教育推進室
		－	－
		Prof. Dr. Amirah Azmi	Mathematical Sciences
福井高専	江本　晃美　講師	浅野　純一郎　教授	建築・都市システム学系
		Assc. Prof. Tarry Hum	Urban Studies
		Assc. Prof. Dr. Nurwati Badarulzaman	Housing, Building and Planning
宇部高専	中岡　伊織　准教授	増山　繁　教授	情報・知能工学系
		Prof. Bon K. Sy	Computer Science
		Assc. Prof. Dr. Azizah Omar	Management
豊橋技科大	吉田　絵里　准教授	－	－
長岡技科大	宮下　　剛　准教授	－	－
英語メンター教員		加藤　三保子　教授	総合教育院
		Ryan Eugene　准教授	国際交流センター
		Levin David　准教授	総合教育院
		社河内　友里　講師	総合教育院

1）本学での英語事前研修（平成 28 年 4 月 1 日～6 月 18 日）

本グローバル FD 研修プログラムの開始に先立ち、本学における事前説明会（平成 28 年 3 月 3 日～4 日）を実施し、グローバル FD プログラムの全体説明を行い、さらに、本学グローバル FD 研修教員（秋葉友良准教授、松井智哉准教授）から TUT・QC 研修内容及び生活等の説明について、実際の体験に基づき情報提供を行った。また、本学メンター教員及び本学 FD 担当教職員との事前の交流を図った。

本学にて 4 月 1 日に開講式を行い、井上光輝理事・副学長の激励のもと本グローバル FD 研修をスタートさせた（図 1)。翌週 4 日から英語研修がスタートし、本研修向けに特別に設計した特別英語プログラム（42 コマ：90 分／コマ）を受講した。さらに、前年度の研修教員（第二期生）の意見を反映し、英会話の機会を増やすために､オンライン英会話(25 分／日 ×2 回、3 ヶ月間）の時間数を倍増し、さらに、本学の留学生をチューターとして個別に配置して交流を行うという新たなプログラム（1 時間×2 回／週×8 週）を導入し、研修内容の改善を図った。また、ニューヨーク市立大学（CUNY）からの交換留学生 10 名（QC 校：5 名，City 校：4 名，Hunter 校：1 名）との交流を通じた実践的な英語研修（日本の技術や文化などを題材にした授業など）についても昨年度の経験を踏まえて研修内容を改善して実施した（5 月 30 日～6 月 17 日の 3 週間)。

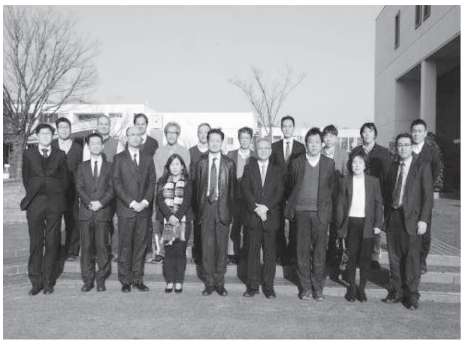


図 1　本学での開講式

本学での英語研修の締めくくりとして、グローバル FD 研修公開授業（Showcase wrap-up、6 月 3 日）

を実施し、各人 25 分（内、5 分は質疑応答）の英語での模擬授業を行い、本学教員及び学生へ授業を公開した。また、国立高専に対しても GI-net を利用した授業のライブ配信を行った。なお、本授業には、CUNY 交換留学生も参加し、積極的に質問をするなど場を大いに盛り上げた。

また、高専教員は、英語研修以外にも本学のメンター教員（表 1 参照）の研究室に所属し、共同研究等の取り組みを通じて、研究力強化にも努めた。

2）QC での英語研修（平成 28 年 6 月 26 日～12 月 24 日）

グローバル FD 研修者 7 名は、6 月 26 日に日本を出発し、QC 学生寮（Summit）での共同生活を開始し、QC 教授陣（Dr. Steven Schwarz、Dr. Donna Gruber、Dr. Eva M. Fernández など）のサポートのもとで、研修をスタートさせた。6 月 28 日には、英語プレスメントテストを受講し、7 段階のレベルにクラス分けされ、English Language Institute（ELI）での「夏季英語集中コース」（6 時間/日×4 日/週×6 週間＝144 時間）を受講した（6 月 30 日～8 月 11 日）。秋学期（8 月 27 日～12 月 23 日）からは、QC 教員が本研修者向けに開発した「英語特別プログラム（Teaching in English)」（2 時間/週×14 週@CTL）を受講し、英語での教授法について本格的に学んだ。また、学生目線から体験的に英語での教授法を習得するために、専門科目 1 科目（3～4 credits）の単位を修得し、さらに、聴講用として複数科目（4 科目程度、50～100 時間程度）を受講した。この間、英語スキルの向上を支援するために「英語サポートクラス（English support class)」（3 時間/週×8 週@ELI）も同時に受講した。また、QC での英語研修の締めくくりとして各人 25 分（質疑応答含む）の「Wrap up プレゼンテーション」（12 月 9 日）を実施した（図 2)。本発表会には、QC 教授陣に加えて、本学からは、柴田隆行教授、秋葉友良准教授、Ryan Eugene 准教授が出席し、QC 教授陣とともにプレゼンテーションスキルの評価を行い、ベストプレゼンター2 名を選出した。なお、グローバル FD 教員には QC より修了証書が手渡された。

図 2　ＱＣでの Wrap up プレゼンテーション

また、高専教員は、研究力強化とグローバル展開を見据えて QC メンター教員（表 1 参照）との共同研究等の可能性について模索した。しかし、昨年度と同様に、グローバル FD 研修者と QC メンター教員の専門分野のミスマッチングや、研究室をもたない QC 教員がメンターになるケース等があり、共同研究等に発展させることが難しい状況が多く、改善の余地を残した。しかし、QC の語学パートナーを見つけて英会話の機会を増やす努力をするなど、限られた状況の中でも各自が積極的に活動したことは本グローバル FD 研修の一つの成果と言える。

QC 研修中は、「QC だより」（全 5 号発行、執筆 2 名/号）として、QC での英語研修の様子や共同研究の取り組み状況、さらにはニューヨークでの生活情報等を三機関に配信した（本学ホームページでも公開：http://ignite.tut.ac.jp/cie/activities/fd.html)。

3）ペナンでの英語研修（平成 29 年 1 月 15 日～3 月 5 日）

本プログラムの最終段階として、高専教員 5 名が本学ペナン校を拠点とした約 2 か月間の実践的な英語研修をスタートさせた。現地では、これまでスキルアップしてきた「英語コミュニケーション能力」と「英語で授業を行う教授法」の実践として、USM 等の教育機関での英語での授業を実施した。今年度の新たな試みとして、USM では高専教員の専門性を考慮して各 School に配属し、Universiti Sains Malaysia（USM）側の窓口教員（表 1 参照）との事前コンタクトを取りながら、英語授業の実践、研究

紹介などを含む2週間（2月20日～3月3日の期間）の研修プログラムを高専教員自らが計画して実践した。また、Politeknik Seberang Perai（PSP）においても1週間（2月6日～2月10日）の研修期間を設け、英語での授業実践ならびにPSP教員との交流を行った。さらに、今年度は、Politeknik Tuanku Sultanah Bahiyah（PTSB）を新たな研修機関（2月12日～2月16日）として加え、ペナン研修プログラムの大幅な改善を図った。今年度のペナン研修内容についても、FD研修者からは非常に高い評価を得ることができた。また、授業の受講生からは概ね良好な評価が得られており、本研修の効果が現れた結果と言える。

図3　ペナン校での修了式

また、本グローバル研修者は、1年間の研修の成果として、「英語で授業をするための教材」を独自に開発した。本教材及び授業2コマ分の動画コンテンツについては、本学教職員ならびに高専機構を通じて高専教員に広く公開し、英語での授業を行うためのFD活動として活用できるよう準備を進めている。

さらに、ペナン研修中には、本学学生の海外実務訓練中間報告会（2月1日）に参加し、積極的に英語で質問するなど、英語能力のスキルアップの効果を発揮して報告会を盛り上げた。

また、ペナン研修中は、「ペナンだより（グローバルFD)」（全3号発行予定、執筆2名/号）として、USM等の教育機関での英語授業の実践の様子やペナンでの生活情報等を三機関に配信する準備を行っている（本学ホームページでも公開)。最終号は「1年間を振り返って」と題して、全研修者が執筆し、本グローバルFD研修を総括した。なお、「QCだより」も含めた編集・校正作業については、本学のグローバルFD第二期生である秋葉友良准教授、松井智哉准教授がスキルアップした英語能力を生かして、取りまとめを行った。

本グローバルFD研修の締めくくりとして、平成29年3月4日に本学ペナン校において、意見交換を行った後、「平成28年度教員グローバル人材育成力強化プログラム（長期FD)」 の修了式を執り行い、1年間の本プログラムに参加した高専教員5名と、12月までの9ヵ月間研修を行った本学教員1名（吉田絵里准教授）に修了証書が授与された。なお、長岡技科大教員1名（宮下剛准教授）には後日修了証書が授与された。修了式後には、ペナン校で盛大な懇親会を行い、1年間のグローバルFD研修の成功の喜びを分ち合った。なお、現地に駐在している本学の京兼純特任教授、長尾雅行特任教授、現地スタッフのFong Siew Khuan氏、Siew Mian Ooi氏のきめ細やかな対応によって、ペナンでの全研修を滞りなく実施することができた。次年度も本サポート体制でペナン研修を実施する予定である。

4）グローバルＦＤ研修の達成度評価

表2に1年間の研修を終えて本研修プログラムの内容と自己の達成度を評価した研修者のアンケート結果を示す。総じて、満足する研修内容であったと評価できる結果であったと言える。しかし、昨年度と同様に、研修者の中には期待した内容ではなく、自己の達成度に満足していないという厳しい評価もある。本FDに参加した教員は多様であり、研修スタート時点での英語スキルにも大きな隔たりがあり、かつ教員の職階や年齢も異なるため、各自の到達・達成目標には大きな違いがある。このため、単独の研修プログラムで全ての要求を満足させることは非常に難しいことを今年度も痛感した。しかしながら、過去2年間のアンケート結果と比較すると、達成感・満足感は総じて高い評価となっており、本グローバルFD研修プログラムが確実に改善され、進化していることが伺える結果となった。今年度のFD研修者の意見を反映し、研修者個々の要望をでき得る限り実現できるように、次年度も引き続きプログラムの改善に努力する。表3には本研修でスキルアップできた事項をまとめたものを示している。

以上のことから、次年度以降に改善すべき点などはあるものの、本グローバル FD 研修の効果と意義はほぼ達成されたと言える。

5）グローバル FD 研修フォローアップ企画

本グローバル FD 研修を修了した高専教員（第一期生 10 名、第二期生 8 名）を対象とし、フォローアップ企画を実施した。

（i）英語講義実践（グローバル教育力強化）

本企画は，高専教員の英語による専門科目等の指導法の向上を図るとともに、本学学生が広く国際舞台で指導的な技術者・研究者として将来活躍するための意識啓発を図ることを目的とし、本学開講の専門科目等の講義 1 コマ分（90 分）の枠を利用して「英語での講義」を実施した。

（ii）国際共同研究支援（グローバル研究力強化）

海外研修機関であったニューヨーク市立大学クイーンズ校（QC）またはマレーシア科学大学（USM）に所属する教員との国際共同研究を支援することを目的とし、2 件の採択（支援経費：50 万円／件）を行った。本企画は、高専教員のグローバル研究力強化を図るとともに、グローバル人材の育成という観点から、本プロジェクト（国際共同研究）に参画する高専生に対する高い教育効果を期待して実施した。さらに、本プロジェクトを経験した高専生がコアとなることで、他の学生のグローバル意識を醸成し、高専全体のグローバル化推進の契機となる波及効果についても期待して支援を行った。

（iii）連携教員制度の導入

本グローバル FD 研修の修了者（高専教員 18 名）を本学の連携教員として採用し、高専連携推進センター所属とした。主なミッションは、①本学学生のグローバル化の支援（英語授業ほか）、②本学との協働の下で行う高専学生のグローバル化推進活動、③本学教員との共同研究を含む本学－高専連携強化に係る活動等である。GI-net を利用した月例ミーティングを実施し、情報交換を行うとともに、本学－高専が連携した高専学生育成プログラム等の企画を検討している。

表２　平成２８年度グローバルＦＤ研修アンケート（総括）

1.TUT 研修					
1-1)英語研修(アルク)	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満足	不満足
	3	2			
1-2)研究活動	出来た	ほぼ出来た	どちらともいえない	あまり出来なかった	出来なかった
		1	3	1	
1-3)生活環境	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満	不満足
	4	1			
2.QC 研修					
2-1)英語研修(@ELI)	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満足	不満足
	4	1			
2-2)英語研修 (Teaching in English@CTL)	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満足	不満足
	2	2		1	
2-3)専門科目の受講	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満足	不満足
	3	1	1		
2-4)研究活動(共同研究など)	出来た	ほぼ出来た	どちらともいえない	あまり出来なかった	出来なかった
	1	1	2		
2-5)生活環境	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満足	不満足
	2	2		1	
3.ペナン研修					
3-1)英語授業の実践	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満足	不満足
	2	3			
3-2)英語授業以外の活動	出来た	ほぼ出来た	どちらともいえない	あまり出来なかった	出来なかった
	2	3			
3-3)生活環境	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満足	不満足
	1	2	2		
4.グローバル FD 研修（全般）					
4-1)研修全体を通じた印象は?	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満足	不満足
	4	1			
4-2)研修に参加してスキルアップを図れたか？	出来た	ほぼ出来た	どちらともいえない	あまり出来なかった	出来なかった
	4	1			

表 3　グローバルＦＤ研修でスキルアップできた事項

受講者	英語で授業を行うためのスキルアップ	その他（研究，グローバルマインド，人間力等）
A	スピーキングでは、まず発音が改善された。特に、それまで弱かった子音の f や l に注意できるようになり、母音の区別もより明確になった。発話では fluency が向上したことに加え、平易な言葉を選んで話すことが可能となった。これは高専の学生を対象に英語で授業する上で、非常に役立つスキルとなっている。語彙に関しては、新聞等を読むことで難易度の高い単語を覚えたことと並行して、口語表現をかなり習得した。文法では、名詞の単数・複数と冠詞の有無、動詞の時制についての感覚をつかむことができたことで、英語を話す・書く際の正確性が向上した。授業の進め方では、low contextを前提とした丁寧な説明や、学生とのやり取りを通したアクティブな進行を学ぶことができた。以上により、本務校に帰任した現在、英語で進める科目を専攻科で実施できるようになった。	マレーシアのUSMの教員と共同研究を実施する方向で話がまとまり、豊橋技科大の高専連携教育研究プロジェクト（国際共同研究支援）に応募した。 ニューヨークとマレーシアで数ヶ月ずつを過ごしたことは、学生に対しても海外を身近なものとして語れるようになった。アメリカ人の価値観や考え方には、例えば個人が銃を持つことの是非や政治への参加姿勢など、これまで日本では触れられなかったものも多くあった。 マレーシアの学生達が、講義内容の応用面を強く意識して学んでいたことは、高専での授業をさらに実践的なものに近づけるための意識改革の契機となった。
B	英語による表現力（作文と発話）が向上した。	学習を通じて学生が得られるものを明確化して、授業の中で伝えていくという、基本的な講義姿勢を獲得することができた。
	英語による理解力（読解、聴解）が向上した。	学生の発話を促す能力が向上した。
	文法運用能力が向上した。	
	英語コミュニケーションの自信が増した。	
C	Queens Collegeの授業に出席して、英語での板書の書き方が参考になった。	日米間の教育に対する考え方の違いについて知ることができた。
	語彙力やヒアリング力、スピーキング力等が強化された。	日米の教育システムの違いについて理解を深めることができた。
		大統領選挙の年に滞在したことで、米国の選挙制度や社会について理解することができた。
D	授業内に英語でコミュニケーションを行う上で必要となるリスニングならびにスピーキングスキルの向上	自分の専門分野に関する授業（構造解析学）を（シティカレッジ）で聴講したことで、今回は直接的な共同研究には結びつかなかったものの、連絡先の交換や研究上の問題点の共有など、今後に向けたつながりを持てた。
	授業の初めに、取り扱う内容の関係性を示しながら全体像を紹介するというコンセプトマップという教授法の取得によるティーチングスキルの向上	電車やバスでお年寄りに席を譲ったり、次の人のためにドアを開けておく、困っている人に声を掛けるなどといった、モラルの基本的な部分は日本よりもアメリカの方がしっかりしていると感じた．グローバルマインドという視点から、自分自身の人間力について考えさせられる。
	専門分野（構造工学）の用語や数式表現の英語による言い回し	今回の経験を通じて、久しぶりに、学ぶことが楽しいということを再認識することができた。
	専門分野における基礎から応用への積み上げといった教授内容および教授方法	間違えを恐れずに、英語を話してみるという心掛けを持てるようになった。
	英語によるディベート方法やプレゼンテーション方法	帰国後も時間があればCNNやWNYCを見聞きする等、英語学習に対するモチベーションが渡米前よりも大きくなった。

（3）職員グローバル人材育成力強化プログラム（短期 SD）

国立大学改革強化推進事業の一環として、本学、長岡技術科学大学、国立高等専門学校機構各高専の事務職員及び技術職員を対象に、英語を駆使した国際実務等の経験を積み、大学等のグローバル化の担い手となる将来のリーダーとしての資質を高め、自発的な能力開発を促すことを目的とした、職員グローバル人材育成力強化プログラム（短期 SD）を平成 25 年度から継続的に実施している。毎年度研修参加者の意見を踏まえて改善を重ね、平成 28 年度では以下のとおり実施した。

＜派遣前研修（国内）＞

外部業者に委託し、豊橋技術科学大学にて、7 月下旬（第 1 グループ）及び 11 月中旬（第 2 グループ）に、国内での派遣前研修を実施した。期間中は、実践英語力向上、英文書簡及びカスタマーケア等に関するトレーニングを受講し、英会話能力の他、国際実務能力の向上を図ることができた。

＜現地研修（ペナン）＞

研修参加者の英語レベルにより、ペナンへの派遣時期を 8 月期（第 1 グループ）・12 月期（第 2 グループ）に分けて研修内容を調整し、以下のとおり現地研修（2 週間程度）を実施した。

［8 月期・12 月期共通］

現地の高等教育機関に委託し、4 日間の実践英会話研修を実施した。研修参加者は期間中に、ビジネスマナー、カスタマーサービス、プレゼンテーション等に関する講習を受講した。講習は全て英語にて行われ、研修参加者はそれぞれ業務上で英語を使う場面を想定したプログラムを通して、より実践的な英語能力を身につけることが出来た。

また、マレーシア教育拠点（ペナン校）にて、ペナン校における国際実務を体験した他、国際業務に関するワークショップ、マレーシア文化に関する講義を受講した。

［8 月期のみ（英語初級者向け）］

8 月 17 日から 19 日にかけて Parkroyal Penang Resort にて開催された国際会議 4th IGNITE2016 の会議運営事務支援を行った。期間中は、受付、VIP アテンド、全体会司会補佐、分科会のタイムキーパー等の業務を、マレーシア科学大学(USM)のスタッフと英語によりコミュニケーションを取りながら連携して執り行うことで、国際業務における柔軟性、即応性、判断力を身につけることができた。

［12 月期のみ（英語中級者向け）］

12 月 18 日から 19 日かけて開催したアセアン諸国大学学長会議の運営事務支援を行った。期間中は、受付、VIP アテンド、参加者の送迎、会議進行補助等の業務を行い、国際業務における柔軟性、即応性、判断力を身につけることができた。また在ペナン日本国総領事館及び日系企業（NGK Electronics Devices (M)）を訪問・視察した他、USM 及び Politeknik Seberang Perai（PSP）を訪問し、各機関の事務職員との意見交換を行った。意見交換は全て英語で行われ、研修参加者の所属部署・業務内容と関連する部署を訪問し、海外教育機関での業務と日本での業務との違い等に関する実態調査を行うことができた。研修活動を通じ、英語コミュニケーション・国際業務知識等の向上を図ることができた。

【参考：SD 研修参加者所属係】本学：総務課 総務係、学長戦略企画課 企画調査係、会計課 出納係、研究支援課 外部資金係、教務課 企画調査係、学生課 学生係、長岡技術科学大学：総務課 人事係，学生支援課 奨学支援係、国立高等専門学校機構：本部事務局 国際企画室 海外展開係、苫小牧工業高等専門学校 技術教育支援センター、八戸工業高等専門学校 学生課 学生係、群馬工業高等専門学校 教育研究支援センター、東京工業高等専門学校 教育研究技術支援センター、福井工業高等専門学校 学生課 教務係、明石工業高等専門学校 技術教育支援センター、呉工業高等専門学校 学生課 教務係、久留米工業高等専門学校 教育研究支援室、有明工業高等専門学校 総務課 人事労務係、佐世保工業高等専門学校 技術室

（4）海外同窓生交流会

海外における本学同窓生ネットワークを組織化し、交流活動を活発にすることを目的として、平成 26 年度に「TUT 同窓会・海外支部設立準備会議」をマレーシア/ペナンで、平成 27 年度は、タイ/バンコク、ラオス/ヴィエンチャン、ベトナム/ハノイ、インドネシア/バンドンで開催した。この継続として、平成 28 年度は、10 月 22 日（土）にミャンマー/ヤンゴン、12 月 17 日（土）にスリランカ/コロンボ、3

月 11 日（土）に中国/北京、3 月 12 日（日）に中国/上海の 3 ヵ国/4 都市で上記会議を開催した。会議では、本学の現状の紹介、本学同窓会の現状の紹介（組織・活動の紹介、各国代表の紹介、Web 名簿システムの紹介など）の後、各国の支部の設立、支部長の選任を行った。

また、これら会議の後に、長岡技科大、高専機構及び本学で進めている三機関連携事業の支援の下、「三機関合同海外同窓生交流会」を開催した。

これらの会議・交流会には、本学海外同窓生の他、長岡技科大及び高専の海外同窓生、三機関の代表、本学教職員も参加し、今後の交流会の開催や、三機関同窓生ネットワークの構築等に関する意見交換を行った。交流会後の懇親会には、本学の教職員含め、ミャンマー/ヤンゴンでは 34 名、スリランカ/コロンボでは 27 名、中国/北京では 38 名、中国/上海では 53 名がそれぞれ参加し、国内・海外同窓生間の親睦を深めた。

① 「TUT 海外同窓会設立準備会」及び「三機関合同海外同窓生交流会」（ミャンマー）

② 「TUT 海外同窓会設立準備会」及び「三機関合同海外同窓生交流会」（スリランカ）

③ 「TUT 海外同窓会設立準備会」及び「三機関合同海外同窓生交流会」（中国／北京・上海）

2. 国内会議

(1) 国際教育センター（CIE）会議

平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月の間、毎月第 2 月曜日開催を原則とし、11 回開催。

(2) 三機関連携・教育改革推進室会議

開催日	場　所　等
平成 28 年 5 月 31 日	国立高等専門学校機構　竹橋オフィス　及び GI-Net TV 会議（＊）
平成 28 年 7 月 26 日	GI-Net TV 会議
平成 28 年 9 月 27 日	GI-Net TV 会議
平成 28 年 11 月 15 日	GI-Net TV 会議
平成 28 年 12 月 20 日	GI-Net TV 会議
平成 29 年 2 月 21 日	GI-Net TV 会議
平成 29 年 3 月 28 日	GI-Net TV 会議

＊GI-Net：三機関の全国 59 拠点を高速通信専用回線で結ぶ遠隔講義・会議システム

(3) 三機関連携・海外展開検討部会・FD 等検討部会（グローバル部会）合同会議

開催日	場　所　等
平成 28 年 4 月 19 日	GI-Net TV 会議
平成 28 年 5 月 18 日	GI-Net TV 会議
平成 28 年 6 月 29 日	GI-Net TV 会議
平成 28 年 8 月 31 日	GI-Net TV 会議
平成 28 年 10 月 20 日	GI-Net TV 会議
平成 28 年 12 月 8 日	GI-Net TV 会議
平成 29 年 1 月 19 日	GI-Net TV 会議
平成 29 年 2 月 9 日	GI-Net TV 会議
平成 29 年 3 月 3 日	GI-Net TV 会議

(4) 国際教育センター運営協議会

開催日	場　　所
平成 29 年 2 月 23 日	KKR ホテル東京

3. マレーシア教育拠点（ペナン校）の活動

(1) 所在地等

・所在地　　3 Cantonment Road, 10350 Penang, Malaysia
・電話番号　　+60-4-226-6242、6252
・FAX　　+60-4-226-5755
・ホームページ　　http://ignite.tut.ac.jp/cie/penang/

ペナン校外観

(2) TUT-USM 協議会

＜第 10 回協議会＞

開 催 日：　平成 28 年 8 月 17 日
場　　所：　Parkroyal Penang Resort
議事次第：　1. Review of the previous minutes of meeting
2. Collaborative Programmes
2.1 Student Internship with Industry
2.1.1 Update of the implementation of the programme
2.1.2 Internship for USM students in Japan
3. Joint Research Collaboration updates
3.1 Microelectronics
3.2 Materials Science / Nanotechnology
3.3 Brain Science
3.4 Disaster Research
3.5 Tansportation Research
4. Academic Collaboration (Exchange and Joint Programmes)
4.1 Collaboration in Summer School Programmes
4.1.1 TUT-USM Global Summer School Programme
4.1.2 Excellent Student Penang Programme (ESPP2016 and 2017)
4.1.3 TUT International Student Programme 2016
4.2 Joint Education Programmes (Twinning Programme / Double Degree and Joint Degree)
5. Joint Talks / Seminars / Conferences and Other Activities
5.1 Review of the 3rd IGNITE2016 (27th – 29th January 2016)
5.2 4th IGNITE / The 2016 International Conference on Advanced Info Concepts,

Theory and Application (ICAICTA 2016)
5.3 5th IGNITE / Awam International Civil Engineering Conference (AICC 17)
5.4 Collaboration in Faculty / Staff Development Programme
5.4.1 Update of the programme preparation (faculty members)
5.4.2 Update of the programme preparation (administrative staff)
6. Other
6.1 ASEAN University Presidents Forum

出 席 者： ◆マレーシア科学大学（USM）
Prof. Dato' Ahmed Shukri Mustapa Kamal, Deputy Vice Chancellor (Academic & International), Prof. Abdul Rahman Mohamed, Deputy Vice Chancellor (Industry & Community Network), Prof. Dato' Muhamad Jantan, Deputy Vice Chancellor (Research & Innovarion), Prof. Lee Keat Teong, Director, Research Creative & Management Office, Dr. Muhizam Mustafa, Director, International Mobility & Career Centre, Prof. Ahamad Tajudin Khader, Dean, School of Computer Sciences, Prof. Azman Samsudin, Deputy Dean, Institute of Postgraduate Studies, Assoc. Prof. Khairunisak Abdul Razak, Deputy Dean (Research, Postgraduate & Networking), School of Material & Mineral Resource Engineering, Assoc. Prof. Choong Kok Keong, Deputy Dean (Research, Postgraduate & Networking), School of Civil Engineering, Prof. Zalina Ismail, School of Health Sciences, Assoc. Prof. Zainovia Lockman, School of Material & Mineral Resource Engineering, Assoc. Prof. Asrulnizam Abd Manaf, Collaborative Microelectronic Design Excellence Centre (CEDEC), Mrs. Nor Farah Shaik Omar, Assistant Registrar (Academic & International Affairs), Ms. N.R. Dhurgaletchimi Ragava, Assistant Registrar (Industry & Community Network)

◆豊橋技術科学大学（TUT）
井上光輝理事・副学長（学務担当）、松田厚範学長補佐／国際教育センター長、大門裕之国際交流センター長、齊藤大樹安全安心地域共創リサーチセンター長／教授、石田好輝情報・知能工学系長、中内茂樹情報・知能工学系教授、京兼純国際教育センター特任教授、長尾雅行国際教育センター特任教授、Lim Pang Boey 国際教育センター准教授、Tan Wai Kian 国際教育センター特任助教、清水由紀子国際課長、黒田清彦国際教育支援室長、Fong Sew Khuan マレーシア教育拠点 Senior Officer

(3) The 4th International Conference of Global Network for Innovative Technology (4th IGNITE2016)

平成 28 年(2016 年)8 月 16 日～8 月 19 日に、以下のとおり、ペナンにおいて、The 4th International Conference of Global Network for Innovative Technology (4th IGNITE2016)を開催した。本会議は、The 2016 International Conference on Advanced Informatics: Concepts, Theory and Application (ICAICTA2016)との共催で開催され、Keynote Lecture 2 件、Tutorial Lecture 3 件、一般口頭発表 67 件，ポスター発表 8 件，全 80 件の講演・発表があった。

主催：豊橋技術科学大学（TUT）、マレーシア科学大学（USM）
共催：長岡技術科学大学（NUT）、国立高等専門学校機構（NIT）
後援企業：Micron Technology、EMICO Penang Sdn. Bhd.、Mini-Circuits Technologies

会場：Parkroyal Penang Resort

プログラム：

＜8 月 16 日（火）＞

・13:30～14:00　Registration

・14:00～17:00　Tutorial

＜8 月 17 日（水）＞

・ 8:30～ 9:00　Registration

・ 9:00～ 9:30　開会挨拶

・ 9:30～12:00　Keynote Lecture

・14:00～18:30　口頭・ポスター発表

・20:15～22:30　Banquet

＜8 月 18 日（木）＞

・ 9:00～16:30　口頭発表

・16:30～17:00　閉会式

＜8 月 19 日（金）＞

・10:30～12:00　Social Activities and other interactions

・14:00～18:30　Local Tour

(4) ペナンだより

ペナン校に常駐教員として派遣している京兼国際教育センター特任教授により、ペナン校における活動等を学内に報告する「ペナンだより」を定期的に発行し，ペナン校に関する情報の周知を行った。

○ペナンだより（第 18 号：平成 28 年 4 月 30 日発行）

＜主要活動報告（抜粋）＞

日　付	活動内容等
4 月 13 日（水）	・ 徳山高専の柳澤先生から 4 年生を対象としたインターンシップ＋語学研修を夏季休暇（8 月中旬頃）にペナンで計画しているとの連絡がある。インターンシップ先としては Sony と Panasonic を考慮中で、語学研修は Disted College を検討しており、実施にあたっての協力依頼があった。本学（ペナン校）としては支援することとした。
4 月 14 日（木）	・ Disted College の国際交流担当者（Khor Tze Ping 氏）が来校し、明石高専生の英語研修について Fong 氏を交えて、朝食、昼食と Coffee Break、宿舎（寮あるいはホテル）、交通費などを含めた予算と具体的な研修内容について話し会った。
4 月 18 日（月）	・ 日本人学校の 28 年度入学式に出席する。浦江校長から小学部 20 名、中学部 14 名の計 34 名の児童・生徒が入学したとの報告を受ける。学校運営委員長には東レの吉村社長が任に当たり、本年は日本各地から新しく 6 名の先生が赴任され、教職員 26 名で子供達に接するとのことである。
4 月 25 日（月）	・ 東レ-USM Knowledge Transfer Centre 内の日本文化センターへ高専生の英語研修について相談に行く。センター長の副田先生、ローカルスタッフの Miss Heliana 氏とで文化センターの業務内容、他機関の英語研修状況などを織り交ぜて意見交換を行う。 ・ 長岡技大の技学テクノオフィスへ訪問し、管理運営をしている化学系（E.E.Campus）の博士課程学生、Miss Aniemajid 氏と情報交換をする。
4 月 26 日（火）	・ 明石高専の実践英語研修について、Fong 氏と共に Chung Ling High School を訪問し、Teh 校長と Home Stay、Workshop など具体のプログラム企画に関して意見交換を行う。 ・ ICAICTA/IGNITE 2016 にかかる TV 会議に Fong 氏が USM で参加する。

日　付	活動内容等
4月28日（木）	・ Jit Sin High School 主催の Education Fair へ Lim 准教授、Tan 特任助教、Fong 氏、Angeline 氏と共に参加する。TUT のブースには多くの生徒が詰めかけてくれ、常時 5 名で対応をするほどの忙しさであった。Jit Sin H.S. での出展機関の大部分はマレーシア国内の大学、College、各種専門学校であった。日本からは常連となっている語学専門学校、一校のみが参加していた。昼食を挟んだ後も生徒は途切れることがなく、大変盛況な説明会となった。 ・ Education Fair 終了後、Lim 准教授、Tan 特任助教、Fong 氏とで Chung Ling High School へ。Teh 校長等とさくらサイエンスプログラムと本学支援による時習館高校（文科省 S.G.H. プログラムに採択されている）の海外研修（29年1月15日～21日）に関し、情報交換と協力依頼を行った。 ・ ペナン校にて JAGAM 北部支部副会長の Tham 氏を交え、本学と連携協力の下で実施予定の「マレーシア学生の豊橋スタディツアープログラム」について、Lim 准教授、Tan 特任助教と共に具体の計画案について話し合った。
4月29日（金）	・ Jit Sin High School の5年生を対象とした本学の進路説明会を開催。生徒は 80 名ほど参加し、スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）を中心にして TUT の特徴と活動状況、諸経費、寮施設などを Tan 特任助教から 50 分ほど説明した後、質疑応答を行った。多くの生徒から多くの様々な質問があり、Lim 准教授、Fong 氏、Angeline 氏、京兼で対応をし、予定時間を大幅に超えるほどの盛況となった。

多くの生徒が詰めかけた説明会の様子
（Jit Sin High School）（4月28日）

TUT の留学説明会に参加した生徒達
（Jit Sin High School）（4月29日）

○ペナンだより（第19号：平成28年5月31日発行）

＜主要活動報告（抜粋）＞

日　付	活動内容等
5月3日（火）	・ マレーシア科学大学（USM）へ Fong 氏と共に訪問し、International Office 長兼研究管理課長の Lee Keat Teong 教授と、平成 28 年度の三機関連携事業である高専教員グローバル FD 研修に関する調整を行う。
5月5日（木）	・ 明石高専の体験型英語研修及び徳山高専の英語研修＋インターンシップ時に低価格で利用可能な宿泊場所（Condominium、RECSAM、U-Hotel、Pearl Hotel）を Fong 氏と共に訪問し、料金や交通手段などについて情報交換を行う。 ・ USM の International Mobility & Career Centre（IMCC）を訪問し、Mohd Hafizal Mohd Isa 准教授（東北大学へ3年間留学経験あり）と長尾雅行特任教授の長期ビザ申請（Visiting Professor 待遇）について Fong 氏、京兼で話し合いを行う。
5月11日（水）	・ 高専機構本部国際交流課の横道豊係長からペナン地区での機構本部主催の高専生にかかるインターンシップについて、東レからは専攻科生限定で 3 ヶ月、パナソニックは夏期に関しては個別高専で対応、ソニーは来年の春期で2～3週間の受入れを希望しているとの連絡があり、京兼からはペナンの状況を報告する。
5月12日（火）	・ Disted College の Khor Tze Ping 氏が来校し、明石高専生の英語研修についての具体的な内容、研修時の朝食と昼食、Coffee Break、宿舎（寮あるいはホテル）、交通費に関し Fong 氏を交えて話しあった。
5月17日（火）	・ Disted College の Seah Soo 校長室で、Ahmad Taiff 先生を交えて Lim 准教授、Fong 氏、京兼で電気系（DEEE）および情報系(DCS)の Twinning Program にかかる座学と実験、実施に向けた今後のスケジュール、地元有力高校へのリクルートなどについて意見交換を行う。話し合いの途中から Stephen Yeap 理事長が加わり、Seah 校長から進捗状況などについて説明を行う。
5月18日（水）	・ Penang Science Cluster（PSC）へ Lim 准教授、Fong 氏、京兼で訪問し、諸施設の見学後、明石高専生のワークショップとものつくり研修について Ooi Peng 氏（CEO）等、関係者と情報交換を行う。PSC での研修は、9月3日（土）～4日（日）に地元の学生と一緒に、メカトロニクス関係のテーマで実施することになった。 ・ JAGAM 副会長の Tam 氏が来校し、ペナン地区高校生（10名程度）の豊橋技大 Study Tour Program に関し、日程や具体の実施方法などについて Lim 准教授、京兼で打合せを行う。

日　付	活動内容等
5 月 20 日（金）	・ USM で Lee 教授、BJIM の Tuan 氏、本学卒業生の Yeoh 准教授とで、次の事項について意見交換を行う。 1. TUT-USM 協議会の担当者、2. 本学主催のアセアン学長会議と Omar 学長からの招聘状、3. IGNITE2016 の進捗状況、4. 長尾特任教授の赴任と長期 VISA 申請、5. 実務訓練生の USM でのオリエンテーション、6. MICC の Hafizal 准教授からの依頼事項（USM 学生の派遣と中堅公務員の日本での研修）、7. 三機関連携の SD 研修、8. 高専教員の FD 研修、9. 研究協力の MOA の継続、10. グローバルサマースクール、11. 高専学生の USM 施設見学などである。その後、Yeoh 先生が本部（BJIM）の Industry Network の Coordinator として 4 月から異動となったとのことで、研究室で種々情報交換を行う。
5 月 26 日（木）	・ Disted College の Taiff 先生と Twinning Program について、ペナン校から長尾特任教授、Fong 氏、京兼が、本部から浜島前国際交流センター特任教授と Lim 准教授が Skype により参加し、1. 6 ヶ月間の日本留学コース、2. 卒業生の質向上と教員の強化、3. 本学に編入学した後の学習、4. 学生実験の内容、5. 英語必修単位の認定、6. 一般科目の振替認定単位等について意見交換を行う。
5 月 27 日（金）	・ Disted College の 25th Convocation & Appreciation Dinner に招待され、長尾特任教授と京兼で出席。懇親会での Seah Soo 校長からの挨拶では、本学との間で進めている電気系および情報系の Twinning Program に関する紹介があった。懇親会では協力関係にある高校教員等への感謝状の贈呈、Stephen Yeap 理事長から各学科の成績優秀学生に対する表彰などがあった。また、翌日の式典は女子学生が多くいる関係か、大変華やかで楽しい雰囲気の中で挙行された。
5 月 29 日（日）	・ 日本人学校の運動会に本年度も競技審査員として招待され出席する。今回の競技テーマは「革命を起こせ。We Can Do It. ～勝利への道のり～」であり、天候にも恵まれて子供達は元気いっぱいに飛び跳ねていた。
5 月 31 日（火）	・ 長尾特任教授の就任に伴って、Fong 氏、京兼でソニーへ表敬訪問をする。永井社長と松枝人事課長とで実務訓練及び高専生のインターンシップなどについて意見交換を行う。ソニー側の意向としては、平成 29 年 3 月頃（来春）に高専生の 2 週間程度のインターンシップ研修から始めて、社内の受入れ体制を固めたいとのことであった。意見交換後、技術者 2 名を交えて音響機器の試聴と開発に関する苦労話を聞く。

PSC での子供達の研修風景（5 月 18 日）

日本人学校運動会の様子（5 月 29 日）

○ペナンだより（第 20 号：平成 28 年 6 月 30 日発行）

＜主要活動報告（抜粋）＞

日　付	活動内容等
6 月 1 日（水）	・ ルネサス（株）へ長尾特任教授、Fong 氏、京兼で表敬訪問をする。笠谷社長と本学の実務訓練及び高専生のインターンシップ研修について要望をするが、先方は諸般の事情で受入れについては難しいとのことであった。
6 月 9 日（木）	・ 長尾特任教授、Fong 氏、京兼とでクラリオンを訪問する。クラリオンからは斎藤副社長、阪田工場長、安藤 R&D 長、古木氏が同席。長尾特任教授からは昨年度の実務訓練生にかかるお礼、本年度についても希望者がいること、京兼からは長野高専生（マレーシア女子学生）のインターンシップ、鶴岡高専生の工場見学について依頼をする。 ・ USM の東レ-USM Knowledge Center へ行き、日本文化センターの副田特任教授（京都外大所属）、Heliana さん及び長岡技術科学大学リエゾンオフィスの Aniemajid 氏へ長尾特任教授を紹介する。 ・ Dr. Lee 教授の居室を訪問し長尾特任教授を紹介する。また、Lee 教授と、長尾特任教授の長期 VISA 取得（Visiting Professor 資格）、USM と TUT との MOA 調印式に関すること（8 月の IGNITE 晩餐会で実施予定）、12 月の ASEAN 学長会議にかかる件、実務訓練生の企業実習前の USM/IO センターでのオリエンテーション期間と経費等に関し意見交換を行う。

日　付	活動内容等
6月10日（金）	・日本人学校を訪問し、浦江校長と石橋教頭へ長尾特任教授を紹介し、本学が協力支援できる諸行事についての情報交換を行う。
6月12日（日）	・日馬友好協会主催のドリアンパーティへ長尾特任教授と京兼が参加する。糸井総領事夫妻や宗日本人会事務局長を始め、日馬合わせて30名を超す会員で賑わい、皆さんは今回の目玉であるドリアンの王様と呼ばれているムサンキンに舌鼓を打っていた。私達も初めて口にしたが、市販されているものに比べ大変濃厚かつ魅惑的な味であった。
6月13日（月）	・Disted College へ行き Seah 学長、Taiff 副学長と長尾特任教授、Lim 准教授（Skype 参加）、Fong 氏、京兼で Twinning Program の現状認識及び今後の締結に向けてなすべき事項について意見交換を行う。 ・First Penguin の Dr. Wong Lai 氏が来校する。Wong Lai 氏と京兼との間で、明石高専生の体験型英語研修期間中に実施予定（9月9日）の Discussion Topics などの詳細について詰めを行う。
6月15日（水）	・松田 CIE センター長、長尾特任教授、Fong 氏、京兼と Stephan Yeap 氏、Seah 学長、Liew 副学長とで Disted College の Twinning Program に関し、今後の対応と意見交換を行う。 ・松田 CIE センター長、長尾特任教授、京兼で総領事館を訪問し、糸井総領事を表敬訪問する。総領事に対し本学と高専の概要、ペナンで実施している諸活動について説明をした後、寺本領事を交えて Tech Dome での Japan Technology Weekend 時の出展の件、ペナン盆踊りへの豊橋市の参加可能性などについて意見交換を行う。
6月16日（木）	・IGNITE 会議にかかる打合せに出席するため、USM Engineering Campus へ長尾特任教授、Tan 特任助教、Fong 氏、京兼で訪問する。会議では主に IGNITE2016 の会計報告と Journal の出版について話し合う。本学からは Lim 准教授、柴富准教授、黒田室長、山田主任が Skype で参加。 ・会議終了後、JICA 支援奨学金による共同研究実施に向けて、松田 CIE センター長、Cheong 教授、Fauzi 教授、Khatijah 准教授とでミャンマーからの留学生（女子学生2名）に関して研究発表を聞き、本学への受入れについて話し合う。 ・USM 本部キャンパスへ移動し、Susie 前副学長に対し松田 CIE センター長から本学に対するこれまでの多大な貢献に対しお礼を述べ、退職後のことや USM の現在の状況について意見交換を行う。
6月17日（金）	・Keysight を長尾特任教授、Tan 特任助教、Fong 氏、京兼で訪問する。対応者は Ms. Kar In 氏と人事担当者の2名。本学からは、昨年度の実務訓練のお礼と今年度参加予定学生（2名）の依頼をする。終始和やかな雰囲気の中で VISA 取得、学生への経費の支払い方法、IGNITE の Sponsorship などについて懇談をし、工場見学を行う。高専生の見学は対応可能とのことであった。 ・AMBU を訪問。対応者は Joshua 氏と Yew 氏。Keysight と同様に昨年度の実務訓練のお礼、今年度参加予定学生の依頼、本学の機械系や化学系分野の研究紹介、IGNITE について参加依頼を行う。 ・午後からは Angeline 氏が同行し Altera（現：Intel）を訪問。今年度訓練予定学生の依頼を行う。対応者は Chad 氏。Chad 氏は日本への短期研修経験があり、意見交換はスムーズに進み工場見学も行う。
6月20日（月）	・昨年度の実務訓練のお礼と今年度参加予定学生2名の依頼で、Continental を長尾特任教授、Tan 特任助教、京兼で訪問する。先方からは昨年度の状況を踏まえ、今年は電話などで Interview を行いたいとのことであった。 ・National Instruments を訪問。対応者は Ms. Grace 氏。昨年度の実務訓練生に関する Interview について話を聞いた後、今年度参加予定学生の依頼を行う。
6月21日（火）	・今年度から新しく実務訓練を予定している M.E.I. Project Engineers と ARUP を、長尾特任教授、Tan 特任助教、Fong 氏、京兼で訪問する。M.E.I. は Dr. Goh 氏が対応し、前向きに検討するとの回答がある。ARUP の対応者は Dr. Brian Yu 氏。受入れ可否については後日連絡するとのことであった。 ・B.L.TAY を訪問。初年度の実務訓練のお礼と今年度参加予定の学生の依頼を行う。対応者は Ong Khian 氏。過去の訓練実績などから受入れは可能であるとの回答を得る。 ・QDOS を訪問し実務訓練予定の学生に関し依頼を行う。対応者は CEO の Whong 氏であり過去の実績から受入れは可能との回答を得る。学生の VISA 取得手続きについては、いずれの企業とも難しいとの返事がある。
6月23日（木）	・Mini-Circuit Technologies を長尾特任教授、Lim 准教授、Tan 特任助教、Fong 氏、Angeline 氏、京兼とで訪問する。対応者は CEO の Dr. Kelvin 氏。これまでの実務訓練のお礼と今年度参加予定の学生の依頼を行う。Kelvin 氏は本学の名誉博士でもあるため、学生受入れを始め VISA の取得や6ヶ月の実務訓練、Accommodation などに対し前向きで大変協力的な言葉をいただく。 ・USM を訪問し、Dr. Susie 教授の後任で新たに副学長職となった Dr. Rahman 教授に面会し、TUT-USM 協議会、IGNITE2016、海外実務訓練生の研修、TUT への USM 学生の派遣などに関し意見交換を行う。意見交換後、Computer Science での ICAICTA-4th IGNITE Committee Meeting に出席。本学からは梅村教授と山田主任が Skype で参加。
6月24日（金）	・USM の International Office の Lee 教授及び関係者を長尾特任教授、Lim 准教授、Tan 特任助教、Fong 氏、Angeline 氏とで訪問し、両機関の今後の協力関係などについて話し合う。その後、建設系の企業である I.J.M. へ5名で訪問。対応者は Choo Kim 氏で、本年度の実務訓練学生の受入れについて依頼をする。

○ペナンだより（第 21 号：平成 28 年 7 月 31 日発行）

＜主要活動報告（抜粋）＞

日　付	活動内容等
7 月 13 日（水）	・ DAYA CMT を長尾特任教授、Fong 氏、京兼で訪問し、昨年度実施したマレーシア女子留学生 2 名の実務訓練のお礼及び今年度希望学生の履歴書と訓練予定表を手渡し、依頼を行う。対応者は Wong 氏、Ng See 氏と Ruby 氏で、実務訓練以外に本学が鋭意進めている SGU や留学生などの状況を説明し、また IGNITE2016 への参加依頼も行う。 ・ NGK Electronics Devices を訪問し、実務訓練を希望している電気・電子情報工学課程学生の依頼を行う。話し合いの途中から NGK Globetronics Technology の大谷氏（前社長：相談役）が加わり、前向きに検討していただけることとなった。大谷氏からは実務訓練に関連して、我が国や USM を始めとするマレーシアの技術者教育について、多くの示唆に富んだ話を伺うことができた。
7 月 16 日（土）	・ Tech Dome の Official Opening Ceremony へ長尾特任教授、Fong 氏、京兼で出席をする。ペナン州の Chief Minister の Lim Guan Eng 氏、糸井総領事や関係者からの挨拶など盛大な式典後は、Tech Dome 内の見学会があり Japan Technology Weekend 時の理科教室で使用する場所を確認した。 ・ 夕方から長尾特任教授と共にペナン盆踊り大会に参加するが、雨のため参加者も大変少なく本年度は盛り上がりに欠けたものであった。
7 月 18 日（月）	・ 日本人学校の 1 年生から 6 年生を対象とした、水難学会（事務局長の木村氏が訪馬）主催の「ういてまて教室」への支援で、Life Saving Society Malaysia の Geh Thuan 副会長とインストラクターと共に長尾特任教授と京兼が参加する。児童の皆さんは昨年 11 月に経験をしている関係で、本年度はスムーズに研修ができていた。
7 月 19 日（火）	・ 第 295 回（2016 年 7 月度）三水会へ長尾特任教授、京兼がオブザーバーで出席する。伊賀会長（RENESAS Semiconductor 社長）から冒頭の挨拶時に本学入会の紹介があり、詳細については会員変更等の議題で長尾特任教授から説明をする。一般連絡事項の後、講演会としてデロイトマレーシアの辻氏から「日系企業という視点で、MPERS および BEPS への対応を考える」のテーマで話があった。懇親会の席上では出席企業総てに対し名刺交換をし、実務訓練の依頼を行う。
7 月 20 日（水）	・ ポリテクニック校（PSP）へ長尾特任教授、Lim 准教授、松井准教授、Fong 氏、京兼で訪問。PSP 側は副校長の Ainiza 先生、Marriappen 先生と 5 名の学科長が出席。高専教員の FD 研修時の講義科目と分野について話し合う。PSP からはメカトロニクス系教員を本学へ 11 月頃に 1 名程度送りたいので世話をして欲しいとの要望がある。また、三機関の SD 研修や高専生の研修への協力依頼を行う。 ・ Chung Ling 高校の教員 2 名と Jit Sin 高校の教員 1 名が来校。長尾特任教授、Lim 准教授、京兼で本学の SGU 制度の説明と日本留学試験（EJU）について話し合う。3 名の先生には、EJU の問題集を手渡し進路指導の参考にしていただく。来年 1 月にペナンで研修を計画している時習館高校との交流事業などについて打診を行う。
7 月 21 日（木）	・ ポリテクニック校（PTSB）を柴田教授、長尾特任教授、Lim 准教授、松井准教授、Fong 氏、京兼で初訪問する。PTSB 側は Mohd Noor 校長の他、副校長や各学科長の幹部教職員（総勢 14 名）が出席。両機関の自己紹介後、FD 研修の具体的な方法と期間、実務訓練生への宿舎等の提供、SD 研修、高専生との交流、メカトロニクスセンターと Final Projects の支援などについて意見交換を行う。意見交換後、Noor 校長と柴田教授との間で、Letter of Intent for Academic Collaboration（LoI）の調印。その後、Lim 准教授は PTSB 幹部教職員に対し、本学の概要と SGU、実務訓練について講演し、5 名は副校長等の案内で宿舎、環境土木系、電気系、機械系、各センターの見学を行った。 ・ PTSB の紹介で富士電機を訪問。訪問者は両機関で総勢 15 名。山田社長からマレーシア富士電機の概要説明後、Lim 准教授から本学の概要と実務訓練について説明し、実務訓練の依頼をする。 ・ Fujimi Micro Technology を訪問する。訪問者は柴田教授、松井准教授、Fong 氏、京兼、PTSB 側は Noor 校長以下 8 名。武藤社長からは会社概要の説明。柴田教授から本学の概要と実務訓練の依頼を行う。
7 月 22 日（金）	・ USM へ柴田教授、Lim 准教授、松井准教授、Fong 氏、京兼で訪問し FD 研修について話し合う。USM 側は Lee 教授のほか、物理系、数学系、情報系、建築系、ビジネス系の学科長が出席。研修期間は 2 月 20 日（月）から 3 月 3 日（金）の 2 週間とし、講義対象学生は学部生でトピックスを 2 コマ、研究分野の講演は院生と教員を対象とする。また教員間の研究分野で協力関係を構築することで了承された。その後、担当者間で IGNITE 期間中の MOA 調印と Dinner のスケジュールについて情報共有する。
7 月 25 日（月）	・ USM の Jantan 副学長から依頼のあった Brainstorming Session on Joint Research Project（Mobile Wearable Badge）にかかる会合へ長尾特任教授、Fong 氏、京兼で出席をする。USM 側からは Jantan 副学長、Lee 教授、Fadzil 教授を始め材料、情報、化学、生物、物理、電子系の各担当責任者（教授と准教授）が出席。プロジェクトについての説明、研究過程と最終目標などの意見交換が行われた。本学に対してはクアラルンプール・マラヤ大学での説明会への出席、Micro Electronics 研究分野などへの協力依頼があった。長尾特任教授からは当該研究領域への支援が可能な澤田教授へ連絡を取り検討をお願いした。

日　付	活動内容等
7月26日（火）	・本年4月に日本人学校から群馬高専へ入学した学生の保護者から、遠方にいる関係で当該高専の状況などを知りたいと浦江校長に要望が寄せられており、校長から説明をして欲しいとの連絡がある。機構本部と群馬高専から資料を取り寄せ、浦江校長と保護者を交えて京兼から縷々説明を行った結果、不安を払拭していただくことができた。
7月28日（木）	・Joint Research Projectにかかるマラヤ大学での説明会へ、USMのFadzil教授、医学部教員等5名と共に長尾特任教授が同行する。

PTSBにてLoIの調印（Noor校長(左)と柴田教授）（7月21日）

USM で FD 研修についての意見交換会の様子（7月22日）

○ペナンだより（第22号：平成28年8月31日発行）

＜主要活動報告（抜粋）＞

日　付	活動内容等
8月3日（水）	・USMのComputer Science DepartmentとのSkypeによるICAICTA /IGNITEの6th Committee meetingへ長尾特任教授、Fong氏、京兼とで出席をする。
8月4日（木）	・Fujikuraへ長尾特任教授、Fong氏、京兼で訪問。面談者は社長の久米田俊昭氏で、長尾特任教授から主に、本学の概要、実務訓練の依頼、三機関連携事業と高専との関係などの説明を行う。久米田社長からは次年度からの実務訓練受入れと、工場見学について前向きに検討をしていただけることとなった。
8月8日（月）	・マレーシア工科大学（UTM）主催の学長会議へ大西学長の代理で出席するため、長尾特任教授が7日（日）からJohor Bahruへ出張する。
8月11日（木）	・Malaysia Japan Higher Education Program（MJHEP）、マレーシア日本人商工会議所（JACTIM: Japanese Chamber of Trade and Industry Malaysia）、在マレーシア日本大使館で意見交換などを行うため、クアラルンプール（KL）へ長尾特任教授、京兼が出張する。一日目はMJHEPを訪問。MJHEP側の出席者はDr. Haji Arba'ain前学部長、芝浦工業大学安田特任教授、永川講師、五十嵐講師、和田講師、米谷講師である。主たる意見交換は、Disted Collegeとの間で進めているTwinning Programの参考に資するための日本語教育を始めとする教育手法と教授法、学生の質保証などについて、その他としては入学者の選抜方法、課程修了時に日本の国公私立大学へ学生を推薦する場合の基準と、その方法に関することである。意見交換後は、永川講師の案内で電気・電子系、物理系、化学系の各実験室を見学する。
8月12日（金）	・JACTIMを表敬訪問し、事務局長の久野氏（名古屋商工会議所から出向）と情報交換を行う。久野氏からはJACTIMの概要説明、現在抱えているマレーシアやアセアンでの労働者の問題点、中小企業への支援体制、またKL地区でのインターンシップの実施例としてマレーシア日本国際工科院（MJIIT：Malaysia Japan International Institute of Technology）での実施例について話題提供があった。本学からは主に日本技術者教育認定機構（JABEE： Japan Accreditation Board for Engineering Education）と技術者教育について説明を行った。 ・日本大使館を訪問。黒沼一等書記官と、Tech Domeでの Japan Technology Weekendの各企業と本学の取り組み状況、マレーシア人事院（JPA）奨学金留学生のJABEE取得大学のみに限定した進学（含、編入学）と文科省の対応､学生がインターンシップをする場合のVISA取得の簡素化について､本学が鋭意進めているDisted Collegeでの Twinning Programの現状と現地での教育指導、日本留学試験（EJU: Examination for Japanese University Admission for International Students）のペナン地区での実施の可能性、マレーシアへ進出予定の大学（東京理科大学、九州工業大学、信州大学）の進捗状況に関すること等について、情報共有を行った。

日　付	活動内容等
8月16日（火）	・ Chung Ling High School（Penang)へ長尾特任教授、Tan特任助教、Angeline氏、京兼で訪問する。さくらサイエンス事業で来学したChan先生のお世話で、Form5の生徒（60名強）を対象とした進路説明会を実施する。主な説明内容は、本学の概要、スーパーグローバル大学（SGU)、授業料などの諸経費、日本への留学試験（EJU)、学生生活、奨学金についてである。説明会終了後は多くの生徒から個別の質問が寄せられた。 ・ ペナン滞在中のLim准教授、清水課長がクアランプールへ出張し、人事院（JPA: Jabatan Perkhidmatar Awan）を訪問する。在日本マレーシア大使館で勤務をしていた主任のCitiさんら4名と、本学の概要、GACの説明、学部1年次への入試、マレーシア政府派遣留学生の進路、JABEE問題、成績不振学生の対応などについて、懇談を行う。
8月17日（水）	・ 4thIGNITE & ICAICTA ConferenceがPark Royal Hotelで開催され、三機関連携グローバルSD研修生は、研修の一環として進行支援等を行う。また、ペナン校で黒田室長から国際会議の進め方及び英語文書の解説や書き方などについて講義を受ける。 ・ Park Royal Hotelにて TUT-USM協議会が開催される。出席者はTUT側が井上理事、松田国際教育センター長他11名、USM側からはShukri教学・国際交流担当副学長、Jantan研究支援担当副学長、Rahman産学交流担当副学長他11名である。大門国際交流センター長の司会で、両大学の教育・研究交流等について意見交換を行い了承される。SD研修者はオブザーバーで出席する。 ・ TUT-USM協議会終了後、Conference Dinner（Banquet）が開かれ、USMからOsman学長が、TUTから井上理事が挨拶を行う。Banquetにおいて、材料系分野の研究協力に関するMOAがOsman学長と井上理事との間で締結され、MOA締結式には、当該研究分野の代表として松田国際教育センター長が同席する。
8月18日（木）	・ USMのSusie前副学長に対し、これまでの本学への厚い支援と協力のお礼を兼ねた懇親会を開催。出席者は井上理事、松田国際教育センター長他5名で、井上理事の感謝の挨拶と記念品の贈呈があり、Susie先生を囲んだ出席者との間の会食は和やかなものであった。 ・ Disted CollegeのStephan Yeap理事長、Seah学長、Liew副学長、Taiff副学長と松田国際教育センター長、長尾特任教授、Lim准教授、京兼とでTwinning Program（DSC、DEEE）にかかるPhD教員の採用を含めた教育の質保証と高度化、本学が協力支援をするAcademic Advisorの代価などについて意見交換をする。
8月19日（金）	・ 4thIGNITE & ICAICTA ConferenceのSocial Activityがペナン校で開催される。参加者は50名強で、大講義室では梅村教授の合気道の演武があり、大変盛り上がりのある会となった。その後は参加者全員で世界遺産地域への見学を実施する。 ・ SD研修者を対象とした講演、「グローバル化の進展とペナン校の役割」の題目で留学生事情、諸外国大学の海外分校について、企業の海外進出と英語力、三機関連携事業、今後に向けてなどを京兼から、「Introduction to Malaysia」の題目でマレーシアの歴史、文化と食生活、教育制度についてFong氏から行う。
8月20日（土）	・ 徳山高専生を出迎えにFong氏と京兼でペナン空港へ行く。柳澤准教授と学生6名が無事に到着し、Hotel-19へ送り届ける。
8月22日（月）	・ 徳山高専生のペナン実践英語研修とパナソニックでのインターンシップ開催にあたって、オリエンテーションを実施する。京兼から「海外での注意点、ペナンの状況、高専のグローバル化と今後の展開」について、Fong氏からは「Introduction to Malaysia」の講義を行う。同時併行して、三機関連携グローバルSD研修の一環として「大学・高専の職員としてグローバル化を推し進めるには、組織に対してどのように関わっていくか」に関し、ワークショップを黒田室長と京兼で実施する。ワークショップでは大学・高専職員として何ができるかを考え討議し、全体共有をして自分自身は職場で何をするかを宣言文に書いてもらった。最後に一人一人宣言を読みあげていただき、職場で引き続き頑張って欲しいと締めくくった。午後からは、Disted Collegeにおいて徳山高専生とSD職員の英語研修が始まる。徳山高専生は技術英語を基本とした講義が、SD職員は一般英語と会話を中心にした講義が行われる。
8月23日（火）	・ 徳山高専生とSD職員を対象としたDisted College主催のWelcome DinnerがHotel Royalで開催され、Fong氏と共に出席する。
8月25日（木）	・ 本日はSD職員のDisted Collegeでの英語研修の最終日であり、修了式へFong氏と共に出席する。担当講師から講評があり、 Liew副学長から各人にCertificationを手渡し修了にあたっての挨拶があった。
8月26日（金）	・ Tech Domeで開催予定のJapan Technology Weekendに関する記者会見があり、Angeline氏と京兼が参加する。 ・ SD職員はFong氏の同行によりUSMを訪問する。研修場所は学生・教務課、研究支援センター、国際交流室、健康管理センター、学生寮など7か所で、各部署の担当者から説明を受け熱心に質疑応答をしていた。 ・ 本日は徳山高専生のDisted Collegeでの英語研修の最終日となっており、修了式へAngeline氏と京兼で出席する。国際交流担当のKhor氏から各学生へCertificationを手渡し、修了にあたって同時期にDisted Collegeで研修をしている他大学生に比べ、元気が良いとの挨拶があった。

日　付	活動内容等
8 月 28 日（日）	・ 明石高専生と鶴岡高専生を出迎えに Fong 氏と京兼でペナン空港へ行く。両高専の学生 28 名と教員 3 名が無事に到着し、明石高専は Hotel-19、鶴岡高専は Cititel Hotel へ送り届ける。
8 月 29 日（月）	・ 明石高専生（12 名）のペナン体験型英語研修、鶴岡高専生（16 名）のペナン異文化理解と企業見学研修にあたって、オリエンテーションを実施する。京兼から「高専のグローバル化と今後の展開、ペナン校の役割」、Fong 氏からは「Introduction to Malaysia」について、Lim 准教授からは本学の概要と編入説明などを行う。 ・ 徳山高専生はパナソニック（4 部門）でのインターンシップを開始する。 ・ 明石高専生は Disted College での技術英語に関する研修が始まる。 ・ 鶴岡高専生は異文化体験としてコーンウオール要塞、プラナカンマンション、博物館などジョージタウンを中心にした世界遺産巡りを行う。鶴岡高専の研修にあたっては、引率教員 2 名と共に Lim 准教授、Angeline 氏が支援と協力を行う。 ・ ペナン政府教育・観光局主催による徳山高専、明石高専、鶴岡高専と引率教員、本学関係者を含め 42 名を対象とした歓迎晩餐会が Cititel Hotel で開催される。晩餐会はマレーシア民族舞踊と音楽の実演があり、また舞台へ学生や招待者を招き入れて共に踊りを舞うなど大変盛況で楽しい歓迎会となった。
8 月 30 日（火）	・ 鶴岡高専生は USM（博物館、バティック作製体験等）を、工場見学としてクラリオンとインテルを訪問する。 ・ 徳山高専生は引き続きパナソニックでのインターンシップを実施する。 ・ 明石高専生は Disted College で実践英語研修を実施する。英語研修後、Fong 氏と京兼が同行して星座観測のためペナンヒルへ行く。研修指導者は、USM 物理学科の Dr. Chong 名誉教授と USM 大学院生 1 名。この日は残念ながら曇天と深い霧で観測ができなかったが、山頂を散策しペナンの夜景を楽しんだ後、現地で見られる南十字星を始めとする星座と自然について Chong 名誉教授から説明を受ける。
8 月 31 日（水）	・ 本日は 59 回目のマレーシア独立記念日（Hari Merdeka）のため祝日であり、徳山高専、明石高専、鶴岡高専が合同で社会見学を実施する。各所での説明や各種支援を行うため Lim 准教授、Fong 氏、Angeline 氏、京兼が同行する。午前中の見学場所は Kek Lok Si 寺院（極楽寺）と 3D Museum であり、昼食は学生自身が Local Foods を選択できるよう New World Park へ。昼食後はリニューアルされた Butterfly Farm を訪問し、蝶や昆虫類の生態観察と研修を、帰路、Batu Ferringhi Beach へ行き学生達は水泳を楽しむ。

TUT-USM 協議会の様子
（8 月 17 日）

徳山高専生のｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝの様子
（8 月 22 日）

○ペナンだより（第 23 号：平成 28 年 9 月 30 日発行）

＜主要活動報告（抜粋）＞

日　付	活動内容等
9 月 1 日（木）	・ 徳山高専生は引き続きパナソニックでのインターンシップ研修を、明石高専生は Disted College で体験型英語研修を実施し、鶴岡高専生は外資系企業の見学として、インテルの開発部門を訪問する。Disted College 主催による明石高専生と豊田工大生を対象とした歓送迎会（Gurney Paragon）へ Fong 氏、Angeline 氏と共に出席。
9 月 2 日（金）	・ クラリオンでインターンシップ研修を予定している長野高専生と一緒に事前打合せを行う。阪田工場長の秘書 Wan Su 氏が対応し、社用車での送迎及び所要経費を支払うとのことであった。 ・ 日本人学校での出前授業と高専説明会のため、国立高専機構本部の松本国際交流副センター長と前田室長補佐が訪馬。出前授業は中学生（1 年～3 年生：22 名）を対象にした 2 進数についてであった。高専説明会には保護者の方が 10 名ほど参加し、質疑応答も活発であった。 ・ 徳山高専生はパナソニックでのインターンシップ終了にあたって、南部社長や幹部社員を前に一人 5 分間の持ち時間で、今回の研修に関するまとめの報告を英語で行う。 ・ Disted College での明石高専生の英語研修が修了。Liew 副学長から各人へ修了書を手渡し、研修の経験を活かして欲しいとの挨拶があった。

日　付	活動内容等
9月3日（土） ～4日（日）	・ 明石高専生はPenang Science Cluster (PSC)でMechatronicsに関するWorkshopを実施。担当者からPSCとWorkshopの概要を説明後、Arduino班と3D-Modeling & Printing班に分かれて実施。午後からは4班に分かれ、与えられた環境にかかる課題について、それを解決するためのPrototypeのものづくりを行う。翌日は試作品を完成させた後、各班5分の持ち時間で課題に対する試作品の紹介とまとめの発表を英語で行い、評価を受ける。1位は煙草の二次喫煙の防止策の試作品であった。
9月5日（月）	・ Chung Ling High School(Penang)で明石高専生が交流活動を開始する。Teh Min Hwa校長の歓迎挨拶及び明石高専・藤原教授の挨拶後、Chung Ling H.S.からForm6の代表生徒3名による学校概要とペナンの紹介、明石高専生は全員が交代で所属学科などについて紹介を行う。第1日目はマレーシアの伝統ゲームで交流が始まる。昼食後、Home Stay先の保護者と生徒が迎えに来る。女子学生3名と男子学生2名はそれぞれ同一家族に、他の男子学生は1名で1家族に滞在することとなった。生憎、この期間はChung Ling H.S.が定期試験のため、学校での交流会などが制限されることとなった。
9月6日（火）	・ Chung Ling H.S.での第2日目は、Form6の英語授業のクラス及び環境問題に関するWorkshopのクラスで討議などに参加し、長尾特任教授と藤原教授が視察を行う。昼食後、Home Stay先の保護者と生徒が迎えに来る。各家族とも学生達に対し世界遺産への訪問やペナン料理などで大変歓待をして下さる。
9月7日（水）	・ Chung Ling H.S.での第3日目は、中国伝統音楽の発表（鑑賞）会に出席し、終了後は絵画工作室でバティックの作製を行う。長尾特任教授、藤原教授、京兼も参加する。学生達は全員初めての体験であり、先生の説明に耳を傾けつつ大いに楽しんでいた。この日はChung Lingでの交流が最終日であったため、Teh校長主催による昼食を兼ねた送別会が開催され、学生達は関係教職員と和やかに懇談をしていた。
9月8日（木）	・ 明石高専生はUSMの構内散策と蛇寺を見学した後、藤原教授、Fong氏、Angeline氏、京兼と共にMini Circuit社を訪問する。社長のKelvin氏から歓迎の挨拶と展示室の説明があり、高周波回路の組み立工場、SEMなどの各種測定室を見学する。見学後は副社長のWilliam Chew氏から学生達に各々一問を課して質疑応答を行う。 ・ Sonyを訪問し、永井社長、松枝人事課長を始め社員5名で対応をいただく。松枝氏からの会社概要の説明後、質疑応答をしつつヘッドホーン、チューナーなどの組立工場の見学、各種オーディオ機器の試聴を行う。進化した最新のヘッドホーンや机上コンポ機器に対し、学生は驚きをもって視聴体験をしていた。 ・ 東レを訪問。冒頭に河村社長から学生へ、自身の明石でのエピソードを交えた激励の挨拶をいただく。学生は3班に分かれ関係者以外は立ち入ることができないフィルム工場を見学する。見学後は質疑応答を行った。
9月9日（金）	・ ペナン校でFirst Penguin社のDr. Wong Lai Yong氏を講師に迎え、明石高専生に対しWorkshopを実施する。4班に分かれて、「What are the similarities and difference with Japan you experience in Penang? 」について討議させる。Coffee Breakを挟んで「What do you think caused that similarities and Difference?」について、さらに討議を深めた後、一人一人に発表をさせる。昼食後は「Moving Forward as a Global Talent」についてA4用紙にAction Planを書かせて、これらについても発表をさせてWorkshopを締めくくった。今日で本学から提案をした2週間の明石高専生向けのペナン体験型英語研修が無事に終了する。閉講式では京兼からアンケートの実施を含め、反省点や今後の事業展開などについてコメントを交えつつ挨拶をする。なお、今回の体験型英語研修にあたっては、4年生の学生3名に対しインターンシップ修了証明書を松田国際教育センター長より発出をした。
9月10日（土）	・ Tech Domeの Opening Ceremony of Japan Technology Weekendへ長尾特任教授、Fong氏、京兼が参加する。開会の挨拶は主催者側からDr. Y.L. Khong氏、糸井総領事、ペナン州の首席大臣 Tuan Lim氏であった。挨拶後、各機関、企業などの代表者は展示会場を見学し、特にmuRataが出展している癒し系ミニロボット・チアガールのデモンストレーションには、来場者と共に大いに盛り上がり皆さん感激をしていた。
9月14日（水）	・ 長尾特任教授、Lim准教授、Tan特任助教、京兼でUniversity Malaysia Perlis (UniMAP) の School of Manufacturing Engineeringを訪問する。学科長の Khairul Azwan 准教授及び本学の卒業生等を交えて意見交換を行う。主な内容はUniMAPと本学の概要説明、今後の教育研究協力、実務訓練、FD研修などについてであり、終了後は学内を見学させていただく。UniMAPの帰路、長尾特任教授、Lim准教授は、Disted Collegeの Stephan Yeap 理事長、Seah学長とTwining Programの懸案事項などについて話し合い、Tan特任助教、Fong氏、京兼は三崎教授と学生2名を出迎えにペナン空港へ行く。
9月15日（木）	・ クラリオンで長野高専生のインターンシップ研修の最終報告会があり京兼が出席をする。阪田工場長から修了書が手渡され、2週間の実務訓練についての評価と激励、卒業後は是非クラリオンに入社して欲しいとのコメントがあった。 ・ 長尾特任教授、Lim准教授、Tan特任助教がペトロナス工科大学（UTP）を訪問し、UTPと本学の概要説明後、教育研究にかかる協力に関する情報交換を行う。 ・ 若原教授、三崎教授と学生4名が来校し、Japan Technology Weekendの打ち合わせをする。夕方、Tech Domeで会場設営及びWork Shopにかかる Magic Miller と Lego Robotの準備を総勢11名で行う。

日　付	活動内容等
9月16日（金）	・マレーシアは祝日。Tech Domeでの Japan Technology Weekend：Part Ⅱ（16日から18日までの3日間）が開始される。PartⅡでは本学の他、ルネサス、キャノンが出展をした。本学のテーマは、「How does MIRROR Play magic and LEGO robot move?」で、サブテーマとしては「WORKSHOPS：Let’s make magic mirror & Lego」とし、各々15名と30名の定員で子供達を募集して同時並行で行った。Workshopの2テーマは、午前と午後とも定員を上回るほどの応募があり、特にLego Robotは親子共々大変な人気であった。
9月17日（土）～18日（日）	・土曜日は中内教授の支援と協力があり、Tech DomeのDr. Khor氏と中内教授を交えて「Variantor Dichromatic Spectacles」（色覚メガネ）に関する研究状況と常設展示について意見交換を行う。土・日もまたWorkshopの2テーマは午前と午後とも子供達や親子連れで大層賑わい、期間中にはペナン州第一副主席大臣 Mohd. Rashid Hasnon氏、糸井総領事、東レ川勝部長、キヤノン登龍社長、USMのLee名誉教授（本学客員教授）等の訪問を受けた。 ・18時からJAGAM北部支部と本学とが共同で、高校生と保護者を対象とした進路説明会をペナン校で開催する。若原教授及びTan特任助教から詳細な説明があり約30名の参加者から多くの質問が寄せられた。
9月19日（月）	・明石高専のマレーシア政府（JPA）派遣留学生が里親である神戸市立高専後援会長の角南氏と一緒に来校する。長尾特任教授と京兼で本学の概要、ペナン校の役割、JPAが抱えているJABEE問題と進路状況などについて話し合いをする。
9月23日（金）	・シャーアラム三水会とペナン三水会の合同研修会及び交流会に参加するため長尾特任教授、京兼でクアラルンプールへ出張をする。第一部はUTM内にあるMalaysia Japan International Institute of Technology（MJIIT）を訪問。MJIITの概要説明後、MOT、機械系、化学系、分析機器室等を見学し意見交換を行う。第二部は外務省の堀江特命全権大使から「地球温暖化に対処するための技術革新」について、防衛省駐在武官の西永一佐から「アジア・太平洋地域の防衛環境」についての講演があり、両者とも大変示唆のある話であった。講演後はペナンおよびシャーアラム両三水会の概要説明と事業報告があり、終了後、講師等と一緒に懇親会を行った。
9月26日（月）	・グローバルサマースクール（GSS）への参加者（中内教授、南教授、塚田コーディネータ、USMとTUTの学生達）がプラウバンディンからペナン校へ到着する。プラウバンディンで体調を崩し、風邪の諸症状のある学生2名を、塚田コーディネータとAngeline氏がLoh Guan Lye病院へ連れて行き受診させ、念のため入院をさせることとした。
9月27日（火）	・グローバルサマースクールに関するペナン校での諸活動が始まる。開講式ではUSMのZalina教授と中内教授から学生たちへ、プラウバンディンで実施したField Work（Research Data）の取りまとめとPresentationについての説明があり、グループに分かれて実施する。昼食後、USMと本学の学生達は引き続きResearch Dataについてグループ討議を進めると共に、色度の相違による怒りや笑いなどの顔表情の認知実験を開始する。また、Field Workとして明日以降に学生達は小学校へ行き、60名の児童に対し認知に関する調査を行こととしている。
9月30日（金）	・中内教授が“Variantor Dichromatic Spectacles”に関する研究内容の講演をTech Domeで行う。

Chung Ling H.S.にて明石高専学生がバティック作製を体験（9月7日）

Lego Robotの組み立てに挑戦する親子（9月16日）

○ペナンだより（第24・25合併号：平成28年11月30日発行）

＜主要活動報告（抜粋）＞

日　付	活動内容等
10月1日（土）	・グローバルサマースクールプログラムによって実施したプラウバンディンでのField Work及びペナン地区でのResearch Workなどについての最終報告会が開催される。本学とUSMの学生たちが役割分担をして行った諸活動に対しグループ毎に発表を行う。終了後、両大学の学生に対して修了証書が手渡され、平成28年度のグローバルサマースクールプログラムは無事に終了した。

日　付	活動内容等
10月2日（日）	・日本人学校の“PESTA BUNGA RAYA”（文化発表会）へ招待され、長尾特任教授と京兼で出席する。文化発表会のテーマは「巻き起こせ感動の嵐を：We are all stars」で、和太鼓演奏から始まり小学1年から中学3年までの児童生徒が一体となって、学年ごとの熱のこもった演劇があり、また同時に絵画、工作、自由研究、立体塑像、木工などの展示発表も行われた。文化発表会の最後は児童生徒全員による合唱で締めくくられ、保護者席から大きな拍手があった。
10月8日（土）	・ひばりクリニック・ペナン分院の開院記念パーティーがHotel Jenで開催され京兼が出席する。200名強の日本人や現地病院関係者が参加していた。ペナン分院の場所はGurney Paragon近くにあり日本人スタッフ等による診察が行われるので、ペナン研修中の学生や教職員の体調管理などへの対応がし易くなるものと期待している。
10月12日(水)	・Wearable Electronics for Medical Devices (MPeranti Project)に関する初会合がペナン校で行われ、USMからFazil教授，Asrulnizam准教授，Chong講師が、CRESTからDr. Norazmi氏、本学からはFong氏、京兼が参加する。会合では、今後の各機関の協力体制と役割分担について意見交換を行う。
10月17日(月)	・NGK Electronics Devicesへ長尾特任教授、Fong氏、京兼で訪問し2名の実務訓練生受入れに対するお礼、実務訓練時の諸手続きと状況などについて説明を行う。NGK Electronics Devicesからは山本晃社長と伴野部長が、本会合にはNGK Globetronics Technologyの山本敦淑社長と大谷相談役が同席し、双方で種々意見交換をした結果、2名の学生はそれぞれNGK Electronics DevicesとNGK Globetronics Technologyで受け入れてもらえることとなった。
10月31日(月)	・マレーシア日本国際工学院（MJHEP）の永川講師等が来校する。長尾特任教授と京兼で教育手法などについて情報交換をした後、Disted Collegeを訪問する。Khor氏から概要説明と学内見学後は、Taiff副学長を交えて本学とDisted Collegeとで進めているTwining Programの参考となり得るカリキュラム、教授法、入学と卒業時の問題、日本語教育、諸課題に関し意見交換を行う。
11月2日（水）	・時習館高校の川村校長と佐藤教諭が、Super Global High School事業の一環として計画をしているペナン研修に関する相談と打合せで来校する。長尾特任教授と京兼で対応をし、種々のアドバイスを行う。
11月3日（木）	・USMのAsma新学長と井上理事・副学長との初顔合わせ及び共同関係を継承し、発展させるための意見交換を兼ねた懇親会をEquatorial Hotelで開催する。USM側からの出席者はSukri副学長、Jantan副学長、Lee学長補佐、秘書室から3名。本学からは長尾特任教授、Lim准教授、黒田室長、Fong氏、京兼が出席した。
11月26日(土)	・馬日協会主催のポットラックパーティーに招待され京兼が参加する。100名強の参加者があり、各自が自慢の料理などを持ち寄り、歌あり踊りありで大変盛り上がったパーティーとなった。本会には糸井総領事ご夫妻が出席されており、天皇誕生日レセプション時の展示内容とアセアン諸国大学学長会議での挨拶等について情報交換を行った。

宣言文を読み上げるUSMとTUTの学生達（10月1日）

Asma新学長(右)と井上理事・副学長（11月3日）

○ペナンだより（第26号：平成28年12月31日発行）

＜主要活動報告（抜粋）＞

日　付	活動内容等
12月1日（木）	・E & Oホテルで開催された天皇誕生日祝賀会に長尾特任教授、Fong氏、京兼で出席する。本学の展示場所は祝賀会場入口の金屏風前であったため、ペナン州 Chief MinisterのLim Guan Eng氏の来場時には、技科大の展示ブースから見学を開始するという栄誉もいただくことができた。また、本学の展示ブースには多様な方々が来てくれ、いろいろな質問が投げかけられた。今年の天皇誕生日祝賀会は企業や各種団体などの展示があり、例年以上に華やかで活気があった。

日　付	活動内容等
12月12日(月)	・ 本日から三機関連携事業の一環として高専機構、長岡と豊橋両技大の職員（6名）のSD研修がペナン校で開始される。初日のオリエンテーションでは、京兼から「グローバル化とペナン校の役割、留学生事情、諸外国大学の海外分校について、企業の海外進出と英語力、三機関連携事業、今後に向けて」について、引き続きFong氏からは「Introduction to Malaysia（マレーシアの歴史、文化と食生活、ペナンの状況、教育制度など)」の講演を行う。午後からはDisted Collegeへ移動して各職場で必要とする実践英語研修を受講する。
12月13日(火)	・ SD研修の二日目はグローバル化についてのワークショップ（WS）を実施する。ファシリテーターは京兼が担当し「大学・高専の職員としてグローバル化を推し進めるためには、組織に対してどのように関わっていくか」のテーマで行う。ワークショップでは職員として何ができるかを考え、グループ討議し全体共有をした後、自分自身は組織の一員として何をしていくのかを宣言文に書いていただいた。最後に一人一人宣言を読みあげて貰い総括を行い、職場で引き続き頑張って欲しいと締めくくった。午後はDisted Collegeのカフェテリアで学生等と昼食を取った後、引き続き実践英語研修を受講する。
12月18日(日)	・ Disted Collegeにおいて両学関係者30名が出席して、本学とのMOU調印式がSeah学長と大西学長との間で執り行われる。 ・ アセアン諸国大学学長会議レセプションがG-Hotel Kelawaiにおいて大学関係者を始め、各機関や企業の代表者など100名が集い盛大に開催された。大西学長、糸井総領事、USM Asma学長、Mini-Circuit Technology（MCT）Kelvin社長の挨拶後、USMの学生によるマレーシア舞踊のパフォーマンスがあり、皆さんは舞踊を鑑賞し、また和やかに懇談するなど有意義なレセプションであった。レセプション会場ではペナン校で実施してきた、4年間の諸行事（IGNITE国際会議、各種国際会議、学部生の実務訓練、グローバルサマースクール、特別推薦学生等のペナン研修、高専生の体験型英語研修等）のポスター展示を行い、これらの行事に対し出席者からは多くの質問が寄せられた。
12月19日(月)	・ アセアン諸国大学学長会議がペナン校で開催される。大西学長の開会宣言及び挨拶、文部科学省国際企画室 堀尾室長補佐から高等教育と日本の役割について、Keynote(1)としてUSMのAsma学長が、Keynote（2）では大西学長から講演が行われた。両学長からはグローバル化の進展に伴い大学に課せられている役割、情報発信、教育研究活動、交流事業についての話題提供があり、今日的な課題が盛り込まれた大変示唆のあるものであった。会議の主要テーマである「Issues & Challenges in Designing Globalization Strategy of University」においては、12大学から事例報告があり、報告に基づき討議と総括があった。午後からのセッションでは、「Issues & Challenges for International Mobility of Students and Faculty members and International Cooperation」に関し、10大学から活動報告があり、これらの報告と活動状況について討議と総括がなされた。今回の第1回アセアン諸国大学学長会議にかかる議長声明の後、プールサイドで集合写真を撮る。
12月20日(火)	・ 大西学長一行（随行者：Lim准教授、黒田室長、前田秘書）はUSMのAsma学長の案内でEngineering Campusを訪問し、材料系学科等の見学を行う。髙嶋教授とTan特任助教は、Jin Sin High School、Chung Ling High School（Penang校)の教員各1名とで本学への入学制度・概要及び日本留学試験（EJU）の日程などについて話し合う。長尾特任教授と京兼は、アセアン諸国大学学長会議へ出席していた高専機構関係者（校長2名、国際交流担当教授3名）と次年度に向けた高専生のペナン実践研修（低学年向け)、体験型研修（高学年向け）について意見交換を行う。 ・ SD研修者（6名）は小池特任教授、余語特任助教、Fong氏と共にUSMのAdministration officeを訪問し、各部署に分かれて担当者と業務や仕事上での問題点などについて意見交換を行う。意見交換会では、小池特任教授と余語特任助教がアドバイザーとして助言しつつ取りまとめの支援を行う。最後に全員で情報共有をする。 ・ 夕方、Jin Sin High School、Chung Ling High School（Penang校)の生徒3名と保護者1名が来校する。髙嶋教授とTan特任助教が本学への留学制度とEJUについて説明を行う。
12月21日(水)	・ 総領事館へSD研修者、長尾特任教授、黒田室長、Fong氏、京兼で訪問する。研修者に対し糸井総領事から「外務省の仕事と海外安全対策」に関する講話があり、主な内容は外務省の組織、大学生等の死亡事例、日本人の犯罪被害、テロ情勢と傾向、外務省の取り組み、大学関係者の皆様へお願いしたいことであった。また、山川領事からはペナン地区及びマレーシアでの犯罪被害、交通事故についての具体例と注意喚起があった。 ・ ポリテクニック校（PSP）へSD研修の一環として、長尾特任教授、黒田室長、Fong氏と研修者6名が訪問する。PSP校からはHj Zulkifli校長を始め副校長2名、各学科長と関係教員が出席。Zulkifli校長からPSPの概要について、SD研修者からは各機関の所属部署に関する説明を行うなど、終始打ち解けた和やかな研修会となった。終了後は軽食とCoffeeが振る舞われ、引き続き懇談が行われた。

日　付	活動内容等
12月22日(木)	・午前のSD研修者に対する講演は、黒田室長から「高等教育機関での国際協力の様々なあり方と事務・技術職員の役割、国際会議など」についてであった。午後からは NGK Electronics Devices へSD研修者4名、黒田室長、Fong氏、京兼で訪問する。山本社長（伴野総務部長が同席）からNGK E.D.の概要と各種製品に関する丁寧な説明があり、その後、工場見学と懇談会を実施する。
12月25日(日)	・ペナン校を利用した「11th International Forum on Eco-technology」が4大学と4高専から20名の参加者のもとで開催される。主催者の開会挨拶後、本学の大門教授からの基調講演後、5件の一般講演及び6件のポスター発表があった。
12月26日(月)	・2日目のEco-technologyは、USMのDr. Puay How Tion准教授（京都大学で学位取得）からの基調講演と2件の一般講演があった。午前中で会議が終了し、参加者はTechnical TourとしてGeorge Town地区の世界遺産巡りを実施した。 ・第2回目の Secure Low Power Wireless Sensors and Mobile Gateway for Electrocardiograph (ECG) Monitoring Systemの共同研究について、USMのFadzil教授とAsrulnizam准教授、本学からは澤田教授、長尾特任教授、Fong氏、京兼とでSkype meetingを行う。共同研究に関し澤田教授からは、「IC Sensor素子を海外へ持ち出すことが規制されている、Proposalには時間がかかる」などのコメントがあり、さらに両者で検討をしていくこととなった。

DISTED College との MOU 調印式の様子（12 月 18 日）

アセアン諸国大学学長会議の様子（12 月 19 日）

○ペナンだより（第 27 号：平成 29 年 1 月 31 日発行）

＜主要活動報告（抜粋）＞

日　付	活動内容等
1月2日（月）	・ペナン空港へ先発組の実務訓練生12名の出迎えに、長尾特任教授、Fong氏、Angeline氏、京兼で行く。学生達は飛行機の遅れはあったものの無事に到着し、8名の学生を長尾特任教授と Angeline 氏で Putra Place Condominium へ、3名の学生をFong氏と京兼でSri Concordia Apartmentへ送り届ける。当該時間帯に空港へはUSMのAsma学長とShukri副学長が所用で来ており、実務訓練やペナン校について話し合う。
1月3日（火）	・後発組の実務訓練生11名を出迎えるため、Fong氏、Angeline氏、京兼でペナン空港へ行く。到着した数名の学生がクアラルンプール（KL）へ入国した際、ビザの関係で行き違いが生じたこと、また2名の学生は手荷物が届かず、KLに荷物があるので後ほど空港会社から届けられるとの報告があった。全員が揃った時点で、1名の学生をFong氏がSri Concordiaへ、10名の学生をAngeline氏と京兼でPutra Placeへ連れて行く。マレーシア留学生1名は家族とともにPutra Placeに到着する。Putra PlaceのCondominiumに入居する日本人学生を連れて、Queens bayのモールへ行き、両替、昼食、当面必要な日用品の買い物をする。Sri Concordiaでは長尾特任教授が加わり、Fong氏と共に学生を連れてGurney Plazaなどで両替、昼食、日用品の購入を行う。
1月4日（水）	・USM IMCC Officeで実務訓練生に対するオリエンテーションが開始される。Mustafa国際交流室長、長尾特任教授の挨拶、USMのBuddy6名と実務訓練生から自己紹介を行った後、IMCCの副室長による「Introduction about USM & Penang」の講話があり、Ice Breakとしてマレーシアダンスやゲームなどを全員で実施する。昼食はIMCCから提供され、午後からはAmirul Shah Md Shahbudin教授によるBusiness Communicationに関する講義が行われた。
1月5日（木）	・実務訓練生に対するIMCCでの講義は、長尾特任教授からグローバル化と海外実務訓練について、Mustafa国際交流室長からEnglish Language (Public Speaking、Presentation and Communication)が行われる。午後からはUSMのBuddyと共にGeorge Townへ体験学習に出かける。

日　付	活動内容等
1月6日（金）	・ Lim 准教授と京兼で IMCC Office へ行き、実務訓練生へ危機管理、各種注意喚起、マレーシア事情について詳細な説明をする。参加学生のうち4名が喉の痛みと体調不良の諸症状があったので、Angeline 氏が Loh Guan Lye 病院へ連れて行き診察を受ける。特に大きな問題はなく全員薬を貰ってペナン校で少し休息をとる。本年、実務訓練先企業の要請で3名の学生が Fong 氏と共に USM 内にある CIMB 銀行で口座を開設する。その後、Fong 氏と京兼は USM 内の Using Biomics Laboratory Testing Services で研修予定の学生を連れて行き、研究室の皆さんへ紹介し、世話になる旨の挨拶等をした後、実験室を見学する。昼食を挟んで長尾特任教授がペナン校から4名の学生を連れてくるが、1名は大事をとって Putra Place Condominium で休養し、3名は講義に参加する。USM と TUT の関係者一同で集合写真を撮った後、本学卒業生である Elimi Abu Bakar 准教授から Engineering English に関する講義が行われた。
1月9日（月）	・ RECSAM へ Fong 氏と京兼で訪問し FD 教員の部屋を確認した後、USM 内の CIMB 銀行で実務訓練生 4 名の書類、IMCC からの LETTER OF ACCEPTANCE を持参し手続きをする。
1月11日（水）	・ USM の School of Industrial Technology へ長尾特任教授、Fong 氏、京兼で表敬訪問をする。学科長の Azhar Mat Easa 教授へ訪問の目的を伝えた後、Hakimi 教授から学科の説明があり、教授からは Eco Technology 関連分野について本学との共同研究などについて言及があった。意見交換後は Hakimi 教授の案内で植物、生物、堆肥資源を生成させる各種実験室を見学する。
1月13日（金）	・ NGK Globetronics で実務訓練中の学生が体調不良のため、ひばりクリニックで診察を受ける。長尾特任教授と京兼で様子を見に行くが、診察結果は腸炎とのことで薬を貰った後、本人の希望で Putra Place Condominium で休ませることにした。
1月15日（日）	・ 佐世保高専教職員 2 名の出迎えと支援で京兼がペナン空港へ行く。少し遅れがあったものの無事に到着し、Cititel Hotel へ送っていきペナン滞在中の予定について情報交換をする。
1月16日（月）	・ FD 研修でペナン入りをする高専教員5名を長尾特任教授、Fong 氏、京兼がペナン空港で出迎え RECSAM へ。入居などの手続きを済ませた後、当面の食事場所と生活必需品を購入するため TESCO を案内する。FD 研修者4名は RECSAM で荷物や部屋の片付けと生活の準備をし、1名は Lim 准教授と Vouk Suites at Mansion One で入居などの諸手続きを進める。 ・ 佐世保高専教職員、長尾特任教授、Fong 氏、京兼は NGK Electronics Devices を訪問し、企業見学に関する打合せを行う。山本社長からは 9 月 27 日の 13 時からの受入れについて快諾を得ると共に、学生への昼食も NGK E.D. で提供いただけることとなった。
1月17日（火）	・ ミネベアへ佐世保高専教職員2名、長尾特任教授、Lim 准教授、京兼で訪問し、企業見学に関し打合せを行う。萩野社長（岡本総務課長が同席）からは、受入れ可能との回答があり、学生の研修に関しては NGK E.D. とほぼ同様な内容となった。また本学の実務訓練については、前向きに検討していただけることとなった。 ・ FD 研修教員のペナン校でのオリエンテーションは 14 時から開始し、最初に京兼から FD 研修の趣旨と意義を述べた後、「グローバル化、ペナン校の役割、企業の海外進出と英語力、高専生のペナン研修、今後に向けて」を、Fong 氏からは「Introduction to Malaysia（マレーシアの歴史、文化と食生活、教育制度、ペナンの状況）」についての講演を行う。講演後は長尾特任教授を交えてペナン校の設備と利用法、交通事情（Taxi の利用法）、明日からの予定と各機関での講義手法などについて話し合う。 ・ 時習館高校の教員 2 名が来校。研修スケジュールの変更による再調整について話し合いをした後、高専教員と一緒に総勢 10 名で懇親会を実施する。
1月18日（水）	・ 第 297 回三水会へ長尾特任教授、京兼で出席する。会議では幹事、事務局からの連絡事項が 6 件あり、総領事館からは本年が日馬国交樹立 60 周年にあたるので、60 周年記念に相応しい様々な事業を進めていきたとの挨拶があった。席上でソニーの永井社長と土橋副社長へ特別推薦学生等ペナン研修時の企業見学について依頼を行う。また、東レの岡田人事課長へは実務訓練生に対する本学教員の中間視察と懇談、若手技術者と特別推薦学生等との意見交換会について社員の派遣をお願いする。
1月20日（金）	・ 時習館高校生徒4名と教員2名、Jit Sin High School 生徒4名と教員1名、長尾特任教授、Fong 氏、京兼でパナソニックを訪問する。駒谷工場長とローカルスタッフ 4 名で対応いただく。総務担当課長から会社概要の説明後、2班に分かれて工場内を見学後、質疑応答を行う。こうした場面では総じて日本人生徒は大人しく、現地の中華系生徒の方が積極的に質問をしており、少なからず考えさせられるものがあった。パナソニックでの見学後は総領事館を日本人グループのみで表敬訪問し、糸井総領事、山川領事と生徒 4 名とで交流事業について懇談を行う。終了後は総領事と領事から生徒への励ましの言葉があった。Jit Sin HighSchool 主催の Farewell Party が開催され、時習館高校関係者と共に長尾特任教授、Fong 氏、Angeline 氏が参加する。

日　付	活動内容等
1月25日（水）	・FD教員5名、長尾特任教授、Fong氏、京兼でPSPを訪問する。この日はインドの収穫祭にあたりMarriappen先生と実行委員の学生が中心となって、インド系学生と共に祝賀セレモニーを開催しており、日本人関係者全員が招待される。学生企画による豊穣を祝った収穫祭は、神への感謝を捧げる舞踊と歌で始まり、サトウキビに吊るした壺に牛乳と米などを入れた炊き込み飯、インド版チェス、カバディ、ハンドペインティングなど盛り沢山の行事があった。14時からはMarriappen先生、電気系、機械系、情報系、ビジネス系の学科長を交えて、FD研修教員の講義内容とFinal Projects支援について詳細を詰める。その後、講義教室と実験室を見学する。また、19時30分から行われた学生達による歌やダンス等のPerformance（PONGGAL FIESTA 2017）にも全員がVIP待遇で招待され、初めて見るインドの舞踏と聞き慣れない歌は大変印象深いものであった。

IMCC Office関係者と実務訓練生
（1月6日）

時習館高校生が総領事館を訪問
（1月20日）

○ペナンだより（第28号：平成29年2月28日発行）

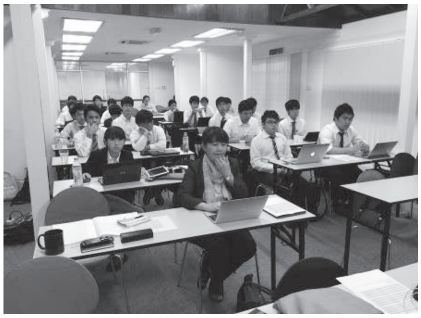
＜主要活動報告（抜粋）＞

日　付	活動内容等
2月2日（木）	・Chung Ling High School（Butterworth）とJit Sin High Schoolへ長尾特任教授、Lim准教授、Tan特任助教で訪問し、本学の概要とSGUプログラム、EJUによる留学、諸経費などについての進路説明会を実施する。両校とも参加生徒数は120名近くで、質疑応答も活発に行われた。
2月3日（金）	・Chung Ling High School（Penang）へ長尾特任教授、Lim准教授、Tan特任助教で訪問し、本学の概要とSGUプログラム、EJUによる留学、諸経費などについて説明を行う。参加生徒数は60名強であり、昨日と同様に生徒からの質問も多くあった。
2月4日（土）	・実務訓練生の中間報告会をペナン校で実施する。療養中の学生を除く23名、中間視察中の教員11名とFD研修教員3名が参加し、学生の発表に関し活発な質疑応答があり、終了後は松田国際教育センター長から講評を含め締めくくりの挨拶があった。
2月6日（月）	・FD研修教員は本日から金曜日までPSPでの講義を開始する。 ・実務訓練生の中間視察でIntelへ松田国際教育センター長、長尾特任教授、Tan特任助教が、Daya CMT、MEI Project、B.L. Tay Architect, Arup Jurundingへ渋澤准教授、村上准教授、Angeline氏が、NGK Globetronicsへ田中教授、小口准教授、京兼が、Torayへ小口准教授と京兼が、AMBUへ手老准教授とFong氏が、Advantestへ北崎教授が訪問し、学生の訓練状況、次年度に向けての意見交換などを各企業の担当者と実施する。
2月7日（火）	・実務訓練生の中間視察でNGK Electronics Devicesへ松田国際教育センター長、長尾特任教授、Tan特任助教が訪問し、山本社長と伴野総務部長へ各種のお礼を述べると共に、次年度に向けた種々の意見交換を行う。 ・Disted Collegeの新春祝賀会へ松田国際教育センター長を始め本学関係者7名が招待される。College本館で爆竹と獅子舞によるセレモニーが終了した後、教職員や招待者と共に昼食を兼ねた懇親会を行う。 ・Japan-Malaysia Technical Institute（JMTI）へ若原教授、Fong氏、京兼で訪問する。JMTIからZaihan校長、JICAシニア専門家の藤森氏、各学科長等幹部職員12名が参加し、若原教授から主に本学への3年次編入について説明をする。JMTIからは編入試験と実施時期、諸経費、奨学金、宿舎（寮）などに関する質問があった。
2月8日（水）	・FD研修中の高専教員の講義を聴講するため、PSPへFong氏と京兼で訪問する。上林准教授は運動量の保存則について、中岡准教授はマーケティング理論入門について、江本准教授からはユニバーサルデザインについて講義を行い、出席した学生（40～70名）は熱心にメモを取りつつ聞いていた。 ・実務訓練生の中間視察でQDOSへ若原教授、長尾特任教授が訪問し、受入れのお礼、担当者と次年度に向けて種々の意見交換を行う。

日　付	活動内容等
2月9日（木）	・ マレーシアはインド系のお祭り Thaipusum のため祝日。実務訓練生の中間視察で Mini-Circuit Technology へ若原教授、内田教授、福田教授、河野准教授、長尾特任教授、Angeline 氏が訪問し受入れのお礼を述べた後、担当者と学生を交え意見交換を行う。 ・ インフルエンザのため休養を取っていた実務訓練生の中間報告会をペナン校で実施する。参加者は本学教員 6名、 FD 研修教員 4 名、学生 16 名であった。終了後は全員で Thaipusum を見学する。
2月10日（金）	・ 実務訓練生の中間視察で Magnibridge へ内田教授、福田教授、長尾特任教授、Fong 氏が、Keysight へ内田教授、河野准教授、Angeline 氏が、Clarion へ福田教授と京兼が訪問し、受入れのお礼を述べた後、各企業の担当者と学生を交え意見交換を行う。 ・ USM の Asma 学長へ井上理事・副学長、長尾特任教授、黒田室長、Fong 氏が表敬訪問し、学長の訪日について話をした後、Shukuri 副学長室へ移動し Farhan 工学部長等を交え Joint Degree Program などについて情報交換を行った。
2月13日（月）	・ 奈良高専の国際交流委員長 松井教授（寮務主事）と学生課教務係の中谷係員が来校し、長尾特任教授、京兼で対応する。主な懇談内容は、ペナン校の役割と国際交流事業、奈良高専及び国立高専機構第 3 ブロックとの連携のあり方、日系企業での海外インターンシップの実績と今後の展開などについてである。情報交換後は、ペナン英語研修や学生交流の参考にするため Disted College を訪問し施設見学を行う。
2月14日（火）	・ FD 研修教員が PTSB で行っている講義を Fong 氏、京兼で聴講する。5 名の教員が同時並行して各セメスターの学生（30 名～80 名）を対象に、関口教授が数学（自然数）、中林准教授が物理（磁性）、山田准教授が音声信号処理、江本准教授がユニバーサルデザイン、中岡准教授がマネージメント工学について講義を行う。何れのクラスとも学生達の反応は大変良かった。 ・ JACTIM ペナン部会へ長尾特任教授と京兼が出席する。萩野部会長（ミネベア社長）、森首席領事の挨拶の後、JETRO 梶田所長、JACTIM 本部久野事務局長から各種連絡があった。講演は 2 件あり、1 件目は JICA シニア専門家の藤森氏から日本マレーシア技術学院（JMTI）の概要と企業との連携について、2 件目は長尾特任教授から本学の紹介、JABEE、電気絶縁技術に関することである。講演後は出席企業（30 社）からの近況報告と懇親会が行われ、三水会と同様に実務訓練生の受入れを依頼する。
2月15日（水）	・ USM の Engineering Campus において Asma 学長から大学の戦略と指針等に関する演説があり、長尾特任教授と Fong 氏が出席する。終了後、Main Campus の Usains Biomics Laboratory Testing Services で実施している実務訓練生の中間視察を行う。担当者に受入れのお礼を述べ、訓練中の課題と今後に向けた意見交換を行う。
2月16日（木）	・ PTSB で FD 研修教員にかかる閉講式があり長尾特任教授と Fong 氏が出席する。冒頭、Noor 校長から感謝の挨拶があり、代表して関口教授の Speech 後、PTSB の幹部教員（約 20 名）と FD 研修教員とで、今回の講義と Final Projects の支援についての緒課題、また次年度に向けて情報共有を行う。
2月17日（金）	・ 実務訓練生の中間視察で National Instruments へ高橋准教授、長尾特任教授、Fong 氏、Angeline 氏、京兼で訪問し、受入れと就職のお礼を述べた後、指導者の Lee Moa Chun 氏と実習状況や諸課題について意見交換を行う。
2月18日（土）	・ ロータリー米山記念奨学会マレーシア支部（学友会）発足に伴って、ペナン校で交流と昼食を兼ねた懇談会を実施する。米山記念奨学会からは小沢理事長、岩邉事務局長を始め、台湾やインドネシアなど海外からのロータリアンを含め総勢 34 名の参加があった。小沢理事長の挨拶、Wong 氏の趣旨説明後、京兼からはペナン校の役割、本学の概要と米山記念奨学生の状況について説明をする。19 時からは Jen Hotel でマレーシア米山学友会の発足式典が開催され、糸井総領事や宗日本人会事務局長を始めロータリー関係者 120 名が集まり、式典後は伝統舞踊や歌などがあり盛大で華やかな宴となった。
2月21日（火）	・ USM での関口教授の講義を中岡准教授、江本准教授、Fong 氏、京兼とで聴講する。数学科の学部学生 30 名を対象にケプラーの法則を例として、2 体問題についてのシリーズものの講義を行う。終了後、江本准教授、Fong 氏、京兼で School of Housing, Building & Planning へ行き、副学科長の Sanusi 教授と Sharifah 教授を交えて講義内容（2 コマ）と共同研究について話し合う。
2月24日（金）	・ 実務訓練生の最終報告会が長尾特任教授からの開会挨拶と諸注意の後、Tan 特任助教の司会で開催される。報告会には企業関係者 5 名、Lim 准教授、FD 研修教員 3 名、京兼が参加し、マレーシア留学生 2 名を含む 24 名の学生が、約 2 ヶ月間の企業での実習活動に関し発表を行う。各教員からの質問に対し学生たちは的確に応答するなど、中間報告時に比べ一段と大きく成長をしていることが伺えた。最終報告会後は、直接お世話になった企業関係者（10 社から 16 名の方が来校）へ、学生手作りの「たこ焼き」を振る舞うなど終始和やかで、かつ感謝の夕食会となった。
2月25日（土）	・ 実務訓練生の新規受入れ企業を開拓するため、長尾特任教授、Lim 准教授、Tan 特任助教がクリム工業団地を訪問し、宿舎や生活環境などについて調査をする。

日　付	活動内容等
2 月 27 日（月）	・ University Teknikal Malaysia Melaka（UTeM）の Chong Kuan 教授が来校し、本学と学術交流を進めたいとの要望があった。UTeM はドイツの大学と Double Degree Program を締結し、タイやインドネシアの大学とも教育・研究交流をしており、本年 9 月には、Manufacturing Engineering 関係の国際会議を大阪で開催するので、この期間を利用して学科長数名で本学を訪問したい、可能であれば FD 研修教員による講義を UTeM でもお願いできないかとのことであった。
2 月 28 日（火）	・ USM での関口先生の講義を中岡准教授、江本准教授、Fong 氏、京兼とで聴講する。数学科の学部学生 30 名を対象にして、ケプラーの法則を例に 2 体問題に関する 3 回シリーズの講義を実施する。本日は導入部分であった。 ・ 日本人会総会が Cititel Hotel で開催され、京兼が出席する。永井会長（ソニー社長）から平成 28 年度の活動と会計報告があり、29 年度の会長に選出された笠谷会長（ルネサス社長）からは活動計画と予算案についての報告があり了承された。特に、笠谷会長から本年は日馬国交樹立 60 周年となるので、記念となる様々な行事を進めていきたいとの抱負の挨拶があった。総会後は懇親会が行われた。

関口教授の講義風景
（2 月 14 日）



海外実務訓練最終報告会の様子
（2 月 24 日）

○ペナンだより（第 29 号：平成 29 年 3 月 31 日発行）

＜主要活動報告（抜粋）＞

日　付	活動内容等
3 月 1 日（水）	・ USM Computer Science の 1 学年 130 名を対象とした、山田准教授の講義を Fong 氏、京兼とで聴講をする。講義内容はフーリエ解析の音声工学への応用であり、学生達は的確に受け答えをし、熱心に聞いていた。引き続き江本准教授の講義を聴講する。講義内容は約 30 名の学生に対して、日本の伝統建築、近代建築と都市計画に関する変遷と設計コンセプトであった。
3 月 3 日（金）	・ SD 研修の一環として USM の東レ Knowledge Transfer Center、本部事務局、IMCC Ofiice を西村次長、山田主任、鈴木係員、Fong 氏、Angeline 氏、京兼とで訪問する。Knowledge Center では副田特任教授から日本文化センターの役割、業務内容等に関する説明等を受け、本部事務局では Lee 学長補佐から USM 全般についての説明があり、その後、事務局長へ表敬訪問をして IMCC へ移動する。IMCC では長尾特任教授が加わり Mustafa 国際交流室長等と本学との交流事業などについて意見交換を行う。午後から長尾特任教授、西村次長、山田主任、鈴木係員、Fong 氏は Engineering Campus を訪問し、学部長や School of Materials & Mineral Resources Engineering の学科長等と懇談をする。 ・ Angeline 氏と京兼は、USM Main Campus で行っている上林准教授の物理系学部生 60 名に対する 4 回シリーズの講義を聴講する。講義内容は加速度などの物理現象に関する微分方程式をパイソンソフトによる計算機上で解を求めるものであった。
3 月 4 日（土）	・ FD 研修者（高専教員 5 名、本学教員 1 名）との意見交換会と修了式を行う。柴田教授の司会で意見交換会が行われ、主な論点は本学での研修の課題と改善点、ニューヨーク市立大学 Queens College における語学教育、専門領域の講義と共同研究、文化交流、生活体験、ペナン研修での問題点についてである。特にペナン研修においては、ポリテクニック校（PSP、PTSB）の対応は良かったが、USM での講義と諸活動に関しては幾つか改善が必要とのことであった。意見交換会後は柴田教授から FD 研修者全員に修了証書を手渡し、記念撮影を行った。休憩を挟んで慰労を兼ねた夕食会（BQQ）を実施し、皆さん打ち解けて寛いだ雰囲気での交流の場となった。
3 月 12 日（日）	・ 鶴岡高専の佐藤教授、武市准教授、学生 2 名と仙台高専の矢島教授が来校し、明日から実施する環境モニタリングについての打合せを行う。 ・ 本日より特別推薦学生等のペナン研修が始まり、ペナン空港で特別推薦学生等 17 名と教職員 3 名を出迎え、U-Hotel で Check in した後、近くのフードコートへ連れていき遅めの夕食を取らせる。

日　付	活動内容等
3 月 13 日（月）	・ 特別推薦学生等のペナン研修が開始される。オリエンテーションでは、京兼からグローバル化とペナン校の役割、副題として世界で求められるグローバル人材について、Fong 氏からは Introduction to Malaysia の題目で、主にマレーシアの歴史、多様な文化と民族、食生活、教育制度、ペナンの状況についての講演をする。午後から学生達は USM の学生と共に 4 班に分かれてワークショップを実施する。
3 月 14 日（火）	・ 特別推薦学生等は USM 学生との文化交流に参加する。各学生の専攻分野を考慮して Main Campus と Engineering Campus に別れて緒行事を実施する。
3 月 15 日（水）	・ 実務訓練生の新規開拓企業として Intel、Philips Lumileds へ長尾特任教授、Tan 特任助教、Fong 氏、Angeline 氏で訪問し、本学の説明と次年度からの受入れについて依頼をする。 ・ 第 298 回三水会へ長尾特任教授、京兼で参加する。会長と総領事の挨拶、諸行事予定及び各種事務連絡、離任者の挨拶の後、MJIIT の石崎教授（芝浦工大から出向）による日本型工学教育とインターンシップ、企業との共同研究についての講演があった。講演会後は懇親会があり、席上で各企業の代表者に対して京兼から改めて離任の挨拶を行う。
3 月 16 日（木）	・ 特別推薦学生等の企業研修として Sony を訪問する。音響機器関連の製造現場見学及び新規開発されたスピーカーやヘッドホーンの試聴を行う。午後からは Mini-Circuits Technology 社で主に研究開発部門の見学を行う。19 時からは日系企業の若手技術者（5 社：8 名が出席）と特別推薦学生等との懇談会が開かれ、学生からの多様な質問に対し示唆のある回答が寄せられた。その後の夕食を兼ねた懇親会では両者から本音の部分などが多く出され、会は大いに盛り上がりをみせた。 ・ Chung Ling High School（Butterworth）で Education Fair があり、長尾特任教授、Lim 准教授、Tan 特任助教、Fong 氏、Angeline 氏が参加する。
3 月 17 日（金）	・ 長尾特任教授、Lim 准教授、Tan 特任助教、Fong 氏、Angeline 氏は、Chung Ling High School（Penang）の Education Fair に参加し、昨日と同様に本学の特徴や進路について説明を行う。 ・ 特別推薦学生等と USM 学生によるワークショップ研修が終了し、各グループの代表者へ Ryan 准教授から修了書を手渡し、締めくくりの挨拶と共に励ましの言葉が送られた。ペナン校での諸行事後、特別推薦学生等は USM の IMCC Office へ移動し、Home Stay 先の Host Family と面談を行って Home Stay 先へ向かう。
3 月 19 日（日）	・ 京兼は 2 年間のペナン校での業務を終え帰国の途に着く。

グローバル FD 修了式にて
（3 月 4 日）

特別推薦入学者等ペナン研修
若手技術者との懇談の様子
（3 月 16 日）

4. その他

(1) 高専生のペナン研修

三機関連携事業の展開として、平成28年度に試行として下記の高専生のためのペナン研修を企画し、実施した。

1) ペナンプロジェクト体験型研修

・期間：8月28日（日）～9月9日（金）（12泊13日）
・参加高専/学生・教員数：明石高専/学生12名、教員1名

この研修プログラムの目的は、現地学生との交流による英会話力、ファシリテーションスキルの向上、国際企業訪問や企業のグローバル展開に関する講演による産業のグローバル化の理解、異なる人種・文化・宗教が共存する現地での異文化理解である。そのため、研修内容は①現地の有名高校で英語による自然科学系授業の受講、②現地生徒とグループを組み、レゴなどを用いた体験型工学演習、③国際企業の工場見学、産業の国際化に関する講演、④世界遺産の町、博物館、歴史的建造物等の異文化フィールドワーク、といった内容で実施し、参加学生からも高専からも大変高い評価を受けた。

2) グローバル研修

・期間：8月28日（日）～ 9月2日（金）（日）（5泊6日）
・参加高専/学生・教員数：鶴岡高専/学生16名、教員2名

この研修プログラムの目的は、多様な文化が共存する現地での異文化体験、現地学生との交流による英会話力の向上、国際企業訪問や企業のグローバル展開に関する講演等による産業のグローバル化の理解である。そのため、研修内容は①現地の有名高校で英語による自然科学系授業受講、②国際企業の工場見学、③産業の国際化に関する講演、④世界遺産の町、博物館、歴史的建造物等の異文化フィールドワーク、といった内容で実施し、参加学生からも高専教員からも大変高い評価を受けた。

3) 海外実務訓練

4高専、計10名の高専生が下記3社にて、ペナンでの実務訓練を行った。本実務訓練は、ペナンにある本学の教育拠点に常駐した京兼特任教授と長尾特任教授が高専教員と連携し、学生の希望を確認しながら企業と調整し、実現したものである。

①実務訓練先：Panasonic (M) Sdn. Bhd.
参加高専/学生・教員数：徳島高専/学生6名、教員1名
期間：8月20日（日）～9月4日（金）（15泊16日）

②実務訓練先：Clarion (M) Sdn. Bhd.
参加高専/学生・教員数：長野高専/学生1名
期間：9月5日（日）～9月16日（金）（11泊12日）

③実務訓練先：NGK Electronics Devices (M) Sdn. Bhd.
参加高専/学生・教員数：北九州高専/学生2名、有明高専/学生1名
期間：9月5日（日）～9月16日（金）（11泊12日）

(2) アセアン諸国大学学長会議

12 月 19 日に、本学主催の「アセアン諸国大学学長会議（ASEAN University Presidents Forum)」を、マレーシア教育拠点（マレーシア・ペナン）にて開催した。

本学は、開学以来、アセアン諸国の大学から多くの留学生を受け入れ、教育研究協力等を行ってきており、本学の開学 40 周年を機に、大学のグローバル化、大学間の国際協力等の課題等を共有することを通じて、アセアン諸国大学との絆を深め、更なる連携強化と相互の発展を目的として開催したものである。この会議には、本学と大学間交流協定を締結しているアセアン諸国大学の学長等が参画し、開学以来、初めての開催となった。

会議には、アセアン 8 ヵ国から 22 大学及び日本から本学、長岡技術科学大学、国立高等専門学校機構が参加し、堀尾文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室室長補佐によるご挨拶及び高等教育政策に関するご講演、大西学長及び Datuk Prof. Dr. Asma Ismail マレーシア科学大学長による基調講演、各参加大学による国際戦略等に関する発表、全体討議が行われ、活発な意見交換が行われた。会議の最後には、Chairman’s Statement が取りまとめられ、本会議での成果の共有を行った。

また，会議前日の 12 月 18 日には、レセプションを開催し、会議参加者に加え、在ペナン日本国総領事館及び在ペナンの日系企業や多国籍企業からも多数の方々にご出席いただき、日頃の本学のペナンでの教育・研究活動への支援に対する謝意をお伝えするとともに、意見交換等を行った。

ＩＧＮＩＴＥの取り組み

1. IGNITE セミナー

IGNITE（グローバル工学教育推進機構）セミナー

IGNITE セミナーは、国際情勢に詳しく、専門知識をもった講師を招き、主に本学の教職員・学生を対象に、途上国への協力に際し必要となる知識の向上、またグローバル化の進展に応じた国際競争力のある教育・研究体制を整えるために必要な情報提供等を目的として開催している。

本年度は 4 回（内 3 回は国際協力センター、内 1 回は国際教育センターにより実施）セミナーを実施した。

- **第 1 回 IGNITE セミナー「メキシコ CIMAV(先端素材研究センター)の紹介と日本人学生のメキシコでのインターンシップ」（国際協力センター担当）**

講師：メキシコ　先端素材研究センター / ナノテクノロジー国立研究所　ホセ マーティン 博士
日時：平成 28 年 7 月 11 日(月)　14：45～16：00
会場：豊橋技術科学大学　IGNITE 棟　105 教室

メキシコ国家科学技術会議傘下 23 の研究所の一つである先端素材研究センター（CIMAV）の概要と活動、産学連携の現状、メキシコでの就学やインターンシップについて紹介。同研究機関も国際的な連携を米国・韓国・ブラジル等の大学や研究機関と積極的に進めており、特に講師が本学の卒業生で日墨の国家間が有効な関係を築いている点から、日本との連携強化を熱望。自動車産業を中心に著しい経済発展を遂げているメキシコにおいても、産学連携による技術開発に積極的に取組んでいるが、日本との連携を進め、更なる発展を期待。メキシコの大学・研究機関は、海外からの学生を受入れることを推奨しており、講師より就学・インターンシップを行う際の生活環境、就学等に際する留意点を紹介。

また、本セミナーでは JICA 日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修で在学していた 2 名の研修員（サン・ファン・デル・リオ大学教員）より、メキシコの文化や日常生活を紹介。

本学学生・教職員・国際協力機関関係者を含め、計 38 名が参加。

ホセ氏の講演

● **第 2 回 IGNITE セミナー「中国と日本の高等教育の相違およびツイニング・プログラム」（国際教育センター担当）**

講師：中国・東北大学　新材料研究院　院長　王磊教授
日時：平成 28 年 9 月 23 日(金)　10：30～12：00
会場：豊橋技術科学大学　IGNITE 棟　105 教室

本学の大学間交流協定校であり、また博士前期（修士）課程におけるツイニング・プログラムを開始することとなった中国・東北大学より、王磊教授を講師に招き、中国の高等教育の現状、日本と中国の高等教育の相違及び中国におけるツイニング・プログラムの実施状況等について、ご講演頂いた。

本学学生・教職員・一般参加者を含め、37 名が参加。

セミナーの様子

王磊教授の講演

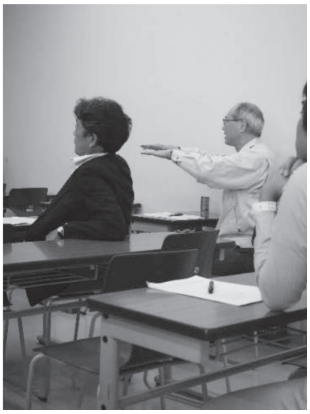
● **第 3 回 IGNITE セミナー「開発途上国に対する高等教育分野の国際協力の現状と課題」（国際協力センター担当）**

講師：独立行政法人国際協力機構(JICA) 人間開発部高等教育・技術教育チーム課長 梅宮 直樹 氏
日時：平成 28 年 10 月 27 日(木)　14：40～16：10
会場：豊橋技術科学大学　A 棟　308 教室

途上国、特にアジアにおいて「知識基盤社会」への移行の必要性から高等教育が急速に拡大。これに伴い高等教育機関の質の低下、格差の拡大が生じていること、またグローバル化の進展に伴い研究者や学生の先進国への流出のみならず、アジア域内での人材の流動化が生じている現状を報告。この現状を踏まえて ODA による高等教育支援として、SEED-NET に代表されるアジア域内や日本とのネットワーク構築型の協力や地域の拠点大学の育成を目指した協力事業が実施されていることを説明。

教職員、学生、一部外部の参加者も含め 27 人が参加。（写真次頁）

梅宮氏の講演



参加者との意見交換

● **第 4 回 IGNITE セミナー「JICA 民間連携事業を活用した産学連携成果の途上国における社会実装」（国際協力センター担当）**

講師：独立行政法人国際協力機構 国内事業部中小企業支援事業課 課長 澁谷 晃 氏
独立行政法人国際協力機構 民間連携事業部次長 兼 計画・管理課 課長 小西 伸幸 氏
豊橋技術科学大学 機械工学系 教授 内山 直樹 氏
日時：平成 29 年 3 月 9 日(木) 16：20～18：00
会場：豊橋技術科学大学 A 棟 209 教室

JICA が ODA を活用し企業が有する技術、産学連携による技術及び製品化の過程（技術/製品の開発・研究等）の海外展開を支援する民間連携事業及び中小企業支援事業の制度と取組みを紹介。その後、JICA の制度である中小企業支援事業を受託し、ベトナムで展開している事業（産学連携：企業と豊橋技科大）における取組みや課題、事業申請に至るプロセスを本学教員と事業を受託した企業の担当者より紹介。企業のニーズと大学のシーズ及び海外での教育研究機関とのネットワークのタイアップによる海外展開の可能性や課題について議論。

本学学生・教職員・一般参加者を含め、計 37 名が参加。

渋谷氏の講演

小西氏の講演

内山教授の講演

2. オープンキャンパス

平成 26 年度までは国際交流センターのみの参加であったが、平成 27 年度より、グローバル工学教育推進機構（IGNITE）として参加している。実施項目等については以下の通りである。

(1) 日時： 平成 28 年 8 月 27 日（土）

オープンキャンパス全体　9：30 受付開始　16：00 終了

IGNITE　10：00 開始　15：00 終了

(2) 実施項目：

① TOEIC に挑戦＆映画を楽しもう

② 世界の文化に触れてみよう（世界の民族衣装＆音楽クイズ、世界のお茶、水かけ祭り）

③ 技科大のグローバル化（ポスターとパンフレットの展示、DVD による活動紹介）

④ 海外の授業手法を経験しよう（iPad を使用した e-learning 教材、KAKEHASHI プロジェクト紹介）

オープンキャンパス総来場者数：2,900 名（H27：2,940 名、H26：2,630 名、H25：2,490 名）

IGNITE イベント参加者総数：202 名　（H27：189 名、H26：222 名、H25：170 名）

(3) 当日参加教職員：

CIR：大門、吉村、村松、ライアン、蒲原、鈴木、アルバイト学生 3 名、ICCEED：余語、CIE：タン

国際課：萩原

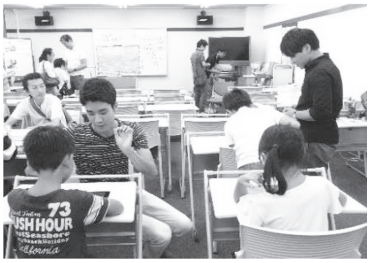
(4) 当日の様子：

TOEIC に挑戦＆映画鑑賞

世界の民族衣装＆音楽クイズ

水かけ祭り

IGNITE の活動紹介



iPad での e-learning 教材体験

◇IGNITE の組織体制

◆グローバル工学教育推進機構委員会委員

委員長	理事・副学長	井上　光輝
副委員長	教授	浅野　純一郎
グローバル工学教育推進機構副機構長	教授	高嶋　孝明
国際協力センター長	教授	穂積　直裕
国際交流センター長	教授	大門　裕之
国際教育センター長	教授	松田　厚範
機械工学系	准教授	中村　祐二
電気・電子情報工学系	教授	若原　昭浩
情報・知能工学系	准教授	栗田　典之
環境・生命工学系	准教授	小口　達夫
建築・都市システム学系	准教授	松井　智哉
総合教育院	准教授	笹尾　洋介
国際交流会館主事	准教授	吉村　弓子
国際課	国際課長	清水　由紀子
国際協力センター	特任教授	小池　誠一
国際教育センター	准教授	Lim Pang Boey

◆グローバル工学教育推進機構構成員

機構長	理事・副学長	井上　光輝
副機構長	国際協力センター教授	高嶋　孝明
国際協力センター	センター長・教授（電気・電子情報工学系兼務）	穂積　直裕
	特任教授（国際教育センター兼務）	小池　誠一
	特任助教	余語　豊彦
	教授（知能・情報工学系）	中内　茂樹
	教授（建築・都市システム学系）	井上　隆信
	教授（情報メディア基盤センター）	井佐原　均
	准教授（機械工学系）	関下　信正
国際交流センター	センター長・教授（環境・生命工学系兼務）	大門　裕之
	准教授	村松　由起子
	准教授	吉村　弓子
	准教授	Ryan Eugene
	特任助教	蒲原　弘継
	助手	鈴木　聖子

国際教育センター	センター長・教授（電気・電子情報工学系）	松田　厚範
	特任教授	京兼　　純
	特任教授	長尾　雅行
	特命教授	梅本　　実
	准教授（電気・電子情報工学系兼務）	Lim Pang Boey
	特任助教	Tan Wai Kian
	教授（機械工学系）	柴田　隆行
	教授（電気・電子情報工学系）	若原　昭浩
	教授（環境・生命工学系）	岩佐　精二
	准教授（環境・生命工学系）	柴富　一孝
	准教授（建築・都市システム学系）	松井　智哉

◆国際課職員（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）

国際課長		清水　由紀子
国際企画係	係長	與語　貴生
	係員	鈴木　　萌
	特命事務職員（H28/11/1～）	鹿子嶋　味佐子
	事務補佐員	河村　修見　（～H29/3/31）
	事務補佐員	城本　美乃里（～H28/8/31）
	事務補佐員	浦本　　咲　（～H29/2/17）
	事務補佐員	小川　志津乃（H28/4/11～）
	事務補佐員	小林　祐子　（H29/2/1～）
留学生係	係長	福村　　静
	主任	萩原　孝明
	係員	梁瀬　美紀
	特命事務職員	村田　もえ
	特命事務職員	河合　智子
	特命事務職員	伊藤　孝子
	事務補佐員	田口　悠里
国際教育支援室	室長・特命事務職員（PO）	黒田　清彦
	専門職員	丸山　憲洋
	専門職員（H29/1/1～）	堤　雅美子
	主任	山田　敏也
	特命事務職員	竹川　清美　（H28/9/1～）
	事務補佐員	仲根　玲子

国立大学法人豊橋技術科学大学
グローバル工学教育推進機構(IGNITE)
国際協力センター(ICCEED)
国際交流センター(CIR)
国際教育センター(CIE)

平成 28 年度　活動報告書

平成 29 年 9 月

編集・発行　豊橋技術科学大学　グローバル工学教育推進機構

〒441-8580　愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘 1－1
TEL　(0532)44-6938
FAX　(0532)44-6935
E-Mail　master@icceed.ignite.tut.ac.jp